

名城大学FD活動報告書

Meijo Faculty Development activity report

平成30年度

名城大学

大学教育開発センター委員会

目 次

1. はじめに

- 平成30年度のFD活動を振り返って…………… 1
大学教育開発センター委員会委員長 安藤 喜代美

2. 平成30年度大学教育開発センター委員会

- 委員構成…………… 3
- 活動記録…………… 6

3. 平成30年度FD活動一覧

(第20回FDフォーラム、第8回FD学習会、平成30年度授業改善アンケート、名城大学教育年報、FD活動報告書、教育功労賞表彰、学外セミナー・研究集会等への派遣) … 11

4. 平成30年度正課外教育活動一覧

(入学前教育、名城サプリメント教育、学習サポートルーム)…………… 17

5. 平成30年度 各学部・研究科等におけるFD取組を推進する組織の活動報告 …… 23

- 法学部・法学研究科
- 経営学部・経営学研究科
- 経済学部・経済学研究科
- 理工学部・理工学研究科
- 農学部・農学研究科
- 薬学部・薬学研究科
- 都市情報学部・都市情報学研究科
- 人間学部・人間学研究科
- 外国語学部
- 総合学術研究科
- 法務研究科
- 教職センター

6. トピックス

- 第20回FDフォーラム実施報告
 - ・第20回FDフォーラム実施報告…………… 87
 - ・所属別参加状況…………… 88
 - ・参加者アンケート集計結果…………… 89
 - ・当日配布資料…………… 97
- FD学習会実施報告（第8回）…………… 115
- 教育功労賞表彰報告
 - ・表彰者一覧…………… 125
 - ・表彰内容…………… 126

7. 資料

- 大学教育開発センター委員会要項…………… 133
- 平成30年度所属別FD活動参加状況…………… 135

8. おわりに

- あ と が き …… 137

1. はじめに

平成30年度のFD活動を振り返って

大学教育開発センター委員会

委員長 安藤 喜代美

はじめに、「FD」(Faculty Development)の定義から振り返ってみることにします。中央教育審議会大学分科会制度・教育部会 学士課程教育の在り方に関する小委員会の審議でまとめられた「用語解説」には、以下のように説明してあります。

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。なお、大学設置基準等においては、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めているが、FDの定義・内容は論者によって様々であり、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。

(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2013/05/13/1212958_002.pdf)

さらに具体例として、「教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催など」が記載されていますが、本学がFD活動として実施している事柄は、他にもあります。その一つに、「授業改善アンケート」があります。この調査は、2000年度から開始され、当時は、「授業評価アンケート」と呼んでいました。しかし、5年後の2005年度には、「授業満足度アンケート」と名称がかえられ、その5年後の2010年度には、現在の名称、「授業改善アンケート」となりました。こうした名称の変更は、FDの意義から考えれば、妥当なことかと思います。本調査は、授業を評価するというものではなく、調査結果を受け各教員が、授業改善に取り組むことが目的となっています。もちろん、質問項目についても、授業改善を目的とする質問に修正し、また、学生自身の授業に対する姿勢についても振り返りができる質問を加えるなど、質問内容そのものも改善を重ねています。さらに、調査票の形式も紙ベースから、2017年度前期にWebへの切り替えを始め、2017年度後期には全面的にWebに変更されました。しかし、Webに変更するにあたり、回収率の低下が懸念され、それは現実として現れ、現在、この回収率を上げることが大きな課題となっています。

二つ目の活動として、「FDフォーラム」の開催があります。2018年度のテーマは、「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」とし、基調講演に大阪府立大学の教育担当副学長高橋哲也教授、事例報告には東京理科大学の教育担当副学長岡村総一郎教授を講師としてお招きし、昨今、教育の可視化の手法として注目されている「学修ポートフォリオ」について、ご講演いただきました。当日の参加者は、昨年度よりも約50%も多く、「学修ポートフォリオ」に対する関心度の高さ、ある

いは「FD」への理解が高まったのかは定かではありませんが、喜ばしいことであり、参加いただいた方々に、お礼申し上げます。

活動の三つ目として「FD 学習会」がありますが、今年度は、まだ、開催に至っていません。しかし、「FD フォーラム」でテーマとした「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」に関連したテーマでの「FD 学習会」を3月に開催しました。講師は情報センター長（薬学部教授）の大津史子先生で、「学修ポートフォリオ」についての基本的な内容、他大学における現状などについてお話ししていただきました。

こうした活動以外にも、当然ですが、4月1日に「新任教職員研修会」を毎年、実施しています。また、ジェイ・サーブやPROGテストのような学修行動調査を全学部（一部の学科）で実施し、その結果が学生の学修成果を可視化する一つの手段となるような試みも進めています。学部・研究科レベルでは、9学部、10研究科それぞれが実施しているFD活動について報告書を書いていただき、この『FD 活動報告書』に掲載しています。

『FD 活動報告書』は、FD活動の媒体でもあり、皆さま方にそれを手にしていただくことが、FD活動のさらなる一歩につながるのではないのでしょうか。

2. 平成30年度

大学教育開発センター委員会

平成30年度 大学教育開発センター委員会委員

所属等	職 名	氏 名	職 名	氏 名
大学教育開発センター長	委員長・教授	安藤 喜代美		
学務センター長	教授	山岸 健三		
法学部	教授	渡邊 互	准教授	仁井田 崇
経営学部	教授	東田 明	教授	柳田 純也
経済学部	教授	折原 卓美	准教授	新井 大輔
理工学部	教授	山田 宗男	教授	坂東 俊治
農学部	教授	大浦 健	准教授	細田 晃文
薬学部	教授	大津 史子	教授	湯川 和典
都市情報学部	教授	杉浦 真一郎	教授	亀井 栄治
人間学部	教授	岡戸 浩子	助教	加藤 昌弘
外国語学部	准教授	柳沢 秀郎	准教授	ウィキン・ポール
総合学術研究科	助教	神藤 定生		
法務研究科	准教授	河北 洋介		
教職センター	准教授	谷口 正明		
学務センター	事務部長	青木 利信		
大学教育開発センター	事務部長	鶴田 弘樹		

大学教育開発センター委員会 専門委員会 分担表

【入学前教育専門委員会（10名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
大学教育開発センター	センター長・教授	安藤 喜代美	委員長
法学部	教授	渡邊 亙	
経営学部	教授	東田 明	
経済学部	准教授	新井 大輔	
理工学部	教授	山田 宗男	
農学部	教授	大浦 健	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	亀井 栄治	
人間学部	助教	加藤 昌弘	
外国語学部	准教授	柳沢 秀郎	

【正課外プロジェクト専門委員会（7名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
理工学部	教授	山田 宗男	委員長
大学教育開発センター	センター長・教授	安藤 喜代美	
法学部	准教授	仁井田 崇	
農学部	教授	大浦 健	
薬学部	教授	湯川 和典	
都市情報学部	教授	杉浦 真一郎	
学務センター	事務部長	青木 利信	

【FD 専門委員会（14名）】

所属等	職 名	氏 名	備 考
大学教育開発センター	センター長・教授	安藤 喜代美	委員長
学務センター	センター長・教授	山岸 健三	
法学部	准教授	仁井田 崇	
経営学部	教授	柳田 純也	
経済学部	教授	折原 卓美	
理工学部	教授	坂東 俊治	
農学部	准教授	細田 晃文	
薬学部	教授	大津 史子	
都市情報学部	教授	亀井 栄治	
人間学部	教授	岡戸 浩子	
外国語学部	准教授	ウィキン・ポール	
総合学術研究科	助教	神藤 定生	
法務研究科	准教授	河北 洋介	
教職センター	准教授	谷口 正明	

平成30年度 大学教育開発センター委員会活動記録

- [第1回 平成30年4月12日(木)]

【審議事項】

1. 副委員長の選出について
2. 平成30年度の活動について
 - (1) 平成29年度大学教育開発センター委員会活動実績について
 - (2) 専門委員会の設置について
3. 平成30年度教育の質向上プロジェクトについて
 - (1) 採択取組及び支援金額の決定について
 - (2) 予算執行計画変更時の対応について
4. 平成30年度院高度化費(充実施策)の使途について
 - (1) 院高度化費(充実施策)の使途及び予算配分額
 - (2) 平成30年度大学院生研究助成(A)の募集
 - (3) 平成30年度大学院生研究助成(B)の募集
 - (4) 平成30年度国際的調査・研究助成の募集
 - (5) 指導教員による申請学生リストの提出
 - (6) 審査方法、審査項目
 - (7) 審査スケジュール
5. 平成30年度学内助成制度の審査分担について

【報告事項】

1. 平成30年度大学教育開発センター配布予算について
2. 平成30年度名城サプリメント教育の実施について
3. 平成30年度新任教職員FD研修の実施報告について
4. 平成30年度「卓越大学院プログラム」の公募について

- [第2回 平成30年5月10日(木)]

【審議事項】

1. 平成30年度前期授業改善アンケートの実施について
 - (1) 平成30年度実施概要・スケジュールについて
 - (2) 設問項目の検討について
 - (3) フィードバック様式について
2. 第20回FDフォーラムの実施について
 - (1) テーマについて
 - (2) 開催日時、場所について
3. 学修行動調査(ジェイサーブ・PROGテスト)の実施について

4. 学部・研究科・センターにおける FD 推進組織の活動について
 - (1) 各学部・研究科等における FD 取組を推進する組織の更新について
 - (2) 共通課題について
 - (3) FD 参加率の向上について
5. 平成30年度名城大学教育年報（教育実践報告）の原稿募集について
6. 全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF）オンデマンド講義の活用について
7. 英語プレゼンテーション講座の実施について

【報告事項】

1. 大学教育開発センター委員会専門委員会の分担について
2. 院高度化費及び教育の質向上プロジェクトの審査分担について
3. 平成30年度大学院生研究助成（A）・（B）、国際的調査・研究助成募集状況について
4. 学外 FD 企画への参加支援について
5. 平成30年度名城サプリメント教育の実施（追加分）について
6. 平成30年度学習サポートルームの稼働について
7. 学務センター学生アンケートの実施報告について

• [第3回 平成30年6月7日（木）] ※メール審議

【審議事項】

1. 平成30年度院高度化費の使途について
 - (1) 配布予算額の確定について
 - (2) 大学院生研究助成（A）・（B）及び国際的調査・研究助成の採択について
2. 学修行動調査の外部調査実施学部について

• [第4回 平成30年7月5日（木）]

【審議事項】

1. 平成30年度前期授業改善アンケートの前期集計結果の公表について
2. 名城大学教育年報（第13号）の構成及び特集記事の原稿募集について
3. 学修成果の可視化を目的とした外部調査の二次募集について

【報告事項】

1. 平成30年度大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の申請について
2. 平成30年度前期授業改善アンケートの中間報告及びスケジュールについて
3. 平成30年度一般補助金「教育の質に係る客観的指標」の導入について
4. 平成30年度私立大学等改革総合支援事業について
5. 第20回 FD フォーラムについて
6. 学習サポートルームのイベント企画について
7. 学習サポートルーム（オープンキャンパス2018）イベント企画について

- [第5回 平成30年9月13日(木)] ※メール審議

【報告事項】

1. 平成30年度(後期)名城サプリメント教育プログラムについて
2. 平成30年度(後期)学習サポートルーム開室について
3. 「教育の質に係る客観的指標」(一般補助)に関わる対応(学修成果の把握)について

- [第6回 平成30年10月4日(木)]

【審議事項】

1. 平成30年度後期授業改善アンケート実施に向けて
 - (1) 前期授業改善アンケート実施報告について
 - (2) 後期授業改善アンケート実施について
2. 平成31年度「推薦合格者入学前オリエンテーション」及び「入学前学習プログラム(MECプログラム)」の運営方法について
3. 第20回FDフォーラムについて
 - (1) 周知依頼について
 - (2) 司会について
4. 平成30年度教育功労賞推薦要項について
5. 各学部・研究科等におけるFD取組を推進する組織の中間報告について

【報告事項】

1. 平成30年度英語プレゼンテーション講座実施結果について
2. 平成31年度文部科学省概算要求について

- [第7回 平成30年10月31日(水)]

【審議事項】

1. 2019年度学びのコミュニティ創出支援事業テーマ6の募集について
 - (1) 募集テーマについて
 - (2) 審査について
2. 平成30年度教育功労賞について
 - (1) 募集について
 - (2) 審査の申し合わせについて
3. 2019年度入学前教育プログラムについて
4. 2019年度新任教職員FDオリエンテーションについて

【報告事項】

1. 授業改善アンケート科目選定の根拠確認について

• [第8回 平成30年12月6日(木)]

【審議事項】

1. 大学院生研究助成の見直しについて
2. 2019年度「学びのコミュニティ創出支援事業」テーマ6の審査について
3. 授業改善アンケート結果データ利用願いについて

【報告事項】

1. 授業改善アンケートについて
 - (1) 2018年度後期授業科目選定及び今後のスケジュールについて
 - (2) 科目選定等の根拠確認について
2. 第20回FDフォーラムの実施報告について
3. 名城大学教育年報(第13号)の応募・編集状況について
4. FD推進組織の中間報告について

• [第9回 平成31年1月10日(木)]

【審議事項】

1. 平成30年度教育功労賞審査について
2. 平成30年度教育の質向上プロジェクト成果報告について

【報告事項】

1. 平成30年度後期授業改善アンケートの実施報告(中間)について
2. 2019年度推薦合格者入学前オリエンテーションの実施について
3. 大学コンソーシアム京都「第24回FDフォーラムについて【3/2(土)、3/3(日)】」の開催案内について
4. 平成30年度FD活動報告書について

【その他】

1. 2019年度「学びのコミュニティ創出支援事業」テーマ6の審査

• [第10回 平成31年3月14日(木)]

【審議事項】

1. 2019年度大学院生研究助成(A)・(B)募集に係る意見聴取について
2. 2019年度名城サプリメント教育希望調査結果及びカリキュラムについて
3. 学習サポートルーム相談員の次年度募集について
4. 学習サポートルームの学生周知について
5. 2019年度入学前学習プログラム(MECプログラム)「日本語表現」におけるレポート提出課題の添削について
6. 平成30年度授業改善アンケートのデータ提供依頼について(理工学部)
7. 平成30年度大学教育開発センター委員会の活動総括について

【報告事項】

1. 2018年度名城サプリメント教育の実績報告について
2. 2018年度学習サポートルームの実績報告について
3. 2019年度 推薦合格者入学前オリエンテーション及び入学前学習プログラム（MEC プログラム）結果について
4. 平成30年度後期授業改善アンケートの実施報告について
5. FD 刊行物の編集状況について
 - （1）名城大学教育年報
 - （2）FD 活動報告書
6. 平成30年度教育の質向上プロジェクトの成果報告書について

3. 平成30年度 FD 活動一覧

平成30年度 FD 活動スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大学教育開発センター委員会	★ 第1回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第2回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第3回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第4回 大学教育 開発センター 委員会		★ 第5回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第6回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第7回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第8回 大学教育 開発センター 委員会	★ 第9回 大学教育 開発センター 委員会		★ 第10回 大学教育 開発センター 委員会
授業改善アンケート				↑ 授業改善 アンケート 実施	★ アンケート結果 フィードバック					↑ 授業改善 アンケート 実施	★ アンケート結果 フィードバック	★ アンケート調査 結果報告書発刊
教育年報					教育年報投稿募集					教育年報刊行作業		★ 教育年報発刊
FD FD FD 学習会								★ 第20回FDフォーラム				★ 第8回FD学習会
教育功労賞										↑ 教育功労賞 候補者募集	★ 審査	★ 教育功労賞表彰

平成30年度 FD 活動一覧

1. 第20回 FD フォーラム

日 時：平成30年10月31日（水） 13：30～16：00

テ ー マ：学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ

参加者数：153名

プログラム：

基調講演 「学修ポートフォリオによる学修・教育支援の取り組み」

大阪府立大学 高等教育推進機構 教育担当副学長 高橋 哲也 教授

事例報告 「東京理科大学における学修ポートフォリオの活用事例について」

東京理科大学 教育担当副学長 岡村 総一郎 教授

2. FD 学習会

【第8回】

日 時：平成31年3月14日（木） 13：00～14：30

テ ー マ：ポートフォリオの活用とアクティブラーニングの評価

参加者数：54名

講 師：名城大学 薬学部・情報センター長 大津史子教授

3. 平成30年度前・後期授業改善アンケート

- 実施期間：前期…平成30年6月26日～平成30年7月21日

後期…平成30年12月11日～平成31年1月11日

- 対象科目：

学部の授業を担当する専任教員及び非常勤講師を対象とし、昨年度（平成29年度）前・後期にアンケートを実施した授業科目において実施した。昨年度の対象科目がない場合は、担当授業科目のうち、最も履修者数が多い授業科目において実施した。（ただし、体育科目、オムニバス形式の科目、実験・実習・演習科目、履修者数が10名未満の科目は除く）

実施科目数は前期769科目（学生回答数：延べ 22,885件）

後期763科目（学生回答数：延べ 17,094件）

- 概 要：

学生の授業に対する意見を把握し、改善点・要望事項を把握するとともに、調査結果を今後の授業改善の一助とするために実施した。

全対象科目のアンケートを Web 上で実施しており、集計結果は教員個人にフィードバックし、授業改善に必要な情報として活用されている。また、学部単位における FD 活動を推進する際に活用する材料として、強みと弱みを明確にした分析結果を報告書として取り纏め、全教員に配布し、授業改善の素材として活用している。

4. 名城大学教育年報第13号発刊

- 発刊日：平成31年3月
- 発行部数：700部
- 概要：

本学における教育活動の研究・実践活動を共有・蓄積し、広く教育の質の向上に資することを目的として、教育実践報告の募集、教育功労賞受賞者及びFDフォーラム講師による特別寄稿を依頼した。

全教員及び各部局に配布し、他大学にも送付する（本学ホームページ上にも公開）。
教育年報の種別・内容等は次のとおりである。

	定義
教育実践報告	教育実践を対象とした取り組みで、本学及び他の大学の学部・研究科・センター・部署の参考になるような報告
特別寄稿 ※	(1) 教育功労賞受賞者による特別寄稿 (2) FDフォーラム講師による特別寄稿
教育実践報告の投稿資格	名城大学の教職員（教員・事務職員）。本大学の教育に携わる他大学等の教育職員（非常勤講師）の投稿も可。退職者については退職後3年以内を目安とする。

※これらの定義は現時点で想定している事例であり、必要に応じて追加する。

第13号では、教育実践報告については内容の確認を経て、6報告を掲載。教育功労賞受賞者による特別寄稿2件及びFDフォーラム講師による特別寄稿1件を掲載した。

5. 平成30年度FD活動報告書発刊

- 発刊日：平成31年3月
- 発行部数：250部
- 概要：

平成30年度の本学におけるFD活動をまとめたもので、大学教育開発センター委員会の活動報告や第20回FDフォーラムの報告を掲載した。本学の各部局に配布し、他大学にも送付する（本学ホームページ上にも公開）。

6. 教育功労賞表彰

・概 要：

大学教育開発センター委員会では、教職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した専任教員またはグループ（事務職員を含む）に教育功労賞を授与することとしている。今年度は、計2件の申請があり、大学教育開発センター委員会による審査の結果、いずれも相応しい内容であることから、表彰すると共に本報告書に活動内容を記載し、周知を図ることとした。

平成30年度教育功労賞取組一覧

氏 名	所属学部等	単独／グループ	表彰対象となった活動・テーマ
メカトロニクス工学科 教材開発ワーキング グループ	理工学部	グループ	IPBL 実現に向けた実験・演習 カリキュラム策定と装置製作
基礎演習 I FSP チーム	外国語学部	グループ	基礎演習 I Future Skills Project の 21世紀型学習者育成の教育効果

7. 学外セミナー・研究集会等への派遣

【大学教育開発センターの予算執行分のみ掲載】

No.	開催日	企画名称	主催機関	派遣人数
1	平成30年4月25日	Quacquarelli Symonds 大学改革シンポジウム 「世界の舞台における日本の大学 ～世界大学ランキングがもたらすもの～」	Quacquarelli Symonds Intelligence Unit	1名
2	5月16日	教育ITソリューションEXPO	リードエグジビションジャパン 株式会社	1名
3	6月9日～10日	大学教育学会第40回大会	一般社団法人 大学教育学会	1名
4	6月16日	全国私立大学FD連携フォーラム 設立10周年記念シンポジウム	全国私立大学FD連携フォーラム	1名
5	7月12日	名古屋大学高等教育研究センター 第151回招聘セミナー	名古屋大学高等教育研究センター	1名
6	8月3日	FDフォーラム企画打合せ・高等教育推進機構 訪問調査（大阪府立大学）	—	3名
7	8月27日	平成30年度 大学・短期大学スタディープログラム	公益財団法人 大学基準協会	1名
8	9月14日	大学IRコンソーシアム勉強会 第12回 EMIR 勉強会	大学IRコンソーシアム	1名
9	10月9日～11日	平成30年度（通算第56回）大学教務部課長相当 者研修会	一般財団法人 私学研修福祉会	1名
10	10月12日	第5回 教育基盤連携本部セミナー	名古屋大学 教育基盤連携本部	1名
11	10月13日	2018年度第3回 大学行政管理学会関東地区研 究会	一般社団法人 大学行政管理学会	1名
12	12月3日	大学改革支援・学位授与機構シンポジウム	独立行政法人大学改革支援・学 位授与機構	1名
13	12月14日	茨城大学・東日本国際大学 合同FD研修会 AP事業「学習成果アセスメントと教育改善 ～国際的視点から」	茨城大学全学教育機構 AP事業 推進室	1名
14	平成31年2月15日	認証評価における訪問調査（関西大学）	—	2名
15	2月20日	大学教育再生加速プログラム シンポジウム 「社会が求める高等教育の質保証を考える」	大学教育再生加速プログラム テーマⅡ・テーマⅤ 採択校	1名
16	2月27日	2018年度 第2回 University Development セミ ナー「大学におけるライティング支援」	金沢大学国際基幹教育院高等教育 開発・支援系／部門	1名
17	3月1日	平成30年度 私立大学等改革フォーラム	日本私立学校振興・共済事業団	1名
18	3月2日	FD・SD 公開研修会 「大学の特色を活かした入試改革と学修成果の 可視化－第3期認証評価を見据えて－」	藍野大学FD運営部会	1名
19	3月2日～3日	2018年度 第24回FDフォーラム 大学におけるダイバーシティ	公益財団法人 大学コンソーシアム京都	2名
20	3月9日	大学教育改革フォーラム in 東海2019	大学教育改革フォーラム in 東海 2019実行委員会	4名

4. 平成30年度 正課外教育活動一覽

平成30年度正課外教育活動一覧

1. 入学前教育

(1) 概要

本学の推薦入試等合格後、学習習慣を維持するとともに、入学後に大学での学習を円滑に開始するための一助とすることを目的とした教育プログラム。

主な内容として、①推薦合格者入学前オリエンテーション（入学する学部の教員等との交流の機会を持ち、今後の学習の厳しさを伝えとともに、入学後の姿をイメージさせることで高校生から大学生への転換を図る）、② MEC プログラム（自宅学習＋スクーリング）で構成される。

≪ MEC プログラム開講科目 ≫ 【表の見方】 ◎ … 学部推奨 ○ … 開講 — … 未開講

MEC 開講科目		経営学部	外国語学部	人間学部	都市情報学部	理工学部	農学部	薬学部
科目名	主な学習内容							
Reading I (初級)	平易な中文・長文読解 英検準2級～2級レベル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—
Reading II (中級)	中文・長文読解など 英検2級レベル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—
英語の基礎	高校で学ぶ英文法基礎 英検3級～準2級レベル	◎	—	◎	◎	◎	◎	—
日本語表現	大学で必要となる 「読む・書く」の基本	◎	◎	◎	◎	◎	—	—
数学(文系)	数Ⅰ・A、数Ⅱ・Bまで 四則計算、統計など	◎	—	◎	◎	—	—	—
数学(理系) ＜基礎＞	三角関数、微積など 数Ⅰ・Ⅱが不得意な人	—	—	—	—	◎	○	—
数学(理系) ＜応用＞	三角関数、微積など 基礎力を高めたい人	—	—	—	—	◎	○	—
数学(薬)	数Ⅱ、数Ⅲ 関数の極限、微積など	—	—	—	—	—	—	◎ 未履修者中心
物理(理系) ＜基礎＞	力学・運動方程式など 物理基礎が未履修・不得意な人	—	—	—	—	◎	○	—
物理(理系) ＜応用＞	力学・運動方程式など 基礎力を高めたい人	—	—	—	—	◎	○	—
物理(薬)	力学・運動方程式など	—	—	—	—	—	—	◎
化学	電子配置、化学結合など	—	—	—	—	◎	◎	—
生物	細胞、遺伝子、呼吸など	—	—	—	—	—	◎	◎ 未履修者中心

※1 上記から2科目選択。

※2 法学部・経済学部は、MEC プログラムは未開講（オリエンテーションのみの実施）。

(2) 参加者数及び実施日程

①推薦合格者入学前オリエンテーション：801名（平成30年1月7日実施）

② MEC プログラム：545名

（スクーリング期間：平成30年3月7日～9日、3月12日～14日のいずれか一方に出席）

(3) 参加者アンケート結果（一部抜粋）

① 推薦合格者入学前オリエンテーション

【オリエンテーションの満足度】

法学部：98.6%	経営学部：97.9%	経済学部：99.0%	理工学部：97.4%
農学部：98.3%	薬学部：100%	都市情報学部：100%	
人間学部：100%	外国語学部：99.0%		

【自由記述】

- ゼミでの活動や自身の目標をどこに置くべきなのかを知ることができた。
- 入学前に大学の詳しいことをたくさん知れて、実際に先輩方の話も直接聞けたから。
- 大学生活について詳しい事を知れて、学習意欲が高まったから。
- グループワークが新鮮で、とても良かったから。

② MEC プログラム（自宅学習）

【自宅学習への満足度】 83.3%

【採点・コメント対応】 94.2%

【学力（理解度）の向上】 85.5%

【自由記述】

- 自分がどの分野が苦手なのかを知るいい機会になったから。
- 高校の学習を見直すことができた。
- 入学前にもっとしっかり復習しておかなければいけないと思えた。
- 間違えた問題への添削が丁寧で、どこで間違えたのかがよく分かったので、復習や自分での補強がしやすかった。

③ MEC プログラム（スクーリング）

【スクーリングへの満足度】 96.2%

【学力（理解度）の向上】 92.1%

【大学での学びに自信が持てたか】 68.9%

【楽しく学べたか】 93.3%

【この科目が好きになったか】 84.3%

【この科目をもっと勉強したいと思うようになったか】 91.7%

【自由記述】

- 基礎的なことを学習でき、自信がついたから。
- 難しいと思っていた問題が自分で解けるようになったから。
- 未履修の科目を学べたから。
- 基礎的な部分から再確認ができた。

2. 名城サプリメント教育

(1) 概要

高等学校段階において未履修、もしくは受験科目の関係で学習が不十分な教科・科目のうち、本学の専門教育の履修の上で特に重要な諸单元について補習を行うことによって、正課における学修の充実を図る教育プログラム。

《開講科目》

科目名称	開講期・曜日・時間（キャンパス）		実施回数
日本語表現	前期	木曜日 16:30～18:00（天白キャンパス）	8回
		金曜日 16:00～17:00（ナゴヤドーム前キャンパス）	8回
	後期	木曜日 16:30～18:00（天白キャンパス）	12回
		金曜日 16:30～17:30（ナゴヤドーム前キャンパス）	11回
化学	前期	火・金曜日 17:00～19:00（天白キャンパス）	16回
	後期	火・金曜日 16:30～18:30（天白キャンパス）	24回
生物	前期	火・木曜日 17:00～19:00（天白キャンパス）	16回
	後期	火・金曜日 16:30～18:30（天白キャンパス）	24回
数学	前期	月曜日 18:30～20:00（天白キャンパス）	8回
		水曜日 16:30～18:00（天白キャンパス）	8回
	後期	月・水曜日 16:30～18:00（天白キャンパス）	23回
薬学部向け数学	前期	月曜日 16:30～18:00（八事キャンパス）	10回
薬学部向け物理	前期	水・木曜日 16:30～18:00（八事キャンパス）	20回

《実施期間》

前期：平成30年4月10日～6月27日

後期：平成30年9月25日～12月21日

(2) 参加者延べ数（実数）

1005名（181人）

(3) 受講者の感想

【日本語表現】

- ・引用と参考の区別がまだ少しうやむやなので、それについての説明も欲しい。
- ・アカデミックジャパニーズと言う言葉を初めて聞き、レポートで使う言葉と日常で使う言葉を区別出来るようになって良かった。木曜日だと1年生（法）は全休の人が多いため曜日を変更したほうが良いと思った。
- ・アカデミックジャパニーズ（大学で使う日本語）についてさらに知ることができた。今後の

レポート課題などで使用していきたいと思った。まだ自分においても覚えきることができていないため使用しながら慣れていきたいと感じた。レポートの書き方には、自分が想像していたよりも非常に多くの気をつけるべきことがあるため、このような機会に学んでおくことが大変力になると感じた。

- 初めてのレポート作成ということで難しく考えていたのですが先生が優しく丁寧に教えてくれ、とても分かりやすかったです。また一から少しずつ進めていくので自分のペースで進められ、気軽に受講できました。
- 今回はレポートをよりよくするタイトルのアドバイスがもらえたのでよかった。レポートの構成を少し変えるだけで大きく変化するのだなと思った。

【化学】

- ベンゼン環の問題と酸化還元反応式をやってほしいです。
- また環境基礎理論について教えていただきたいのですがよろしいでしょうか。
- 予定を一部変更することができますか。有機化学中心のスケジュールを組んだりすることができますか。
- 濃度計算の問題（密度なども使う）をたくさん解きたいです。
- 高校でやったことの + a が学べて面白かったです。物理に近い話もあってそこは難しかったです。

【生物】

- 浸透圧の仕組みについて理解することができました。動物細胞の浸透圧より植物細胞の浸透圧の方が複雑でしたが、最後にホワイトボードを使って説明でき、良かったです。
- タンパク質の構造について復習することができました。酵素のグラフのところの理解が深まりました。次回は遺伝の授業をお願いします。
- 今日学んだことをしっかりと復習して、身に付けたいと思いました。
- 高校で習ったことだと思っていたが、思っていたよりも忘れていたことが多くて少し焦った。
- 難しい内容だったけど少人数だったこともあり、とても丁寧に分かるまで教えてくれてすごく分かりやすかったです。また受けたいと思いました。

【数学】

- 自分に合ったレベル、目標に対して授業をしてくれるのでとても有意義な時間になった。
- 非常に分かりやすく説明していただき、本当にありがとうございます！

3. 学習サポートルーム

(1) 概要

学習の意欲や方法に関して特に問題を抱え、積極的かつ効果的な形で正課の学習に参加できていない学生を対象に、直面する諸問題の解決をアシストすることを通して、学生自身が自立した学習の意欲・方法を身につけ、充実した学生生活が送れるようにサポートする相談窓口。

《開室時間帯》

天白キャンパス	前期	月曜日10:40～18:00、火曜日13:10～19:40、 水曜日13:10～19:40、木曜日10:10～19:40、 金曜日10:40～18:00
	後期	月曜日10:50～18:00、火曜日11:40～19:40、 水曜日13:10～19:40、木曜日14:50～19:40、 金曜日10:40～18:00
ナゴヤドーム前 キャンパス	前期	火曜日11:50～13:20、水曜日14:50～16:20、 木曜日10:50～13:50、金曜日15:00～16:00
	後期	月曜日12:30～15:30、火曜日14:50～16:20、 水曜日13:10～14:40、金曜日15:30～16:30

(2) 利用者数（延べ数）

【天白キャンパス】

1. 利用者数推移（延べ数） (人)

前期（5/14～7/20）				
5月	6月	7月	小計	
3	23	30	56	
後期（9/25～12/21）				
9月	10月	11月	12月	小計
2	7	4	4	17
合計（実数）				73（20）

2. 利用者数（学部別・延べ数） (人)

法	経営	経済	理工	農
2	25	5	22	19

3. 利用者数（学年別・延べ数） (人)

1年	2年	3年	4年	大学院生
50	15	8	0	0

4. 利用目的 (回)

相談内容	回数
レポートについて	7
計算問題等について	6
就職活動について	2
卒業論文について	1
その他（詳細不明）	57

【ナゴヤドーム前キャンパス】

1. 利用者数推移（延べ数） (人)

前期（5/14～7/20）				
5月	6月	7月	小計	
3	1	6	10	
後期（9/25～12/21）				
9月	10月	11月	12月	小計
0	6	8	3	17
合計（実数）				27（25）

2. 利用者数（学部別・延べ数） (人)

都市情報	人間	外国語
0	25	2

3. 利用者数（学年別・延べ数） (人)

1年	2年	3年	4年	大学院生
2	11	3	11	0

4. 利用目的 (回)

相談内容	回数
レポートについて	4
機器の利用方法について	3
卒論について	3
その他（詳細不明）	17

(3) 相談内容

- 授業で課されたレポートの書き方について（情報整理の仕方、引用方法）
- 就職活動についての相談
- 卒業論文の書き方、実験の手順についてのアドバイス
- 情報理論の問題についての質問
- 数学の計算過程、数Ⅰ・数Ⅱについての質問
- 考察の仕方

(4) 2018年度オープンキャンパスにおける学習サポートルーム企画について

学習サポートルームの場所や内容の周知（高校生・保護者、協力する在学生を対象）を図ることを目的として、ナゴヤドーム前キャンパス（7/28、29）及び天白キャンパス（8/4、5）で実施されたオープンキャンパスにおいて、学習サポートルームを活用したイベントを開催した。

企画内容及び参加者数については、以下の通りである。

日程	会場	企画内容	参加者数	内訳	合計
7月28日（土） ※台風接近のため 11：30で終了	ナゴヤドーム前 キャンパス	気軽に書ける小論文	①10：00 ②11：00	14名 13名	27名
7月29日（日）		自分のタイプを知ろう 初めての自己分析	①10：00 ②11：00 ③13：00 ④14：00	8名 10名 9名 11名	38名
8月4日（土）	天白キャンパス	気軽に書ける小論文	①10：00 ②11：00 ③13：00 ④14：00	15名 15名 16名 11名	57名
8月5日（日）		自分のタイプを知ろう 初めての自己分析	①10：00 ②11：00 ③13：00 ④14：00	12名 19名 23名 8名	62名

5. 平成30年度
各学部・研究科等における
FD 取組を推進する組織の活動報告

各学部・研究科等における FD 取組を推進する組織一覧

学部	推進組織名	推進組織構成メンバー
法学部	FD 委員会	法学部長、協議員、大学教育開発センター委員（教務委員、学生委員の兼任を含む）
法学研究科	FD 部会	修士課程部会構成員全員
経営学部	GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD 委員会	経営学部長、経営学部協議員、キャリア委員、教務委員、FD 委員、担当委員
経営学研究科	教育制度改革委員会	経営学部長、経営学部協議員、経営学科長、国際経営学科長、主任教授、FD 委員、教務委員
経済学部	経済学部 FD 委員会	経済学部長、経済学科長、教務委員、経済学科委員 産業社会学科長、教務委員、産業社会学科委員 FD 委員
経済学研究科	経済学研究科 FD 委員会	研究科長、主任教授、研究科委員
理工学部	教育改善委員会	委員長（学部長指名）、学科委員（11名）、教養教育委員（1名）、物理教室委員（1名）、理工学部教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員（理工学部2名）、理工学部事務職員（2名）、必要に応じて委員長が指名する委員（若干名）
理工学研究科	教育改善委員会 （大学院教育 WG）	委員長（研究科長指名）、専攻委員（11名）、教養教育委員（1名）、物理教室委員（1名）、理工学研究科教務委員長、学部評価委員長、大学教育開発センター委員会委員（理工学部2名）、理工学研究科事務職員（2名）、必要に応じて委員長が指名する委員（若干名）
農学部	農学部 FD 委員会	農学部 FD 委員を中心とする農学部関係教職員 （生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科の各学科会議および農場教員会議を分科会と位置づける）
農学研究科	農学研究科 FD 委員会	農学部戦略委員会の大学院担当委員を中心とした農学研究科関係教職員
薬学部	薬学部 FD 委員会	FD 委員長 大津史子、協議員、教務委員長、学生委員長、就職委員長、国試・CBT 対策委員長、教育開発センター長 教務係事務職員 1 名
薬学研究科	大学院薬学研究科 FD 委員会	薬学研究科主任教授、FD 委員 2 名、大学院担当事務職員 1 名。委員長は薬学研究科主任教授を充てる。
都市情報学部	都市情報学部 FD 委員会	FD 委員長、FD 委員、担当事務職員 1 名
都市情報学研究科	大学院学務委員会	大学院主任教授、大学院学務委員、担当事務職員 1 名
人間学部	人間学部 FD 委員会	FD 委員長、学務委員長 2 名、FD 委員 3 名、教務事務職員 1 名
人間学研究科	人間学研究科 FD 委員会	FD 委員長（主任教授）、FD 委員 2 名、教務事務職員 1 名
外国語学部	外国語学部 FD 委員会	FD 委員会委員長、FD 委員会委員
総合学術研究科	総合学術研究科教育検討部会	◎田中義人 教授、○伊藤康児 教授、高倍昭洋 教授、 原田健一 教授、志村ゆず 准教授、景山伯春 准教授
法務研究科	法務研究科 FD 委員会	委員会は、研究科委員会で選出された委員で組織する。
教職センター	教職センターFD 推進委員会	曾山 和彦（教授・教職センター長） 谷口 正明（准教授・大学教育開発センター委員会委員）

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 法学部 ）
推進組織名（ FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

平成30年度においては、「学生の現況にかかる情報、ならびに授業運営の知識と経験の共有化を図ることで、教育の改善と充実を目指す」という活動目標のもと、前年度に引き続き、初年次教育に関連する活動に重点的に取り組んできた。以下、今年度の活動の概略を示しておきたい。

1) 初年次教育研究会の開催

法学部では、質の高い初年次教育のあり方を集中的に議論するための研究会（初年次教育研究会）を3年前から定期的で開催しており、成果を挙げつつある。今年度は、a) 初年次生の文章作成能力の現状分析とその結果の共有、b) 授業へのフィードバックにかかる方策の検討、という従来からのテーマに加えて、c) 文章能力向上の成果をいかに学生に実感させ、さらなる学びへと促すか、というテーマについても議論を重ねた。その上で、今までの成果と課題を取りまとめ、来年度につなげていくという体制を整えている。【←①学生の学修成果を可視化する取組、②その他学部独自の取組】

2) 小論文講評会の開催

「学びのコミュニティ創出支援事業」と連動させる形で、初年次生を対象にした小論文課題を実施し、その講評会を7/20と1/11に開催した。また、この活動によって、学生の文章作成能力が実際に向上していることを確認することができた。【←②その他学部独自の取組】

3) 文章作成講習会の開催

6/21に文章作成講習会を実施し、40名ほどの学生が参加した。良い文章とは何かというテーマをめぐって、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れつつ学生の議論を促し、そこに教員も加わった。講習会に参加した学生にアンケートをとったところ、「講習会に参加することによって、何が不足していたのか、何が必要であるのかを理解できた」という回答が多く見られた。このことから、学生が自らの学修成果を見直し、次の課題に向き合うきっかけとすることができたのではないかと自己評価している。【←①学生の学修成果を可視化する取組、②その他学部独自の取組】

4) 授業にたいする取り組みと教員業績の関連のあり方について

授業にたいする取り組みを教員業績にどのように反映させるかという議論を進めていくなかで、法学部としてどのような授業をより高く評価すべきなのかということについて意識の共有を図った。とりわけ、アクティブ・ラーニングや学修成果の可視化について、忌憚のない意見をか

わすことができた。【←①学生の学修成果を可視化する取組、②その他学部独自の取組】

5) 外部機関を用いた学生意識調査の実施

大学教育開発センターの協力を得て、ジェイ・サープが提供する学生意識調査を10月に実施した。その結果、本学部学生は自発的に行動することを苦手に行っていること、授業に対する満足度それ自体は高いこと、コンピュータ操作を苦手に行っていることなどが判明した。この結果を踏まえ、今後のあり方について学部内で広く議論を行った。【←①学生の学修成果を可視化する取組、②その他学部独自の取組】

6) 学部独自の初年次生アンケートの実施

初年次生が学生生活の何に困難を覚えているのかを調査すべく、学部独自の初年次生アンケートを11/16に実施した。今後も継続して本アンケートを実施することにより、FD の効果が上がっているのかどうかを計測できるような体制を整えた。

7) フィールドワーク実習の実施

フィールドワーク実習として、前期と後期に海外研修（中国、台湾）や裁判傍聴（名古屋地裁・高裁）、県庁見学を事前・事後学習も含む形で実施した。【←②その他学部独自の取組】

8) 各種セミナー、シンポジウムの取り組み

前年度と同様、法文化セミナー（前期と後期に実施）や各種シンポジウムを実施した。【←②その他学部独自の取組】

2. 今後の課題、方向性

今年度の活動は、次年度以降も継続したFD活動を実施できるようにするための体制を構築することに重点を置いた。外部機関による学生意識調査や、学部独自の初年次生アンケートは、今後、FD活動の効果を測るためのベンチマークとして活用されることになる予定である。

本学部においては、FD活動、とりわけ初年次教育研究会を中心とした活動が定着しつつあり、教員間の授業運営にかかる意識と知識の共有はかなりの程度において進んできている。他方、学修成果の可視化については、どのように学部で実施していくべきかについての方法論が十分に定まっているとは言えない。「学生自身による到達度の確認と課題の把握」を促すために、現在、文章作成講習会においていくつかの実験を行っている最中である。来年度はその成果を踏まえて、より具体的な取り組みの像を提示することができればと考えている。

したがって、基本的には大きく体制を変化させることなく、これまでの成果をさらに発展させる方向での活動を行いたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年10月11日	授業にたいする取り組みと教員業績の 関連のあり方について（教授会）	法学部所属全教員ならびに職員
2	平成30年10月18日	初年次生の文章作成能力向上について （第1回初年次教育研究会）	【教員】 近藤学部長・伊川協議員・ 仁井田 FD 委員・植木・北見・笹岡・ 代田・野上・前田・松本・矢嶋・ 柳澤（武）・山田・山口・長谷川・ 渡邊 【職員】 角田
3	平成30年10月25日	授業にたいする取り組みと教員業績の 関連のあり方について（教授会）	法学部所属全教員ならびに職員
4	平成31年 1 月24日	ジェイ・サーブ調査の概要について （教授会）	法学部所属全教員ならびに職員
5	平成31年 2 月20日	初年次教育にかかる取り組みの総括に ついて（第2回初年次教育研究会）	【教員】 近藤学部長・伊川協議員・ 仁井田 FD 委員・植木・野上・前田・ 松本・矢嶋・柳澤（雄）・山口・ 山田・渡邊・野口 【職員】 井奈波

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 法学研究科 ）
推進組織名（ FD 部会 ）

1. 平成30年度の活動報告

博士後期課程の単位制・コース制導入に伴うカリキュラムのあり方について検討した。
修士課程のカリキュラムの見直しについても検討した。修士論文提出者の指導上の問題点などを検討した。

2. 今後の課題、方向性

修士課程のカリキュラムのあり方について引き続き検討する。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 9 月27日	社会のニーズを反映したより魅力的なカリキュラム編成について	法学研究科教員ならびに職員
2	平成31年 2 月28日	修士論文の指導のあり方について	法学研究科教員ならびに職員

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学部 ）
推進組織名（ GP 等教育支援プロジェクト委員会・経営学部 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

①学修成果を可視化する取組

- ・2018年度第1回経営学部FD研修会において、「学びのコミュニティ創出支援事業」を活用して本年度も「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施を決定（対象・時期未定）。
- ・2018年度第3回経営学部FD研修会において、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」の実施日程、実施体制と役割分担、受験対象、周知方法について協議。
- ・2018年度第4回経営学部FD研修会において、経営学部3年生を対象に、「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」を11月29日（木）2限、12月6日（木）3限（予備日）、2019年1月9日（水）に実施することを報告、教員に学生への周知を依頼。
- ・「学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）」を下記の三回にわたって実施、計104名が受験したが、昨年度の受験者（234名）より大幅に減少したことから、受験者数を確保する手段についてFD研修会で議論し、次年度の課題とすることとした。

【学修成果可視化の外部調査（PROGテスト）】

第1回：2018年11月29日（木）10：50～12：20 受験者数：14名

第2回：2018年12月6日（木）13：10～14：40 受験者数：79名

第3回：2019年1月9日（水）10：50～12：20 受験者数：11名

計：104名

②学部独自の取組

(i) 学生の主体的な学びに関する取組

- ・10ゼミで延べ16回の企業訪問調査を実施した。
- ・FSP 講座を6社の協力により6ゼミで実施した。
- ・AVEX 株式会社と協働で学生10名の参加により「キャリア特論」を開講した。
- ・移動ワゴンによる被災地復興のチャリティー販売（10月・11月・12月）を実施した。

(ii) 多様な学修経験に関する取組

- ・夏休み期間中に台湾で学生27名の参加により「国際フィールドワーク（台湾）」を実施した。
- ・夏期海外語学研修に参加した学生27名について「海外語学実習」（2単位）を単位認定した。
- ・アイシン・エイ・ダブリュ株式会社との連携事業（「ビジネスデザインミーティング」）を6～7月にかけて実施した。
- ・小林クリエイティブ株式会社との連携事業（「学内インターンシップ」）を10月に実施した。
- ・株式会社沖縄物産企業連合・沖縄宝島名古屋支店との連携事業を11月に実施した。

- ・輝く女性講演会の講師である堤ゆかり氏を講師として、女子学生のためのマナー講座を実施した。
- ・学部主催のプレゼンテーションコンテストを、外部審査員を迎えて12月に実施した。

(iii) その他学部独自の取組

- ・新入生歓迎会を4月14～15日に1泊2日で実施、2年生を主とする実行委員が企画・運営した。
- ・特定非営利活動法人 MILLIANCE との連携事業として中小企業経営者との就職相談会を9月に実施した。
- ・輝く女性講演会を5月・10月・12月に計3回実施した。
- ・株式会社 JPA との連携協定締結について6月に教授会で合意した。
- ・愛知県社会保険労務士会と次年度の寄付講座開設に係る覚書を締結し、あわせて5月から計6回の連続講演会を開催した。
- ・三井住友銀行（SMBC）の講演会を10月に実施した。
- ・各種講演会実施に係るシラバス上の対応について、教務委員会とも連携の上、次年度のシラバスから学部として記載を統一することを決定した。

2. 今後の課題、方向性

名城大学および経営学部が目指す「生涯学びを楽しむ」「学びのコミュニティを創り広げる」ためのPDCAサイクルを推進する組織として、前年度より経営学部FD委員会とGP等教育支援プロジェクト委員会を一体化し、FD活動を進めている。

同委員会は、学部長・協議員・教務委員長・キャリア委員・FD委員・事務長をメンバーとして、毎月1回の開催を目安に招集し、その都度、学部のGP/FD活動の年度計画のPDCA活動を行うとともに、本年度より教授会開催前に、全構成員で教育改善のための議論を行っている。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 4 月12日	検討事項：2018年度学部 GP 行事および予算計画，社会連携事業（新規）	伊藤、今井、岸川、瀬川、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、宮崎、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、田澤、村上、大西、澤田（貴）、S. ハンセン、田中、東、東田、村松、桑島、高山、中川、堀畑、山本
2	平成30年 6 月28日	検討事項：講演会の実施方法について，第2・3回輝く女性講演会について，MILLIANCE 共催による学内企業説明会について，JPA との連携協定，SMBC 講演会，愛知県社会保険労務士会との連携協定について	伊藤、岸川、瀬川、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、宮崎、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、田澤、村上、大西、澤田（貴）、S. ハンセン、田中、東、東田、村松、桑島、高山、中川、堀畑
3	平成30年 9 月27日	検討事項：第2・3・4回輝く女性講演会について，SMBC 講演会について，学修成果可視化の外部調査（PROG テスト）実施について	伊藤、今井、岸川、瀬川、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、宮崎、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、田澤、村上、大西、澤田（貴）、S. ハンセン、田中、東、東田、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本
4	平成30年11月 8 日	検討事項：学修成果可視化の外部調査（PROG テスト）実施について，各種講演会アンケート質問事項について，学内 GP の取り扱いについて，学内 GP 予算執行の今後の方針	伊藤、今井、岸川、瀬川、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、宮崎、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、田澤、村上、大西、澤田（貴）、S. ハンセン、田中、東、東田、村松、桑島、高山、中川、堀畑、山本
5	平成31年 1 月24日	検討事項：2019年度学びのコミュニティ創出支援事業申請について，2019年度輝く女性講演会について，2019年度 Woomax 担当授業について，PROG テストの総括と次年度実施に向けての課題	伊藤、今井、岸川、瀬川、田代、鳥居、長尾、橋場、榎野、宮崎、柳田、相川、五十畑、澤田（慎）、田澤、大西、澤田（貴）、田中、東、東田、堀畑、村松、桑島、高山、中川、山本、S. ハンセン、村上

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経営学研究科 ）
推進組織名（ 教育制度改革委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

①学生の学修成果を可視化する取組

- ・学部における「学修成果可視化の外部調査（PROG テスト）」の結果を踏まえ、大学院における学修成果可視化の外部調査導入の検討（予算措置含む）を行う。

②学部独自の取組

- ・前期及び後期に修士論文事前報告会を実施。
- ・企業（日本ガイシ、トヨタ自動車、豊田自動織機等）からの外部講師による集中講義の実施。

2. 今後の課題、方向性

入学定員確保に向けて、愛知県社会保険労務士会等との連携強化や、海外協定校との連携強化を目的として、2～3月に所属教員と大学院生を北京第二外国語学院（中国）、真理大学（台湾）に派遣する。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 4 月12日	修士課程 指導教員について、修士学位論文提出要領について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 宮崎信二, 山本いづみ
2	平成30年 4 月26日	報告事項：文部科学省「経営系大学院機能強化調査検討協力者会議」	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 柳田純也, 山本いづみ
3	平成30年 5 月24日	大学院学業優秀奨学生候補者の選考について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ

回	日 程	議 題	出席者氏名
4	平成30年 6 月14日	平成30年度 大学院学業優秀奨学生候補者の選考について,平成30年度（9月修了）修士論文審査委員及び審査日程案	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
5	平成30年 6 月28日	大学院奨学生（特別奨学生）対象者について, 後期追加（変更）履修登録について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 大西幹弘, 澤田慎治, 岸川典昭, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
6	平成30年 7 月12日	平成30年度（9月修了）修士論文審査委員及び審査日程について, 秋季入学生オリエンテーションについて	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
7	平成30年 7 月26日	平成30年度（9月修了）修士学位論文審査及び修了判定について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也
8	平成30年 9 月 6 日	平成30年度（秋季）経営学研究科新入生 指導教員一覧について, 修士論文審査日程について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
9	平成30年 9 月15日	平成30年度 修士学位論文提出要領について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
10	平成30年10月11日	経営学研究科（修士課程）時間割編成について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ

回	日 程	議 題	出席者氏名
11	平成30年10月25日	経営学研究科（修士課程）時間割編成について、修士学位論文事前報告会（案）について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
12	平成30年11月22日	経営学研究科（修士課程）教員資格審査について、2019年度 経営学研究科（修士課程）時間割編成について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 宮崎信二, 柳田純也, 山本いづみ
13	平成30年12月13日	大学院経営学研究科経営学専攻（修士課程）教員資格審査について、平成30年度 経営学研究科修士課程学位論文題目一覧について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也
14	平成31年 1 月10日	2019年度 経営学研究科（修士課程）時間割編成について、シラバスの校正について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 長尾晃宏, 橋場俊展
15	平成31年 1 月26日	2019年度 修士学位論文審査委員及び審査日程案、主任教授・資格選考委員の選挙について	相川奈美, 五十畑浩平, 伊藤秀俊, 今井 齊, 大西幹弘, 岸川典昭, 澤田慎治, 澤田貴之, 瀬川新一, 高山晃郎, 田澤宗裕, 田代樹彦, 田中武憲, 鳥居弘志, 橋場俊展, 東田 明, 宮崎信二, 柳田純也

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学部 ）
推進組織名（ 経済学部 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

（今年度の活動方針・目標）各教員が個人的に培ってきた教育に関するノウハウや経験を、学部内の教員全体で共有し、学部教育の改善・充実を図る。

（活動内容）

1. 従来から行っている活動の FD としての捉え直し

従来から進めている以下のような取り組みを FD として捉え直し、その活動記録を作成する。

- ・ 新入生セミナー、デイハイク、レポート・フェスティバル、社会 / 国際フィールドワーク等
- ・ GPA の取り組み
- ・ カリキュラム編成の際の議論

2. 学部 FD 懇談会の開催

学部教育に関する諸問題を教員同士で話し合う。FD 委員会で実施している T&L カフェの方法を踏襲する（まず少人数で指定されたトピックスについてディスカッションを行い、最後に各グループの代表者が参加者全員に対して議論の結果をごく簡単に報告する）。

①学生の学修成果を可視化する取り組みについては、今年度から新たに FD 委員会において、経済学部として今年度ジェイサーブを実施することとした。11月に各ゼミを通して学生の学修成果についての調査を実施した。回答数は二百十数名、回答率70%弱であった。今後の課題としては、この調査結果をどのように評価すべきか検討していく必要がある。今後の FD 委員会でこれについて検討することとしたい。

また、経済学部生の卒業時アンケートの結果についての検討も行った。昨年度卒業生の卒業時アンケートについて、特に目立った点として回答率の低さが問題とされ、より正確な学生の大学評価を得るためにも、早急にこの点が改善される必要があるとの認識で一致した。今年度卒業生から新たな取り組みとして、回答用紙を卒業時に収集することとした。

②その他学部独自の取り組みについては、FD 委員会独自の取り組みという事ではなく、学部全体で毎年新入生セミナー、デイハイク、レポート・フェスティバルなどを学部独自の取り組みとして行っている。今年も例年通り 4 月14日（土）にデイハイクを実施した。この取り組みは、妻籠・馬籠間のおよそ8キロのコースを散策しながら新入生間の親睦を図るとともに、地域の歴史や経済について学ぶ機会ともなり、学部独自の取り組みとして高い教育効果をもたらしている。また、レポート・フェスティバルも学部独自の恒例の行事であるが、今年は12月15日（土）に実施した。レポート・フェスティバルは今

年で17回目を迎え、参加ゼミ数14、報告数35を数え、これも経済学部独自の企画として定着しており、大きな教育効果を上げていると考えている。

その他のものとしては、社会フィールドワークや国際フィールドワークなどを通して直接学生を実社会あるいは他国に触れさせ、学生の啓発に大きく寄与している。

2. 今後の課題、方向性

新たに学修成果の可視化について学部で取り組むよう求められており、今後これをどのような形で具体化すべきか検討していきたい。先にも述べたように、経済学部では今年初めてジェイサープによる学生調査を実施した。2019年2月28日（木）にFD委員会を実施しこれについて検討した。これを今後どのように活用していくべきか検討が必要である。これを今後の課題としたい。また卒業時アンケートの結果についても、今年度卒業生から実施される新たなアンケート回収方法によってより回収率が上がると思われる。したがって、より正確に学生の経済学部に対する意識を把握できるようになると思われるので、この点についても今後検討し、問題と思われる諸点を洗い出し、改善に向けて努力していきたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年7月26日（木）	平成30年度前期授業改善アンケートについて	山本、折原、西山（賢）、谷村、新井
2	平成30年10月11日（木）	学生調査ジェイサープの実施について	山本、折原、西山（賢）、谷村、新井
3	平成31年1月24日（木）	卒業時アンケートの結果についての検討	山本、折原、西山（賢）、谷村、新井
4	平成31年2月28日（木）	ジェイサープの結果についての検討	山本、折原、西山（賢）、谷村、新井

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 経済学研究科 ）
推進組織名（ 経済学研究科 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

平成30年度経済学研究科 FD 活動目標

「各教員が個人的に培ってきた教育に関するノウハウや経験を、大学院内の教員全員で共有し、大学院教育の改善・充実をはかる。特に今年度は、学生の主体的学びの育成について重点的に取り組む」(平成29年度からの継続)

具体的内容（過年度からの継続）

1. 従来から行っている活動の FD としての捉え直し

従来から進めている以下のような取り組みを FD として捉え直し、その活動記録を作成する。

- ・オリエンテーション、大学院研究発表会、教員と大学院生交流会、大学院教育改善プロジェクト。授業評価アンケートについての制度設計を行う。大学院生のフィールド・ワーク研究に際して、指導教授以外の他の教員のアドバイスも受けられるようにしたらどうか（リサーチ・デザイン）という意見が出された。これについて、今後の研究課題としたい。

2. 研究科 FD 懇談会の開催

大学院教育に関する諸問題を教員同士で話し合う。FD 委員会で実施している T&L カフェの方法を踏襲する（まず少人数で指定されたトピックスについてディスカッションを行い、最後に各グループの代表者が参加者全員に対して議論の結果をごく簡単に報告する）。

2. 今後の課題、方向性

平成30年度現在、経済学研究科に所属する大学院生数は、ドクター 1・2・3 年とも各 1 名ずつ、マスター 1 年が 1 名、2 年が 2 名と大学院生数が極めて少なく、FD 活動以前に大学院の抜本的改革の必要性が求められている状況である。現在、FD 委員会による取り組みは困難な状況にあり事実上休止状態にある。

3. 活動記録

なし。

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 理工学部 ）
推進組織名（ 教育改善委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

平成30年度においては、平成29年度に引き続き、学部の教育に必要な教育改善の推進と支援を活動方針とし、基礎演習科目の履修促進、数学相談室・物理相談室の開設など基礎学力向上を目標とする取り組みを引き続き進めると同時に、学生指導支援のシステム化、教員の学生指導能力向上に関わる教育フォーラム開催などの具体的な活動に取り組んできた。特に、FD 推進体制として、以前から本教育改善委員会を中心として各学科との連携体制をとっているが、各学科の会議での FD に関する内容を明確にするため、学科 FD 会議を立ち上げ、会議議事要旨を整える体制を整備した。

全学共通課題である「学生の学修成果を可視化する取組」としては、社会基盤デザイン工学科を中心に、全学対応教育学生指導支援 WEB システムの開発で行われた学修行動管理ソフト・PASTEL の理工学部内での運用推進を進めている。これと合わせて、JSAAP や PROG テストなどの外部業者が実施する学修行動調査に関するアンケートも希望学科で実施し、学修成果可視化に対する評価を始めた。

毎年度本学部では基礎学力に自信がない学生向けに数学・物理学・化学・英語の基礎演習科目を置くとともに、数学・英語に関してはさらに発展的な内容を勉強できるよう基礎演習（アドバンスコース）科目も開講されている。特に数学に関しては補履修クラスを開設し、一定の効果を上げてきた。本年度、この数学教育制度の見直しを図り、さらに教育効果を上げる方策の検討を進めた。

また、本委員会では新入生オリエンテーションにおいて、数学基礎知識習熟度自己診断テストを実施し、基礎演習科目の履修を促している。この診断テストは今まで実際には問題を解答せず、解答できそうかどうかを確認する程度であったが、本年度問題見直しを行い、問題数を少なくし、実際にオリエンテーション時に解答する方向で効果を上げるよう、次年度のオリエンテーションで各学科で実施を試みることにしている。

さらに、数学相談室、物理相談室が開設され、学生からの質問に答える体制が整えられており、その運営状況は本委員会で報告されている。例年、物理相談室は授業後に相談を受ける体制をとっているが、本年度は定期試験が始まる前にも数日間集中的に質問を受ける相談室を開設し効果を上げた。そのほか本年度においても附属高校特別推薦候補者の円滑な学修活動開始を目的とした入学前指導の企画を進め、加えて MEC プログラムへの対応、リメディアル教育への対応も引き続き実施した。

一方で、学科ごとに、学びに積極的な学生の実力をさらに引き上げ、大学院進学率の向上を含む大学院への円滑な接続に繋がる取り組みもMS-26推進事業に関連した事項として、様々な企画にて継続している。これらの企画は学生の主体的な学びの推進に繋がっている。

加えて特記すべき実績として、「社会の中の大学～教育の役割～」と題して、理工学教育推進フォーラムを開催した。同フォーラムでは2人の講師に講演いただいた。「気になる学生への支援～知らないでは済まされない＆しないでは済まない『合理的配慮』～」をテーマに名城大学教職センター長の曾山和彦先生に依頼し講演いただき、障害をもつ学生の支援教育についての議論を行った。その後、「工学教育への取り組み事例紹介」をテーマにサイバネットシステム株式会社官公庁・教育営業部部長の深津明生様に依頼し講演いただき、企業からの工学教育への様々なサポート事例について交流を行った。全体にわたり、質疑応答において、活発な議論が展開され、成果を上げることができたと思われる。

2. 今後の課題、方向性

FDへの全教員参加に対しては、学科別FD会議の立ち上げにより多くの問題は解決される。そのような個別の会議と理工学部全体で行うFDフォーラムなどの教育改善委員会企画との連携も重要であり、課題となる。引き続き本委員会にて各学科との連携も検討し、進めていく。今後は学科別にてFDに取り組む体制になるが、その上で様々な課題も出てくると思われる。また、他大学でのFDフォーラムや高等教育企画などへの参加も推進し、教育改善に反映していきたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年4月19日	数学科目（補履修）登録状況、物理相談室開設について、新年度委員への申し送り、東海工学教育協会入会案内、WG構成員選出	各学科新旧教育改善委員等（19名：齊藤、小高、山中、土田、植松、吉川、増山、六田、竹内、大島、大槻、西村、大原、新井、谷口、日比、松田、中村、土屋）、理工学部事務職員（2名：堀口、鈴木）
2	平成30年5月10日	学部FDフォーラムの企画、数学教育改善（補履修）制度見直し、物理相談室運営について	WG構成員（8名：植松、坂東、西村、松田、新井、堀口、鈴木、齊藤）
3	平成30年5月31日	学修行動調査実施について、附属高校特別推薦候補者入学前指導の企画、数学教育改善の見直し、学部FDフォーラム開催について	各学科教育改善委員等（15名：齊藤、山中、山田、植松、吉川、増山、六田、坂東、大槻、西村、新井、日比、松田、中村、土屋）、理工学部事務職員（2名：堀口、鈴木）
4	平成30年6月28日	数学教育改善（補履修）制度見直し、学部FDフォーラム企画	WG構成員（8名：植松、坂東、西村、松田、新井、堀口、鈴木、齊藤）
5	平成30年7月5日	附属高校特別推薦候補者入学前指導、前期数学相談室開設期間、教育の質向上プロジェクト、学科別FD会議立ち上げ	各学科教育改善委員等（14名：齊藤、山中、山田、植松、吉川、増山、坂東、西村、大原、新井、日比、松田、中村、土屋）、理工学部事務職員（2名：堀口、鈴木）

回	日 程	議 題	出席者氏名
6	平成30年 9月13日	理工学教育推進フォーラム講師選出、私立大学等改革総合支援事業改善計画の理工学部対応	各学科教育改善委員等（12名：齊藤、小高、植松、吉川、増山、六田、坂東、大槻、大原、新井、小塩、松田）、理工学部事務職員（2名：堀口、鈴木）
7	平成30年10月18日	学部FDフォーラム開催案内、数学教室利用状況、予算要求、工学教育賞推薦	各学科教育改善委員等（15名：齊藤、小高、山中、山田、植松、吉川、増山、坂東、大槻、西村、新井、日比、松田、中村、土屋）、理工学部事務職員（2名：堀口、鈴木）
8	平成30年11月29日	理工学教育推進フォーラム「社会の中の大学～教育の役割～」開催	理工学部教職員65名
9	平成31年 2月 7日		
各学科 FD 会議			
数学科 FD 会議			
1	平成30年10月25日	補履修について、大学教育開発センター委員会報告、FDフォーラム開催について、数学相談室前期利用状況について、特別推薦入学候補者事前指導における協力学生の募集について	植松、内田、内村、江尻、大西、小澤、鍛冶、加藤、許斐、齊藤、鈴木、土田、富田、長郷、日比野、前野、三町、村瀬（18名）
2	平成30年11月22日	数学相談室について、数学再試験について、FDフォーラム開催について	植松、内田、内村、江尻、大西、小澤、鍛冶、加藤、許斐、齊藤、鈴木、土田、富田、長郷、橋本、日比野、前野、村瀬（18名）
3	平成30年12月20日	名城サプリメント教育について、後期数学相談室について、FDフォーラム開催について、補履修に関する学生便覧の修正について、大学教育開発センター委員会報告	植松、内田、内村、江尻、大西、小澤、鍛冶、加藤、許斐、齊藤、鈴木、土田、富田、橋本、日比野、三町、村瀬（17名）
情報工学科 FD 会議			
1	平成30年 9月20日	閉講対象科目について、講義日程について、履修モデルや履修方法のガイダンスについて、学科アセスメントポリシーについて、講義・実験補助者について、卒業研究における研究室移動について、成績不振者について、特別推薦入学者前指導について、TOEIC-IP試験について、在学生むけITプロジェクトについて	山本、旭、宇佐見、小中、佐川、鈴木、高橋、田中、中野、向井、山田啓一、山田宗男、吉川、渡邊、水沼（15名）
2	平成30年10月11日	仮配属・進路アドバイザーについて、FDフォーラムについて、3年生後期からの学生への連絡手法について、国際専門研究プログラムについて	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、鈴木、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、山田宗男、渡邊、柳田、川澄（17名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
3	平成30年10月25日	障がい学生支援について、履修の可否と開講方法について、学位授与方針について、アクティブラーニングについて、学業成績優秀賞について、FD フォーラムについて第23回工学教育賞について、後期試験スケジュールについて、補講について、GPA について	山本、旭、宇佐見、亀谷、鈴木、田中、中野、坂野、高橋、向井、水沼、山田啓一、渡邊、吉川、川澄（15名）
4	平成30年11月22日	リフレッシュセミナーについて、出席証明書について、シラバスについて、卒業研究について、学生便覧案について、学業成績優秀賞について、研究室本配属について、学部単位の内ターンシップ報告会について	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、鈴木、田中、中野、坂野、高橋、向井、水沼、渡邊、山田啓一、山田宗男、吉川、川澄（18名）
5	平成30年12月 6 日	研究室本配属会（小中）について、ゼミナールの成績について、学習教育到達目標について	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、高橋、田中、坂野、向井、山田啓一、水沼（12名）
6	平成30年12月20日	来年度の講義日程について、学生表彰について、学生のための講演会について、実験・演習の整備について	山本、旭、亀谷、小中、佐川、鈴木、田中、坂野、高橋、向井、水沼、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、川澄（16名）
電気電子工学科 FD 会議			
1	平成30年 9 月 6 日	三者面談の実施について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、堀田、村田、村本、山崎、山中、益田、増山、村上（14名）
2	平成30年 9 月20日	ファカルティ・ディベロップメントの実施等について	伊藤、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（15名）
3	平成30年12月 6 日	「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、村本、山崎、山中、竹田、田崎、増山、村上（14名）
4	平成31年 1 月10日	三者面談の実施について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（17名）
材料機能工学科 FD 会議			
1	平成30年10月11日	FD 活動記録の必要性、FD の確認、FD 会議の開催について、具体的な活動内容について	六田、上山、田中、榎本、服部、赤堀、宮嶋、今井、竹内（9名）
2	平成30年12月 6 日	学籍移動に関する報告、平成31年度研究室配属について、開講科目に関する検討	六田、成塚、上山、宮嶋、服部、岩谷、田中、赤堀、榎本、今井、宇佐美、竹内（12名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
応用化学科 FD 会議			
1	平成30年 6 月21日	成績不振者面談記録の提出依頼について、学生の受講態度について	永田、藤田、丸山、坂、池邊、田中、小澤、才田、大脇、坂東（10名）
2	平成30年 7 月26日	単位数込みでの成績評価について、各科目の点数ごとのヒストグラム、学生の理解について、金属材料内容について、合成実験室の整理について、チャレンジプログラムについて	永田、坂東、坂、大脇、丸山、小澤、藤田、田中、池邊、才田（10名）
3	平成30年 8 月 5 日	1 年次在籍の学生の復学について、応用化学実験Ⅳの成績評価方法について	永田、坂東、坂、大脇、丸山、小澤、藤田、田中、池邊、才田（10名）
4	平成30年10月11日	卒研配属のルールおよび配属調整の日時について	永田、坂東、坂、大脇、丸山、小澤、藤田、田中、才田、池邊（10名）
5	平成30年11月22日	学生への支援体制について、中間試験での疑わしい行為について	永田、丸山、坂、小澤、藤田、田中、才田、池邊、大脇（9 名）
機械工学科 FD 会議			
1	平成30年 6 月 7 日	学科オリエンテーション時（H31.4/2）における数学習熟度テストの実施について	藤山、池本、大槻、来海、久保、小島、清水、塚田、中西、成田、古川、松田、吉川（13名）
2	平成30年 9 月20日	名城附属推薦前講座（12/8）への協力学生（附属 OB 2 名）の選出について、新入生数学自己診断テスト（オリエンテーション2日目）について、FD フォーラム（10/31）への教員参加について、教育推進フォーラム（11/29）への教員参加について、学科のFD 委員会について	藤山、大島、大槻、来海、久保、小島、清水、塚田、中西、成田、古川、松田、吉川（13名）
3	平成30年10月25日	工学教育賞候補者の推薦依頼について、FD フォーラム（10/31）への参加について、教育推進フォーラム（11/29）への参加について、名城附属推薦前講座（12/8）への協力学生選出について	藤山、大島、大槻、来海、久保、小島、清水、塚田、中西、成田、古川、松田、吉川、池本（14名）
4	平成30年12月20日	学びのコミュニティ創出支援事業について、2019年度 名城サプリメント教育の開講科目希望調査について	藤山、アブラハ、大島、大槻、来海、久保、小島、清水、塚田、中西、成田、古川、松田、吉川、池本（15名）
交通機械工学科 FD 会議			
1	平成30年10月11日	大学教育開発センター報告について、数学基礎知識習熟度自己診断テストについて、FD フォーラムの開催について、FD 会議について、附属高校特別推薦候補者入学前指導に係る学生の選出依頼について	鈴木、小川、加鳥、相馬、前川、中島、大藏、横谷、菅野、仙場、菅、早藤、村尾、西村（14名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
2	平成30年10月25日	大学教育開発センター委員会報告について、附属高校特別推薦候補者入学前指導について、FD フォーラムの開催について、平成30年度前期数学相談室利用状況報告について、学生指導の際に利用を勧めるよう協力依頼がなされた、工学教育賞の推薦について、数学基礎知識習熟度自己診断テストについて	鈴木、小川、相馬、前川、中島、大藏、横谷、菅野、菅、早藤、村尾、西村（12名）
3	平成30年11月22日	FD フォーラムの開催について	鈴木、加鳥、小川、相馬、前川、中島、大藏、菅、横谷、菅野、仙場、早藤、村尾、西村（14名）
メカトロニクス工学科 FD 会議			
1	平成30年10月25日	FD フォーラム開催について、工学教育賞の推薦について	楊、井上、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（10名）
2	平成30年11月22日	理工学部 FD フォーラムについて、教育の質向上プロジェクトの募集について、新任教員向け FD 研修について、教育功労賞の募集について	楊、井上、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（10名）
3	平成31年 1 月 9 日	授業改善アンケートについて	楊、井上、野々村、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（11名）
社会基盤デザイン工学科 FD 会議			
1	平成30年 7 月19日	社会基盤デザイン工学科の現状と教育改善の取り組みについて、現状の教育状況について	葛、石川、板橋、小高、鈴木、松本、溝口、新井、岩下、渡辺、中村、藤井（12名）
2	平成31年 1 月10日	授業改善アンケートについて	石川、板橋、葛、小高、鈴木、原田、松本、溝口、新井、岩下、藤井、渡辺（12名）
環境創造学科 FD 会議			
1	平成30年 6 月21日	学生の授業アンケートについて	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（11名）
2	平成30年 9 月 6 日	授業改善アンケートについて	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、深谷、武藤（10名）
3	平成30年11月22日	理工談話会の実施について	垣鍔、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、谷口、日比、深谷、武藤（10名）
建築学科 FD 会議			
1	平成30年 6 月 7 日	英語学習システムについて、1 年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田、鈴木、武藤、寺西、石井、大塚、生田、谷田、三浦、吉永、平岩、高橋、松田、米澤、佐藤（15名）
2	平成30年 7 月26日	数学の補履修制度について、1 年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田、鈴木、高井、武藤、寺西、石井、大塚、生田、谷田、三浦、吉永、平岩、高橋、松田、米澤、佐藤（16名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
3	平成30年 9 月20日	教育推進フォーラムの開催について、理工学部でのFD対応について、特別推薦入学前指導への協力学生選出について、1年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田，鈴木，武藤，寺西，石井，大塚，生田，谷田，三浦，吉永，平岩，松田，米澤，佐藤（14名）
4	平成30年10月25日	FD プログラムへの参加について、特別推薦入学前指導への協力学生選出について、工学教育賞の推薦について	岡田，鈴木，武藤，石井，大塚，生田，谷田，三浦，吉永，平岩，松田，米澤，佐藤（13名）
教養教育 FD 会議			
1	平成30年10月11日	FD 会議について	田中，中山，神藤，日比野，長澤，景山，大久保，内田，中村，鈴木，松村，本田，宮北，土屋，加藤，大知（16名）
2	平成30年10月25日	授業アンケートについて、FD フォーラムの開催について	田中，中山，神藤，日比野，景山，大久保，内田，中村，松村，本田，土屋，加藤，大知（13名）
3	平成30年11月22日	FD フォーラムの開催について	田中，中山，神藤，日比野，長澤，大久保，内田，中村，鈴木，松村，本田，土屋，加藤，大知（14名）
4	平成30年12月 6 日	平成30年度後期授業改善アンケートについて	田中，中山，神藤，長澤，景山，大久保，中村，本田，土屋，加藤，大知（11名）
5	平成30年12月20日	教育改善委員会報告について	田中，中山，長澤，景山，大久保，内田，中村，松村，本田，宮北，加藤，大知（12名）
6	平成31年 1 月24日	教育改善委員会報告について	田中，中山，神藤，長澤，景山，大久保，内田，中村，本田，土屋，加藤（11名）

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（理工学研究科）
推進組織名（教育改善委員会（大学院教育 WG））

1. 平成30年度の活動報告

文部科学省の教育振興基本計画における高等教育の改革に伴い、大学院についても教育・研究の充実が求められている。認証評価の審査結果を踏まえ、本年度本研究科では2020年度から、博士（後期）課程において、授業科目の単位制及びコースワーク導入を改組検討委員会にて検討し、決定した。リサーチワークだけでなくコースワークの導入として、特殊講義科目の設置を行い、修士（博士前期）課程の特論科目との連携を図った。平成28年度からは理工学研究科教育改善委員会を新たに設置し、大学院に係る FD 活動を実施する体制となっている。また、平成29年度には応用化学専攻とメカトロニクス工学専攻の2専攻が新設され、理工学研究科は全11専攻を有する研究科として新たな体制を発足した。本年度はこの2専攻が修了生を初めて輩出する年度であり、改組された理工学研究科修士（博士前期）課程の完成年度を迎える。修士（博士前期）課程・博士（後期）課程合わせて学生の多様な要望に対応できる体制が整ってきている。大学院各専攻の会議での FD 活動に関しては、学科 FD 会議を立ち上げ、大学院 FD についても学科と合同で検討する体制を整備した。

昨年度に引き続き、本年度においても、理工学研究科の教育理念に準拠し、創造性・国際性豊かな技術者・研究者を養成するために必要な教育改善を行うことを活動方針とし、平成30年11月29日（木）に大学院 FD フォーラムを学部と合同で理工学教育推進フォーラム「社会の中の大学～教育の役割～」として開催した。大学院フォーラムのテーマとしては「最先端シミュレーション：ビッグデータや可視化等に関する数値処理」を設定し、今後、工学教育に要求される基盤領域を探る試みとして、サイバネットシステム株式会社官公庁・教育営業部部長の深津明生様に企業からの工学教育への様々なサポート事例について講演いただいた。例年以上に参加者が集まり、様々な観点から質疑応答や議論が行われた。本研究科の各専攻において教育・研究に関する企画・プロジェクトなどにも展開され得る内容であり、懇親会における交流も通じて、成果を上げることができたと思われる。

大学院において研究するためには、基本的に主体性がなければ何も成果は得られない。従って、学生の主体的な学びは言うまでもなく、現状の教育体制は充分に応え得るものとなっており、基盤は常日頃の研究指導にある。修士（博士前期）課程の改組及び博士（後期）課程教育における単位制・コースワーク導入も併せ、上記の試みは、大学院における多様な学修経験、教育・研究プロジェクトなどの検討を通して、より良い教育・研究体制を目指すものである。

また、本研究科において英語教育は、学際的情報を全世界に発信するという観点から大変重要な位置を占めている。入学条件としても TOEIC 受験を課し、理工学部3年次に全学生が受験する体制が整備されている。大学院進学を意識させ、大学院英語教育へと円滑に導く一翼を担っている。加えて大学院共通科目としての科学技術英語及び英語による集中講義などにより、国際的

に活動できる知識・能力をもつ若手研究者・技術者養成のため、学部から大学院教育へと円滑に導く体制づくりを継続している。

2. 今後の課題、方向性

大学院理工学研究科教育改善委員会を中心活動組織とし、各専攻と連絡を密にしながらFDの取り組みを推進する。昨年度以来からの検討事項である「大学院における横断的教育としての集中講義」については、必ずしも科目設定としてではなく、専攻横断的な研究プロジェクトを始め、教員間の研究プロジェクトのもとで大学院生にも還元する体制を構築することも検討に値する。特に、学生の自主的な研究活動をバックアップするための体制が必要であり、大学院生が早い段階で研究方針を立て、自ら実践して結果を得ることができる能力を身につけていくことが重要である。教育偏重にならないように検討する必要がある。

大学院FDフォーラムについては、本年度、企業におけるサポート教育を中心に企画を行った。来年度以降はそのほかの分野にてテーマを設定し、企画・実践する方針で検討する。大学院教育は研究無くしては成立しない。FD活動をより広く捉え、上記のように研究プロジェクトからの還元教育も含め、講演依頼を検討する。必要であれば「学びのコミュニティ創出支援事業」などに再度申請することも考えられる。

大学院における英語教育についても、必要であれば新しい企画を本委員会にて検討し、より良い教育体制となるよう推進する。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年4月19日	大学院FDフォーラムの企画	各専攻新旧教育改善委員等（19名：齊藤、小高、山中、土田、植松、吉川、増山、六田、竹内、大島、大槻、西村、大原、新井、谷口、日比、松田、中村、土屋）、理工学研究科事務職員（2名：堀口、鈴木）
2	平成30年5月10日	大学院FDフォーラムの企画	WG構成員（8名：植松、坂東、西村、松田、新井、堀口、鈴木、齊藤）
3	平成30年5月31日	大学院FDフォーラムの日程設定、課題選出	各専攻教育改善委員等（15名：齊藤、山中、山田、植松、吉川、増山、六田、坂東、大槻、西村、新井、日比、松田、中村、土屋）、理工学研究科事務職員（2名：堀口、鈴木）
4	平成30年6月28日	大学院FDフォーラム企画	WG構成員（8名：植松、坂東、西村、松田、新井、堀口、鈴木、齊藤）
5	平成30年7月5日	大学院FDフォーラムの講師選出	各専攻教育改善委員等（14名：齊藤、山中、山田、植松、吉川、増山、坂東、西村、大原、新井、日比、松田、中村、土屋）、理工学研究科事務職員（2名：堀口、鈴木）

回	日 程	議 題	出席者氏名
6	平成30年9月13日	大学院FDフォーラムと学部FDフォーラムの連携について	各専攻教育改善委員等（12名：齊藤，小高，植松，吉川，増山，六田，坂東，大槻，大原，新井，小塩，松田），理工学研究科事務職員（2名：堀口，鈴木）
7	平成30年10月18日	大学院FDフォーラム・基礎から専門への連携に関して	各専攻教育改善委員等（15名：齊藤，小高，山中，山田，植松，吉川，増山，坂東，大槻，西村，新井，日比，松田，中村，土屋），理工学研究科事務職員（2名：堀口，鈴木）
8	平成30年11月29日	理工学教育推進フォーラム「社会の中の大学～教育の役割～」開催	理工学部・理工学研究科教員65名
9	平成31年2月7日		
各専攻FD会議については各学科FD会議と合同開催しているため、理工学部教育改善委員会の「FD取組を推進する組織の活動報告」の3. 活動記録に同じとする。			
各学科FD会議			
数学科 FD 会議			
1	平成30年10月25日	補履修について，大学教育開発センター委員会報告，FDフォーラム開催について，数学相談室前期利用状況について，特別推薦入学候補者事前指導における協力学生の募集について	植松，内田，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木，土田，富田，長郷，日比野，前野，三町，村瀬（18名）
2	平成30年11月22日	数学相談室について，数学再試験について，FDフォーラム開催について	植松，内田，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木，土田，富田，長郷，橋本，日比野，前野，村瀬（18名）
3	平成30年12月20日	名城サプリメント教育について，後期数学相談室について，FDフォーラム開催について，補履修に関する学生便覧の修正について，大学教育開発センター委員会報告	植松，内田，内村，江尻，大西，小澤，鍛冶，加藤，許斐，齊藤，鈴木，土田，富田，橋本，日比野，三町，村瀬（17名）
情報工学科 FD 会議			
1	平成30年9月20日	閉講対象科目について，講義日程について，履修モデルや履修方法のガイダンスについて，学科アセスメントポリシーについて，講義・実験補助者について，卒業研究における研究室移動について，成績不振者について，特別推薦入学者前指導について，TOEIC-IP試験について，在学生むけITプロジェクトについて	山本，旭，宇佐見，小中，佐川，鈴木，高橋，田中，中野，向井，山田啓一，山田宗男，吉川，渡邊，水沼（15名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
2	平成30年10月11日	仮配属・進路アドバイザについて、FD フォーラムについて、3年生後期からの学生への連絡手法について、国際専門研究プログラムについて	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、鈴木、高橋、田中、中野、坂野、水沼、向井、山田宗男、渡邊、柳田、川澄（17名）
3	平成30年10月25日	障がい学生支援について、履修の可否と開講方法について、学位授与方針について、アクティブラーニングについて、学業成績優秀賞について、FD フォーラムについて、第23回工学教育賞について、後期試験スケジュールについて、補講について、GPA について	山本、旭、宇佐見、亀谷、鈴木、田中、中野、坂野、高橋、向井、水沼、山田啓一、渡邊、吉川、川澄（15名）
4	平成30年11月22日	リフレッシュセミナーについて、出席証明書について、シラバスについて、卒業研究について、学生便覧案について、学業成績優秀賞について、研究室本配属について、学部単位のインターンシップ報告会について	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、鈴木、田中、中野、坂野、高橋、向井、水沼、渡邊、山田啓一、山田宗男、吉川、川澄（18名）
5	平成30年12月6日	研究室本配属会（小中）について、ゼミナールの成績について、学習教育到達目標について	山本、旭、宇佐見、亀谷、小中、佐川、高橋、田中、坂野、向井、山田啓一、水沼（12名）
6	平成30年12月20日	来年度の講義日程について、学生表彰について、学生のための講演会について、実験・演習の整備について	山本、旭、亀谷、小中、佐川、鈴木、田中、坂野、高橋、向井、水沼、柳田、山田啓一、山田宗男、吉川、川澄（16名）
電気電子工学科 FD 会議			
1	平成30年9月6日	三者面談の実施について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、堀田、村田、村本、山崎、山中、益田、増山、村上（14名）
2	平成30年9月20日	ファカルティ・ディベロップメントの実施等について	伊藤、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（15名）
3	平成30年12月6日	「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、村本、山崎、山中、竹田、田崎、増山、村上（14名）
4	平成31年1月10日	三者面談の実施について	伊藤、太田、熊谷、児玉、中條、都竹、平松、堀田、村田、村本、山崎、山中、竹田、田崎、益田、増山、村上（17名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
材料機能工学科 FD 会議			
1	平成30年10月11日	FD 活動記録の必要性, FD の確認, FD 会議の開催について, 具体的な活動内容について	六田, 上山, 田中, 榎本, 服部, 赤堀, 宮嶋, 今井, 竹内 (9名)
2	平成30年12月6日	学籍移動に関する報告, 平成31年度研究室配属について, 開講科目に関する検討	六田, 成塚, 上山, 宮嶋, 服部, 岩谷, 田中, 赤堀, 榎本, 今井, 宇佐美, 竹内 (12名)
応用化学科 FD 会議			
1	平成30年6月21日	成績不振者面談記録の提出依頼について, 学生の受講態度について	永田, 藤田, 丸山, 坂, 池邊, 田中, 小澤, 才田, 大脇, 坂東 (10名)
2	平成30年7月26日	単位数込みでの成績評価について, 各科目の点数ごとのヒストグラム, 学生の理解について, 金属材料内容について, 合成実験室の整理について, チャレンジプログラムについて	永田, 坂東, 坂, 大脇, 丸山, 小澤, 藤田, 田中, 池邊, 才田 (10名)
3	平成30年8月5日	1 年次在籍の学生の復学について, 応用化学実験Ⅳの成績評価方法について	永田, 坂東, 坂, 大脇, 丸山, 小澤, 藤田, 田中, 池邊, 才田 (10名)
4	平成30年10月11日	卒研配属のルール及び配属調整の日時について	永田, 坂東, 坂, 大脇, 丸山, 小澤, 藤田, 田中, 才田, 池邊 (10名)
5	平成30年11月22日	学生への支援体制について, 中間試験での疑わしい行為について	永田, 丸山, 坂, 小澤, 藤田, 田中, 才田, 池邊, 大脇 (9名)
機械工学科 FD 会議			
1	平成30年6月7日	学科オリエンテーション時 (H31.4/2) における数学習熟度テストの実施について	藤山, 池本, 大槻, 来海, 久保, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川 (13名)
2	平成30年9月20日	名城附属推薦前講座 (12/8) への協力学生 (附属 OB 2名) の選出について, 新入生数学自己診断テスト (オリエンテーション2日目) について, FD フォーラム (10/31) への教員参加について, 教育推進フォーラム (11/29) への教員参加について, 学科の FD 委員会について	藤山, 大島, 大槻, 来海, 久保, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川 (13名)
3	平成30年10月25日	工学教育賞候補者の推薦依頼について, FD フォーラム (10/31) への参加について, 教育推進フォーラム (11/29) への参加について, 名城附属推薦前講座 (12/8) への協力学生選出について	藤山, 大島, 大槻, 来海, 久保, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, 池本 (14名)
4	平成30年12月20日	学びのコミュニティ創出支援事業について, 2019年度 名城サプリメント教育の開講科目希望調査について	藤山, アブラハ, 大島, 大槻, 来海, 久保, 小島, 清水, 塚田, 中西, 成田, 古川, 松田, 吉川, 池本 (15名)

回	日 程	議 題	出席者氏名
交通機械工学科 FD 会議			
1	平成30年10月11日	大学教育開発センター報告について、数学基礎知識習熟度自己診断テストについて、FD フォーラムの開催について、FD 会議について、附属高校特別推薦候補者入学前指導に係る学生の選出依頼について	鈴木、小川、加鳥、相馬、前川、中島、大藏、横谷、菅野、仙場、菅、早藤、村尾、西村（14名）
2	平成30年10月25日	大学教育開発センター委員会報告について、附属高校特別推薦候補者入学前指導について、FD フォーラムの開催について、平成30年度前期数学相談室利用状況報告について、学生指導の際に利用を勧めるよう協力依頼がなされた。工学教育賞の推薦について、数学基礎知識習熟度自己診断テストについて	鈴木、小川、相馬、前川、中島、大藏、横谷、菅野、菅、早藤、村尾、西村（12名）
3	平成30年11月22日	FD フォーラムの開催について	鈴木、加鳥、小川、相馬、前川、中島、大藏、菅、横谷、菅野、仙場、早藤、村尾、西村（14名）
メカトロニクス工学科 FD 会議			
1	平成30年10月25日	FD フォーラム開催について、工学教育賞の推薦について	楊、井上、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（10名）
2	平成30年11月22日	理工学部FD フォーラムについて、教育の質向上プロジェクトの募集について、新任教員向けFD 研修について、教育功労賞の募集について	楊、井上、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（10名）
3	平成31年1月9日	授業改善アンケートについて	楊、井上、野々村、高畑、目黒、芦澤、市川、黒丸、木村、太田、大原（11名）
社会基盤デザイン工学科 FD 会議			
1	平成30年7月19日	社会基盤デザイン工学科の現状と教育改善の取り組みについて、現状の教育状況について	葛、石川、板橋、小高、鈴木、松本、溝口、新井、岩下、渡辺、中村、藤井（12名）
2	平成31年1月10日	授業改善アンケートについて	石川、板橋、葛、小高、鈴木、原田、松本、溝口、新井、岩下、藤井、渡辺（12名）
環境創造学科 FD 会議			
1	平成30年6月21日	学生の授業アンケートについて	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、広瀬、深谷、武藤（11名）
2	平成30年9月6日	授業改善アンケートについて	垣鍔、酒巻、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、日比、深谷、武藤（10名）
3	平成30年11月22日	理工談話会の実施について	垣鍔、道正、西山、三宅、小塩、齊藤、谷口、日比、深谷、武藤（10名）

回	日 程	議 題	出席者氏名
建築学科 FD 会議			
1	平成30年 6 月 7 日	英語学習システムについて、1 年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田, 鈴木, 武藤, 寺西, 石井, 大塚, 生田, 谷田, 三浦, 吉永, 平岩, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (15名)
2	平成30年 7 月26日	数学の補履修制度について、1 年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田, 鈴木, 高井, 武藤, 寺西, 石井, 大塚, 生田, 谷田, 三浦, 吉永, 平岩, 高橋, 松田, 米澤, 佐藤 (16名)
3	平成30年 9 月20日	教育推進フォーラムの開催について、理工学部 of FD 対応について、特別推薦入学前指導への協力学生選出について、1 年生オリエンテーション時における習熟度診断テストについて	岡田, 鈴木, 武藤, 寺西, 石井, 大塚, 生田, 谷田, 三浦, 吉永, 平岩, 松田, 米澤, 佐藤 (14名)
4	平成30年10月25日	FD プログラムへの参加について、特別推薦入学前指導への協力学生選出について、工学教育賞の推薦について	岡田, 鈴木, 武藤, 石井, 大塚, 生田, 谷田, 三浦, 吉永, 平岩, 松田, 米澤, 佐藤 (13名)
教養教育 FD 会議			
1	平成30年10月11日	FD 会議について	田中, 中山, 神藤, 日比野, 長澤, 景山, 大久保, 内田, 中村, 鈴木, 松村, 本田, 宮北, 土屋, 加藤, 大知 (16名)
2	平成30年10月25日	授業アンケートについて, FD フォーラムの開催について	田中, 中山, 神藤, 日比野, 景山, 大久保, 内田, 中村, 松村, 本田, 土屋, 加藤, 大知 (13名)
3	平成30年11月22日	FD フォーラムの開催について	田中, 中山, 神藤, 日比野, 長澤, 大久保, 内田, 中村, 鈴木, 松村, 本田, 土屋, 加藤, 大知 (14名)
4	平成30年12月 6 日	平成30年度後期授業改善アンケートについて	田中, 中山, 神藤, 長澤, 景山, 大久保, 中村, 本田, 土屋, 加藤, 大知 (11名)
5	平成30年12月20日	教育改善委員会報告について	田中, 中山, 長澤, 景山, 大久保, 内田, 中村, 松村, 本田, 宮北, 加藤, 大知 (12名)
6	平成31年 1 月24日	教育改善委員会報告について	田中, 中山, 神藤, 長澤, 景山, 大久保, 内田, 中村, 本田, 土屋, 加藤 (11名)

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（農学部）
推進組織名（農学部 FD 委員会）

1. 平成30年度の活動報告

農学部は3学科・附属農場それぞれに課題を設け取り組んできた。具体的には下記活動記録に記述の通り、生物資源学科では事実を正確に伝え、かつ豊かな表現力を育む手法の探索、応用生物化学科では各講義・実験の内容紹介と意見交換を通じた教員間の連携強化と教育効果向上、生物環境科学科では学科の取り組みを含む「生物多様性」の意義を広く一般に理解してもらうための教育活動の強化、附属農場では農学に関わる動植物への求知心の創起法の開発を直近の課題としているところである。

①本年度は、各学科ともに「履修系統図」「ポートフォリオ」への取り組みに加え、完成年度後の新たなカリキュラム改正に向けた議論を進め、「附属農場における学生の主体的学修環境の構築（学びのコミュニティ）」と生物資源学科の実験科目の材料を学生が農場実習で育てる共同カリキュラムに取り組み、農場の教育環境改善を実施中である。

②農学部 FD 委員会直轄ではないが、顕著な成果として、MS-26の教育ミッションを勘案し、生物資源学科では実働を担う専門委員会を立ち上げ、体験型プログラムとして正しい農業生産規範（Good Agricultural Practice; GAP）のカリキュラムへの導入が軌道に乗りつつある等、アクティブラーニングをベースにした教育プログラム実施に精力を傾注しているところである。

また、年度末（2月9日の農学部の卒業研究発表会）にて4年生に「名城大学卒業時アンケート」を実施し、学生の学修成果や大学生活全体に対する満足度、成長の実感度合いを数値化、可視化していく予定である。

2. 今後の課題、方向性

入試区分や入学時の成績、在学中の GPA ベースでの成績、キャリア形成支援に至る学生個別のポートフォリオを作成することで、より学修行動に限定せず、学生そのものの属性と動向を紐付け調査し、教育効果を高める方法について検討する必要がある。そのため、入試委員会、学務委員会、キャリア委員会との連携が強く要請される。

今後も学科単位での検討体制は変わりなく、従来からの一貫性と継続性を強く意識した対応のあり方を模索する。また、個別の学科に限定せず、学科横断的に検討すべき、ならびに学部全体で取り組むべき、ひいては大学院教育ともリンケージさせた対応を提言する、という立場から、農学部 FD 委員会で積極的に情報交換を行うこととする。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 4 月 2 日 (月)	第 1 回農場教員会議 ・プロジェクト実習における夏期休暇中の自主調査について ・農場実習日程について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
2	平成30年 4 月12日 (木)	第 1 回生物資源学科会議 ・生物資源学実験・農場実習に関するアンケート結果について 第 1 回応用生物化学科会議 ・化学実験, 応用生物化学実験のテキストについて ・応用生物化学概説アンケートについて	鈴木 (茂), 山岸, 磯前, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野 加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
3	平成30年 4 月26日 (木)	第 2 回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正 WG からの中間報告と改正に向けた意見交換 第 2 回応用生物化学科会議 ・応用生物化学概説アンケート結果について ・学生実験テキストの作成について 第 1 回生物環境科学科会議 ・成績不振者への対応について	鈴木 (茂), 山岸, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野 加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本 長田, 新妻, 大浦, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 田村, 細田, 丸山, 橋本, 汪
4	平成30年 4 月27日 (金)	第 2 回農場教員会議 ・農場実習日程について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
5	平成30年 5 月 1 日 (火)	生物資源学科第 1 回オンライン FD 会議 ・学修行動調査の実施の可否 (可決)	鈴木 (茂), 山岸, 磯前, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野
6	平成30年 5 月10日 (木)	第 3 回応用生物化学科会議 ・学修行動調査の実施方法について	加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
7	平成30年 5 月24日 (木)	第 4 回応用生物化学科会議 ・研究室配属について	加藤, 志水, 氏田, 奥村, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
8	平成30年 5 月31日 (木)	第 2 回生物環境科学科会議 ・学位授与方針対応表, 履修系統図およびポートフォリオについて	長田, 新妻, 大浦, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 田村, 丸山, 橋本, 汪, 日野
9	平成30年 6 月 4 日 (月)	第 4 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う農場実習内容について ・カリキュラム改正に伴う研究室名および授業科目名の変更について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中

回	日 程	議 題	出席者氏名
10	平成30年 6 月13日 (水)	第 5 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う農場実習 内容について ・GAP への対応について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕)
11	平成30年 6 月14日 (木)	第 5 回応用生物化学科会議 ・学位授与方針対応表, 履修系統図 およびポートフォリオについて	加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
12	平成30年 6 月18日 (月)	第 3 回生物環境科学科会議 ・現行カリキュラムの検証報告	長田, 新妻, 大浦, 磯井, 船隈, 近藤, 田村, 橋本, 汪, 日野, 細田
13	平成30年 6 月26日 (火)	第 6 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う農場実習 内容について ・カリキュラム改正に伴う研究室名 および授業科目名の変更について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
14	平成30年 6 月28日 (木)	第 5 回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正 WG からの GAP 関連科目, 農場実習, 附属農場教 員の担当科目に関する検討内容を 報告 第 6 回応用生物化学科会議 ・1 年次対象のメディアリテラシー についての意見交換 第 4 回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改正に関連した必修 科目の見直し	鈴木 (茂), 山岸, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野 加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本 新妻, 大浦, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 丸山, 橋本, 汪, 日野, 細田
15	平成30年 7 月12日 (木)	第 7 回応用生物化学科会議 ・授業科目履修系統図について 第 5 回生物環境科学科会議 ・カリキュラム検討 WG からの検討 結果報告	加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本 長田, 日野, 新妻, 大浦, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 田村, 細田, 丸山, 橋本, 汪
16	平成30年 7 月26日 (木)	第 7 回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正 WG から農場実 習と生物資源学実験に関する検討 内容の報告と意見交換 ・GAP 教育における予算措置について 第 8 回応用生物化学科会議 ・次年度時間割について 第 6 回生物環境科学科会議 ・学修成果可視化 (外部調査) の実 施可否について	鈴木 (茂), 山岸, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野 加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 前林, 山口 (秀) 長田, 日野, 新妻, 大浦, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 細田, 丸山, 橋本, 汪

回	日 程	議 題	出席者氏名
17	平成30年 8 月 6 日 (月)	第 7 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義科目 の新規開設について ・カリキュラム改正に伴う園芸学実 験の名称変更について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
18	平成30年 9 月 3 日 (月)	第 8 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う研究室名 および授業科目名の変更について ・農場における JGAP の取り組みに ついて	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
19	平成30年 9 月 6 日 (木)	第 7 回生物環境科学科会議 ・カリキュラム改訂における教養教 育科目の検討 ・学科アセスメントポリシーの確認	長田, 新妻, 大浦, 磯井, 船隈, 近藤, 田村, 細田, 丸山, 橋本, 汪
20	平成30年 9 月13日 (木)	第 9 回応用生物化学科会議 ・化学実験, 非常勤講師, カリキュ ラム改正について	志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長 澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
21	平成30年 9 月25日 (火)	第10回応用生物化学科会議 ・編入学試験, 農場実習, 次年度開 講科目について	氏田, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本
22	平成30年 9 月27日 (木)	第 8 回生物環境科学科会議 ・編入学に伴う既取得単位認定案の 検討	長田, 新妻, 大浦, 磯井, 船隈, 細田, 橋本, 汪
23	平成30年10月 1 日 (月)	第 9 回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う講義科目 の新規開設について ・カリキュラム改正に伴う園芸学実 験の名称変更について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中
24	平成30年10月25日 (木)	第11回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正 WG から農場実 習と生物資源学実験, 遺伝学と育 種学, GAP 関連科目に関する検討 内容の報告と意見交換 第12回応用生物化学科会議 ・次年度非常勤講師について ・他学部他学科履修科目について 第10回生物環境科学科会議 ・履修調整科目, 在学年数の確認 ・学科履修・卒業者の資格一覧確認	鈴木 (茂), 山岸, 磯前, 道山, 寺田, 森上, 津呂, 鈴木 (康), 荒川, 上船, 塚越, 平野 加藤, 志水, 氏田, 奥村, 湊, 林 (利), 長澤, 大場, 前林, 松儀, 山口 (秀), 濱本 長田, 日野, 新妻, 磯井, 村野, 船隈, 近藤, 細田, 丸山, 橋本, 汪
25	平成30年11月 5 日 (月)	第10回農場教員会議 ・カリキュラム改正に伴う研究室名 および授業科目名の変更について	磯井, 中尾, 森田 (隆), 林, 森田 (裕), 片山, 田中

回	日 程	議 題	出席者氏名
26	平成30年11月22日（木）	第12回生物資源学科会議 ・カリキュラム改正に関する結論の内容をまとめた履修系統図を検討 第13回応用生物化学科会議 ・次年度オリエンテーション、ガイダンスについて 第12回生物環境科学科会議 ・次年度在学生ガイダンスの確認 ・1年生参加の公開講座内容の検討	鈴木（茂）、山岸、磯前、道山、寺田、森上、津呂、鈴木（康）、荒川、上船、塚越、平野 加藤、志水、氏田、奥村、湊、林（利）、長澤、前林、松儀、山口（秀）、濱本 長田、日野、新妻、大浦、磯井、村野、船隈、近藤、田村、細田、丸山、橋本、汪
27	平成30年12月3日（月）	第11回農場教員会議 ・生物資源学科からの専攻生増員要請について ・カリキュラム改正に伴う授業科目名の変更について ・国際研修プログラムの担当について	磯井、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、片山、田中
28	平成30年12月19日（水）	第13回生物資源学科会議 ・研究室配属についての検討	鈴木（茂）、山岸、磯前、道山、寺田、森上、津呂、鈴木（康）、荒川、上船、塚越、平野
29	平成31年1月7日（月）	第12回農場教員会議 ・学びのコミュニティ支援事業について	磯井、中尾、森田（隆）、林、森田（裕）、片山、田中
30	平成31年1月10日（木）	第14回応用生物化学科会議 ・次年度開講科目の担当者について ・実験機器取扱について 第13回生物環境科学科会議 ・卒業研究発表会の実施要項確認 ・次年度実験・実習の日程確認	加藤、志水、氏田、奥村、湊、林（利）、長澤、前林、松儀、山口（秀）、濱本 長田、日野、新妻、大浦、磯井、村野、船隈、近藤、田村、丸山、橋本、汪
31	平成31年1月22日（火）	第1回GAP教育研究会 ・GAP教育を継続して実施するための検討 ・GAPに関する次年度の公開講座に向けた検討	平野、鈴木（康）、荒川、上船、塚越、津呂
32	平成31年1月24日（木）	第15回応用生物化学科会議 ・入試選択科目と入学後学生の成績等についての意見交換 ・次年度の共通教養科目について 第14回生物環境科学科会議 ・入試選択科目の変更検討	加藤、志水、氏田、奥村、湊、林（利）、前林、松儀、山口（秀）、濱本 長田、日野、新妻、大浦、磯井、村野、船隈、近藤、細田、丸山、橋本、汪

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 農学研究科 ）
推進組織名（ 農学研究科 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

目標：平成31年度始動新カリキュラム実施の準備

活動内容：

- ①新カリキュラム実施に向け、非常勤講師選定、新規便覧の作成などの準備を行った。
- ②修士課程および博士課程の論文作成指導に関し、複数指導体制の確立に向けた議論を行った。
- ③大学院入学者の枠を拡げるため、社会人入学制度の在り方について検討し、制度を設けた。
- ④大学院生全員が受講する大学院特別演習において、毎回提出を義務づけているレポートの在り方が院生の演習参加の意欲に大きく影響するとの観点から、毎年院生によるアンケートを行い、少しずつ改善を進めている。今年度は、昨年度まで行ってきたプレゼンテーションの内容や話し方などを点数化して評価することを止め 1) 研究内容 2) 論理性 3) スライドの出来具合 4) 発表の仕方のいずれかについて、文章で具体的に改善点などについて指摘する方式に改めた。また、役立つ大学院特別演習をめざし、発表内容に関する質疑・意見などは、できるだけ自分の研究に照らし合わせたコメントとなるよう、記載事項にあえて制限を設けてレポート記載の方向性を明らかにした。これにより、冗長なレポートが減ってきている。レポートが単なる提出物で終わらぬよう、特任助手の協力により集まったレポートに記されたコメントは発表者にすべて開示していることを今年も継続している。

2. 今後の課題、方向性

大学院教育・研究は学部教育と切り離せない部分も多いので、学部の各学科と密に連絡をとるために、戦略委員会の委員の一部メンバー（学科長を含む）が、農学研究科のFD委員会を兼ねるカリキュラム改正委員会を形成して、大学院教育の在り方を検討している。

次年度新カリキュラムでの教育を始めると、運用上改善すべき点などが見えてくると思われるので、その対応を進めたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 7 月 5 日	大学院奨学生制度、海外渡航費補助の在り方、規程作成	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村
2	平成30年 7 月19日	教員資格審査の準備、履修方法の確認	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村
3	平成30年 9 月13日	論文作成指導体制の検討、社会人入学制度の検討	森上・平野・林（利）・汪・河村
4	平成30年 9 月27日	論文作成指導体制の検討、社会人入学制度の検討（継続）	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村
5	平成30年10月18日	大学院指導体制内規（案）作成、便覧内容検討、次年度開講科目確認	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村
6	平成30年11月 8 日	シラバス様式等の検討	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村
7	平成31年 1 月 9 日	社会人入学制度及び入試制度の検討	森上・平野・林（利）・汪・磯井・河村

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（薬学部）
推進組織名（薬学部 FD 委員会）

1. 平成30年度の活動報告

※学生の学修成果を可視化する取組

薬学部独自の取り組みにおける B. 学生の主体的な学びの促進の②及び C. に該当するため、それぞれで検討及び実施を行った。

薬学部 FD 委員会活動目標

FD 活動の定義：薬学部教育理念、目標に到達するために、教職員組織で取り組む教育改善をサポートする。

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

前期88科目実施 回収率平均 78.1%（昨年度82.1%）

後期83科目実施 回収率平均 73.5%（昨年度78.8%）

- ・学生へのフィードバックとしては、授業改善アンケートの自己評価部分をレーダーチャート化し、当該学年の平均を含めて可視化した。
- ・教員へのフィードバックでは、授業改善のヒントとなるように、下記のデータを IR の一環として作成し、フィードバックした。

フィードバック内容：当該科目の各アンケート項目の単純集計グラフ、学生の当該科目の授業スキル及び自己評価についてのレーダーチャート（全科目平均及び当該学年平均含む）、当該科目成績と満足度の関係、当該科目成績と各指標の関連の散布図（基礎学力、授業外学習時間、授業集中、理解度、到達度、満足度）、各系列の科目の各指標の分布グラフ

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

今年度は、これまでの IR による検討も踏まえ、大きなテーマとして、学修成果の評価とすることとし、FD 講演会及びワークショップを企画し、下記の通り実施した。

○第一回 FD 講演会及び第一回 FD ワークショップ

日程：9月13日

テーマ：各科目の内部質保証とアウトカム評価 ～自己点検評価～

①講演：内部質保証とアウトカム評価

長谷川洋一先生

②WS：担当科目についての内部質保証とアウトカム評価の振り返り（個人ワーク）

参加者：42名

各教員の担当科目について、教育目標とディプロマポリシーの関連を各自確認し、その評価及び方略の妥当性の振り返りを行った。

○平成30年度薬学教育開発センター講演会 FD 委員会共催

日程：1月29日

テーマ：成績不振学生の学修意欲を向上させるための考え方について

講演：株コーチングシステムズ 稲垣友仁氏

○第二回 FD ワークショップ

日程：2月13日

テーマ：演習科目のあり方

①演習アンケート結果報告

②演習アンケート結果を踏まえた長期的議論（グループでの議論→まとめ→共有）

③演習担当者 来年度の改善策策定

参加者：教員24名

演習科目についてのアンケート結果を基に、担当ジャンルをまたいだグループを作成し、演習のあり方、効果的な実施方法（内容、評価、量、モチベーションなど）について、議論した。グループ毎に発表し、共有した。長期的観点については教務委員会などへの提案としてまとめると共に、次年度に向けての振り返りを行った。

○第二回 FD 講演会

日程：3月6日

テーマ：思考力をどう捉え、どう測るか

講演：大学入試センター 試験・研究副統括官、研究開発部長 教授 山地弘起氏

「暗記ではなく、考える力を身につけてほしい」という思いは教員共通であるが、実際に思考力をどう捉えて、どのように測定したら良いのかについて、講演を聴き、振り返る時間を共有した。

B. 学生の主体的な学びの促進

①学生フォーラムのサポート

- ・4/21に学生が主体となり、第8回学生フォーラムを開催した。このサポートを行った。参加者（アンケート記載者）は、265人、発表者は口頭及びポスター発表で51名であった。今年度は、発表を中心にプログラム計画を行い活性化した。
- ・今年度のE-プロには、薬学部からは3グループが助成を得て活動した。1グループは他学部との活動も行った。

②学びの成果の可視化

1年生を対象に、深い学びと浅い学びのアンケートを行い、学習スタイルを確認し、後期の指導教員との面談に利用した。

2年生を対象に、学修成果の評価ルーブリックの自己評価結果をレーダーチャートにし、指導教員との面談に利用した。この面談では、1年次の学習成績についてもレーダーチャートにし、自己評価と照らし合わせ、1年次の学習の振り返りに役立たせた。

4年生を対象に、PROGテストを実施した。

1-4年生を対象に、ディプロマルーブリックを利用した1年の振り返りを3月に実施予定である。

また、2年生については、深い学びと浅い学びのアンケートを行う予定である。

6年生については、国家試験模擬試験の推移をレーダーチャートとし、努力を可視化すると共に、教員からのアドバイスのサポートを行った。

C. 教育活動の可視化と IR の実施

IR 基盤データベースにより、授業評価アンケート、各種学生アンケート、学習スタイル調査、アクティブ度調査、PROG 調査、ディプロマルーブリックによる学修成果自己評価などのデータを基に教学 IR を実施した。学習スタイル調査を元にした追跡調査、アクティブラーニング導入の推移、授業評価アンケートと学生アンケート、問題解決能力の外部指標である PROG 調査との関連、留年の要因調査、新コアカリキュラムでの学習成果と旧カリキュラムとの比較、ディプロマルーブリックによる自己評価と各科目の直接評価との関連などについて検討した。その結果を基に、今年度の FD 講演会及び FD ワークショップの企画を行い実施した。また、学びのコミュニティ創成事業として、「ポートフォリオを活用した学生の主体的な学びのサマライズとリフレクションを促すサポート」について検討を行った。

2. 今後の課題、方向性

A. 実質的な授業改善

①授業改善アンケートによる学生の学びの問題点の抽出

次年度も今年度と同様に履修系統図ポートフォリオの利用により、学生の学びのサポート、可視化を行うと共に、授業評価アンケートを実施する。年々、アンケート回答率が低下しているため、その対策を行う。また、次年度も、継続的な IR の実施と定期的な検討会を実施すると共に、その結果から具体的な対策を提案する。

②学びの問題点に対する教育改善方法の検討・提案

次年度も今年度の IR による分析を踏まえ、課題解決のための FD 講演会の開催と教員への研修機会の提供を行う。

B. 学生の主体的な学びの促進

①学生フォーラム及びE-プロのサポート

②学びの成果の可視化

次年度も今年度と同様に、学生フォーラム実行委員会のサポートを中心として、活動を行う。また、各種学修成果、授業改善アンケート、ディプロマポリシーの評価などについて、可視化し、フィードバックを行う。6年生に対しては、今年度と同様に、国試対策委員会との協働による6年生の学びの記録の作成を行う。

C. 教育活動の可視化と IR の実施（教育の質向上プロジェクト）

①学生の学びの可視化：履修系統図ポートフォリオの維持改善

② IR 基盤データベースの構築による IR の実施と教育改善の提案

FD 委員会を中心に、各委員会と協働し、教育活動の可視化と問題点の把握、改善に向けた提案が行えるように、IR を推進する。定型的なリサーチクエスションの検討をすすめ実施する。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 6 月 5 日	議題 1. PROG テストの実施について	メール会議
2	平成30年 6 月13日 第一回 FD 委員会	議題 1. 平成30年度 FD 委員会活動について 2. 平成30年度前期授業改善アンケートについて 3. 教員の FD 活動取り組みについて 4. 学生フォーラム及び E-プロ報告 5. PROG の実施について 6. IR について 7. その他	大津委員長（議長）、山田、井藤、飯田、事務 中村（文）
3	平成30年 8 月12日 第二回 FD 委員会	議題 1. 学位授与方針対応表を用いた教育課程の自己点検の実施について 2. 演習に関するワークショップについて 3. FD 委員会、自己点検評価委員会合同講演会及びワークショップ内容について	大津委員長（議長）、丹羽、山田、梅田、井藤、飯田、田口、事務 中村（文）
4	平成30年 9 月13日 第一回 FD 講演会、第一回 FD ワークショップ	テーマ：各科目の内部質保証とアウトカム評価～自己点検評価～ 講演：内部質保証とアウトカム評価 薬学部教授 長谷川洋一氏 WS：担当科目についての内部質保証とアウトカム評価の振り返り（個人ワーク）	参加者：教員42名
5	平成30年11月20日	議題 1. 後期授業評価アンケートの実施時期 2. 後期授業評価アンケート実施科目 3. フィードバック 4. 回答促進対策	メール会議

回	日 程	議 題	出席者氏名
6	平成30年12月12日 第三回 FD 委員会	議題 1. 演習に関するアンケート及びワークショップについて 2. アセスメントポリシーに基づく評価の試行について 3. その他 報告 1. FD 参加状況 2. 後期授業アンケート 3. PROG テストについて 4. FD フォーラム企画について 5. 学習スタイル調査結果について 6. ①学生の学びの可視化の手段としての履修系統図ポートフォリオの活用 学びのコミュニティ創成事業「ポートフォリオを活用した学生の主体的な学びのサマライズとリフレクションを促すサポート」について	大津委員長（議長）、丹羽、山田、井藤、飯田、事務 中村（文）
7	平成31年 1月7日～1月17日	演習に関するアンケート調査 対象：演習科目担当教員	WEB アンケート
8	平成31年1月29日	平成30年度薬学教育開発センター講演会 共催 成績不振学生の学修意欲を向上させるための考え方について 演者：株コーチングシステムズ 稲垣友仁氏	田口、大津、山田、井藤、飯田
9	平成31年2月6日	議題 1. 演習についての WS 及び FD 講演会の内容、進め方について	メール会議
10	平成31年2月13日 第二回 FD ワークショップ	テーマ：演習科目のあり方 ①演習アンケート結果報告 ②演習アンケート結果を踏まえた長期的議論（グループでの議論→まとめ→共有） ③演習担当者 来年度の改善策策定	参加者：教員24名
11	平成31年3月6日 第二回 FD 講演会	FD 講演会 日時：3 / 6 水曜日 13:00-15:30 (ワークを含む) 場所：八事キャンパス1号館6階 大会議室 講演者：山地弘起先生 大学入試センター 試験・研究副統括官、研究開発部長 教授	拡大教授会メンバー
12	平成31年3月 第四回 FD 委員会	本年度振り返り	FD 委員会委員
13	平成31年3月 拡大教授会報告	本年度の FD 活動総括	拡大教授会メンバー

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 薬学研究科 ）
推進組織名（ 大学院薬学研究科 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

1) 大学院薬学研究科 FD 委員会の活動方針と目標

薬学研究科における教育の質の向上を図るため、薬学研究科 FD 委員会が中心となって FD 活動を推進する。この活動を通じて研究科全教員が実効性の高い授業改善を進めるとともに、所属学生の研究活動が活性化されるよう教育遂行能力や指導力の向上を図る。

2) 平成30年度の FD 委員会の活動内容

以下について活動を行った。（行っている。）

- 教員・学生に対する授業評価アンケートの実施と評価のフィードバック
- 教員・学生に対する特殊研究アンケートの実施と評価のフィードバック
- 副指導教員との面談の実施

3) FD の取り組みを推進する具体的な活動実績

I. 授業評価アンケートを活用した今後の授業改善について

平成30年度「特論」科目（講義）に関するアンケートを前期・後期の終了時にそれぞれ実施した（後期は今後の予定）。アンケート結果を担当教員に配布し、次年度のシラバスや授業内容・方法の改善へ向けた情報としての利用を促した。

II. 特殊研究評価アンケートについて

3月2日・9日（土）に特殊研究成果発表会の後に特殊研究評価アンケート調査を実施し、結果を教員・学生双方にフィードバックした。

III. 副指導教員との面談について

昨年度に引き続き、副指導教員との面談機会を設け、主指導教員とは異なる多様な助言が得られるような環境づくりを推進した。

IV. 特論（大学院講義）の開講時期の変更について

昨年度まで毎年開講していた全5専修分野の特論を、今年度から3専修分野と2専修分野に分けて隔年開講とし、取得年次を単年から複数年に変更した。学生からは、各講義に2学年の学生が受講することで学年を越えた交流や学び合いの機会が増え、業務都合による単位取得機会を逸する不安が解消できたとの声を聞いている（特に社会人学生の場合）。一方、教員からは、受講学生数が倍増し講義が活性化したと好評のようである。

2. 今後の課題、方向性

(1) 授業改善へ向けたアンケートの実施

次年度も今年度と同様に大学院講義に対するアンケートを実施する。学生・教員双方からの要望や改善点を大学院運営委員会で報告・共有化し、講義が学生にとっての継続的な学びの場となるよう講義内容や実施方法を改善していく。また、必要に応じて、大学院講義の在り方について、学部FD委員会と協同し、FDワークショップの実施を検討する。

(2) 「教育」の工夫や実践を知る機会の提案、提供

FD講演会の開催と教員への研修機会の提供は、今後の検討課題である。学部との共催も視野に入れ検討したい。

(3) 特論の開講時期を変更したことに対するアンケートの実施

特論の開講時期を隔年としたのち、2年目にあたる次年度で開講科目が一巡する。そこで、学生及び教員に対してアンケート調査を実施し、不具合などがあれば次々年度へ向け、さらなる改良を図っていく。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年9月6日（木）	平成30年度 前期授業評価アンケートについて	全学生 平松正行、大津史子、岡本浩一、亀井浩行、丹羽敏幸、北垣伸治、永松正、灘井雅行、能勢充彦、野田幸裕、原脩、脇田康志、加藤美紀、小島良二、坂井健男、田辺公一、半谷眞七子、間宮隆吉
2	平成30年9月～10月	副指導教員との面談	全学生 平松正行、岡本浩一、金田典雄、北垣伸治、栗本英治、永松正、灘井雅行、丹羽敏幸、野田幸裕、早川伸樹、山田修平、湯川和典、脇田康志、加藤美紀、半谷眞七子、間宮隆吉
3	平成31年2月14日（木）	平成30年度 後期授業アンケートについて	全学生 築山郁人、永松正、黒野俊介、半谷眞七子、マーク・リバック
4	平成31年3月9日（土）	平成30年度 特殊研究評価アンケートについて	全学生 平松正行、飯田耕太郎、井藤千裕、大津史子、岡本浩一、小田彰史、金田典雄、亀井浩行、北垣伸治、小島良二、神野透人、田口忠緒、築山郁人、永松正、灘井雅行、二改俊章、丹羽敏幸、能勢充彦、野田幸裕、長谷川洋一、原脩、早川伸樹、山田修平、湯川和典、脇田康志、伊東亜紀雄、今西進、打矢恵一、奥田知将、加藤美紀、栗本英治、黒野俊介、小森由美子、坂井健男、高谷芳明、田辺公一、豊田行康、根岸隆之、半谷眞七子、マーク・リバック、間宮隆吉、村田富保

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学部 ）
推進組織名（ 都市情報学部 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

学部においては、正課授業である「教養演習Ⅰ（キャリア形成論）」と「学習力調査」の報告会を教授会前に1回実施し、新入生および履修学生の状況と経年変化の報告に加え、今後の展開などの情報を共有した。また、本学部学生の修学状況の現状報告とともに指導基準・方法等を教務委員会および教授会内での議論・意見交換を経て平成27年度より制度化のうえ実施している。

学部内推進組織と位置付けられた学部FD委員会を中心とした取り組みとして、全学年において「社会人基礎力診断テスト」を実施している。新入生を対象として、フレッシュャーズセミナーにて社会人基礎力診断テストを実施のうえ、都市情報学概論Ⅰの講義内において「社会人基礎力」について説明を行い、学生の修学意欲の向上に役立てている。2年次以上の学生についても、継続的に自身の社会人基礎力の成長度合いを確認することを目的として、ゼミナール等にて診断テストを実施、集計結果については教授会にて学年間・年度別・経年比較による在学生の傾向についての報告、情報提供を行った他、今年度より4年次の卒業論文提出に併せて実施し、入学時から卒業時までの推移把握により在学生指導の検討を行うこととした。

授業改善アンケートについては、専任・非常勤教員を問わず、学部として対象科目を拡大（2科目以上）して実施、フィードバックされた集計結果より各教員が改善に繋げていく取り組みを行っている他、各ゼミナールにおいては、卒業論文発表会・中間発表会を実施し、研究の質向上やプレゼンテーション方法の充実に繋げる取り組みを行っている。

その他、在学生の状況・様子、講義の受講状況の報告に加えて、教員間での講義運営方法等について必要に応じて情報交換を行っている。

2. 今後の課題、方向性

「授業検討会」を定期的に開催することを目指す。

また、学部内関連委員会との連携の下、学部FD委員会を中心とした系統的な取り組みの検討・実施を考えている。具体的には、講義・ゼミナール運営の工夫・改善点についての意見交換、学生の受講状況等について情報共有を通して、教育の組織的な改善に繋げていくための取り組みの場としたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 4 月 9 日 (FD 委員会)	平成30年度社会人基礎力診断テストについて	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
2	平成30年 4 月12日 (教授会)	平成30年度社会人基礎力診断テストについて	学部教授会構成員
3	平成30年 4 月18日 (FD 委員会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (1・2 年次学生) について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
4	平成30年 4 月26日 (教授会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (1・2 年次学生) について	学部教授会構成員
5	平成30年 5 月18日 (FD 委員会)	平成30年度前期授業改善アンケート実施科目について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
6	平成30年 5 月24日 (教授会)	平成30年度前期授業改善アンケート実施科目について	学部教授会構成員
7	平成30年 6 月11日 (FD 委員会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (3・4 年次学生) について 平成30年度前期授業改善アンケート実施科目について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
8	平成30年 6 月28日 (教授会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (3・4 年次学生) について 平成30年度前期授業改善アンケート実施科目について	学部教授会構成員
9	平成30年 9 月20日 (教授会)	「学習力調査」結果および「教養演習 I (キャリア形成論)」実施報告会	学部教授会構成員
10	平成30年10月11日 (FD 委員会)	2019年度 MEC プログラムについて 2019 年度推薦合格者入学前教育について FD 取組を推進する組織の活動報告 (中間) について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
11	平成30年10月26日 (FD 委員会)	2018年度事業計画書 (中間の自己評価) について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
12	平成30年11月22日 (教授会)	平成30年度後期授業改善アンケート実施科目について	学部教授会構成員
13	平成30年12月14日 (FD 委員会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (4 年生・卒業時) について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)
14	平成30年12月20日 (教授会)	平成30年度社会人基礎力診断テスト (4 年生・卒業時) について	学部教授会構成員
15	平成31年 2 月 5 日 (FD 委員会)	FD 取組を推進する組織の活動報告について	学部 FD 委員 (亀井教授、小池教授、杉浦 (真) 教授、若林教授)

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 都市情報学研究科 ）
推進組織名（ 大学院学務委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

都市情報学研究科においては、大学院生に専門知識や問題解決力の向上とともに、社会人基礎力のスキルアップが必要と考え、大学院学務委員会を中心に検討を行い、平成25年度より教員および大学院生に以下の「社会人基礎力育成プログラム」への参加、修士論文や博士論文の成果向上に反映させる活動を開始した。また、成績評価・論文審査・研究進捗の評価確認をする一方、「指導方法が効果的であったか、適切であったか、改善の余地はないか」など、FD の取り組みとして社会人基礎力調査を毎年行っている。2018年度においても同様な FD に継続的に取り組み、大学院生の研究推進および発表活動の活性化に繋げている。

- 1) 社会人基礎力に必要な「基礎学力」や「専門知識」などの『技術的能力』に加え、「コミュニケーション能力」や「バイタリティー」、「積極性」、「協調性」などの『行動能力』を意識させるため、社会人基礎力診断を年2回程度行う。
- 2) 大学院入学後、遅くとも半年以内に研究テーマおよび研究計画書を主査教員の指導で作成するとともに、副査を含めた研究に関するディスカッションの機会を学生自ら計画し、実施する。
- 3) 公開講座に大学院生の参加を推奨し、討論や質疑に積極的に参加する。
- 4) 大学祭や公開講座での学部学生や学外参加者に対する研究発表を推奨する。
- 5) 各年度末に行われる研究報告会（中間発表および審査発表）に、すべての大学院生および教員の参加を促し、学生相互で研究報告内容の評価をする。
- 6) すべての大学院教員に教室内での座学に留まらず、少なくとも半年に1回以上の学外での体験学習や外部講師とのディスカッションの機会の設定を推奨する。

また、今年度より研究科独自にて大学院生満足度調査を導入し、研究科に対する学生からの意見・要望を参考としつつ、改善に向けた検討を行っていくこととした他、月1回の学部教務委員会、大学院学務委員会において、学生の受講状況や講義の状況等について継続的な議論を行っている。

2. 今後の課題、方向性

今後も大学院生には、社会人基礎力のスキルアップのための「社会人基礎力育成プログラム」への参加を推奨し、修士論文や博士論文の成果向上の定期的な検証を継続的に行う。

また、大学院生満足度調査の結果から学生の要望の把握・改善に努めるとともに、学部FD委員会との連携の下、組織的な取り組み改善に繋げていく場としたい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 5 月24日 (大学院学務委員会)	大学院生を対象とした FD 活動について	大学院学務委員 (大野教授、赤木教授、昇教授、森杉教授)
2	平成30年10月18日 (大学院学務委員会)	FD 取組を推進する組織の活動報告 (中間) について	大学院学務委員 (大野教授、赤木教授、柄谷教授、森杉教授)
3	平成30年12月13日 (大学院学務委員会)	平成30年度修士論文発表会および審査会の日程について 大学院生社会人基礎力診断および大学院生満足度調査の実施について	大学院学務委員 (大野教授、赤木教授、森杉教授)
4	平成30年12月20日 (研究科委員会)	平成30年度修士論文発表会および審査会の日程について 大学院生満足度調査の実施について	大学院都市情報学研究科委員会構成員
5	平成31年 1 月17日 (大学院学務委員会)	平成30年度都市情報学研究科修士論文および博士論文の中間発表会日程について 大学院生満足度調査について (継続)	大学院学務委員 (大野教授、赤木教授、昇教授、森杉教授)
6	平成31年 1 月24日 (研究科委員会)	平成30年度都市情報学研究科修士論文および博士論文の中間発表会日程について 大学院生満足度調査について (継続)	大学院都市情報学研究科委員会構成員

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（人間学部）
推進組織名（人間学部 FD 委員会）

1. 平成30年度の活動報告

人間学部 FD 委員会は、FD 委員長、学務委員長（学務系）1 名、学務委員長（教務系）1 名、FD 委員 3 名、および教務事務職員 1 名によって構成される。人間学部の教員団の教育・研究を含めた資質・能力向上を活動目標として FD 活動に取り組んでいる。人間学部教授会では、第 1 回から第 9 回までの大学教育開発センター委員会での FD に関連する事項が報告され（2019 年 2 月 8 日時点）、本学の FD 活動についての情報共有が図られた。平成30年度には主に以下の FD 活動に取り組んだ。

- ・ 人間学部 FD 委員会の開催
- ・ 前期と後期における学修成果の可視化を目的とした外部調査（ジェイ・サーブ）の実施
- ・ 第 1 回人間学部 FD フォーラム（人間学研究科合同）の開催
- ・ 第 2 回人間学部 FD フォーラム（人間学研究科合同）の開催（2 月 26 日開催予定）

5 月に開催された第 1 回人間学部・人間学研究科による合同 FD 委員会では、平成30年度における FD 活動の計画および進め方に関して協議を行った。その後、人間学部 FD 委員会から提案された学修成果の可視化を目的とした外部調査（ジェイ・サーブ）の実施が教授会にて承認されたため、7 月から 10 月にかけて 3 年次開講の必修科目である「基幹ゼミナール」の授業において昨年に引き続き 2 回目となる調査が行われた。

第 1 回および第 2 回の合同 FD 委員会で前期の FD 活動に関する協議を重ねた結果、人間学部ならではの授業とも言える 1 年次の前期の必修科目である「人間学総論」をテーマとした平成30年度第 1 回人間学部・人間学研究科合同 FD フォーラムを後期の 10 月 11 日に開催することが決定された。同科目は、人間学部の開設時より多くの教員によるオムニバス形式で開講されてきたが、本年度より「心理」「社会・教育」「国際・コミュニケーション」の各系からの共通テーマに関連する講義と、学生によるグループ討論を通して、教員と学生が共に考えることで学生の主体的な学びを促す新しい形態の授業となった。したがって、授業方法および学生の取り組み等について学部内で情報を共有することが本フォーラムの趣旨とされた。当日は、各系からの代表による授業に関する報告がなされた後、「人間学総論」に関する学生へのアンケート調査結果が教務系の学務委員長から報告され、それらを踏まえた上で、全体で意見交換が行われた。参加者数は 22 名であった。

また、2 月 7 日に開催された第 4 回合同 FD 委員会において、後期のさらなる FD 活動について検討した結果、上述の 2 回目の実施となった「ジェイ・サーブ」の調査結果に基づき、今後の学生の能動的な学びをどのように促進していくかについての意見交換を行うための第 2 回人間学

部・人間学研究科合同 FD フォーラムの開催が決定された。このフォーラムは 2 月 26 日に開催される予定である。

2. 今後の課題、方向性

人間学部の学生の 4 年間における学びを支援するための、教育内容および教育環境のさらなる改善に取り組むために、学生の授業満足度を高めるための教育改善に向けた検証と分析に取り組む予定である。次年度には以下の FD 活動を予定している。

- ・ FD 委員会の開催
- ・ FD 情報の共有化のための活動
- ・ 合同 FD フォーラムの開催
- ・ 新任教員を交えての授業に関する意見交換会

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 5 月17日	学部と研究科との合同第 1 回 FD 委員会 ・ 平成30年度 FD 活動について ・ 学修成果可視化の外部調査実施について	岡戸、神谷、笠井、加茂、西村、志村、鈴木、加藤千咲子 伊藤康児（委任）
2	平成30年 5 月24日	第 4 回教授会 ・ ジェイ・サープの実施について ・ 前期授業改善アンケートの実施について	安藤、伊藤康児、伊藤俊一、笠井、神谷、水尾、船田、宮嶋、和田、ウェストビィ、加茂、櫻井、塩崎、志村、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ 陪席：山田、鈴木
3	平成30年 7 月26日	学部と研究科との合同第 2 回 FD 委員会 ・ 平成30年度人間学部 FD 委員会の活動について ・ 平成30年度 FD フォーラム開催日および内容について	岡戸、神谷、伊藤康児、笠井、加茂、加藤昌弘、西村、志村、鈴木、加藤千咲子
4	平成30年10月11日	第11回教授会 ・ 後期授業改善アンケートの実施について	安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、神谷、加茂、塩崎、船田、水尾、宮嶋、和田、ウェストビィ、櫻井、志村、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ 陪席：山田、鈴木
5	平成30年10月11日	平成30年度第 1 回人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラム テーマ：「人間学総論」	岡戸、神谷、宮嶋、安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、加茂、塩崎、船田、水尾、和田、櫻井、志村、ウェストビィ、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ、鈴木、大村

回	日 程	議 題	出席者氏名
6	平成30年11月16日	学部と研究科との合同第3回FD委員会 ・2019年度事業計画書について	岡戸、伊藤康児、笠井、加茂、志村、鈴木、大村
7	平成31年2月7日	学部と研究科との合同第4回FD委員会 ・平成30年度後期FDフォーラム開催日および内容について ・平成31年度人間学部・人間学研究科FD委員会の活動計画について	岡戸、神谷、笠井、加茂、加藤昌弘、西村、志村、鈴木、大村
8	平成31年2月26日	人間学部・人間学研究科共催FDフォーラム	安藤、一ノ谷、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、加茂、塩崎、船田、水尾、宮嶋、和田、ウェストビィ、櫻井、志村、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ、鈴木、大村

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 人間学研究科 ）
推進組織名（ 人間学研究科 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

人間学研究科のFD活動は、研究科主任教授、委員2名（内1名は学部FD委員長を兼務）および研究科担当の教務事務職員1名の4名からなるFD委員会を中心に実施されている。

本年度の活動は、第一に、従来と同様、研究科における授業、研究指導、研究施設等の諸条件に関して、院生を対象にアンケートおよびインタビューを実施し、今後の教育・研究の改善点を明らかにすることであった。第二に、より魅力的な研究科にするために、研究科運営委員会と連携して、本研究科の講義科目の教授法について充実を図ることであった。

一点目のアンケートおよびインタビューに関しては、昨年までの質問内容等を委員会で検討し、一部を修正した上で、1年生に関してはインタビュー、2年生に関してはアンケート用紙の郵送によって実施した。院生からの要望や評価の概要について研究科委員会で報告した。前後期の開講科目数のアンバランスを是正してほしいという要望については、次年度の時間割編成にあたり、すみやかに対応することにした。予算措置を伴う要望（院生自習室の書架）に関しては次年度改善を目指すこととした。

二点目の講義科目のあり方の検討については、研究科FD懇談会を開催して、講義科目において課題解決型の学修を推進するための方策について意見交換を行った。

2. 今後の課題、方向性

本研究科におけるFD活動については、従来のように院生を対象にした授業・研究環境に関するアンケートを継続・発展させると同時に、講義のあり方や研究指導のあり方を見直していく。アンケートに関しては、認証評価に向けて、これまでよりも多面的に院生の意見を吸い上げるために質問項目の見直しを進める。修士論文指導における副指導教員の役割について議論し、副指導教員が修士論文の執筆段階から深く関わるような指導体制を整えることによってより充実した教育体制の構築を進める。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 5 月17日	学部と研究科との合同第1回 FD 委員会 ・平成30年度 FD 活動について ・学修成果可視化の外部調査実施について	岡戸、神谷、笠井、加茂、西村、志村、鈴木、加藤千咲子 伊藤康児（委任）
2	平成30年 6 月28日	第3回研究科委員会 ・FD 授業アンケートについて ・前期授業改善アンケートの実施について	一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、水尾、船田、宮嶋、加茂、櫻井、塩崎、西村、畑中 陪席：山田、加藤千咲子
3	平成30年 6 月28日	研究科 FD 懇談会 ・課題解決型学修の推進について	一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、水尾、船田、宮嶋、加茂、櫻井、塩崎、西村、畑中、加藤千咲子
4	平成30年 7 月26日	学部と研究科との合同第2回 FD 委員会 ・平成30年度人間学部 FD 委員会の活動について ・平成30年度 FD フォーラム開催日および内容について	岡戸、神谷、伊藤康児、笠井、加茂、加藤昌弘、西村、志村、鈴木、加藤千咲子
5	平成30年 7 月26日	修士1年生5名に講義や研究環境に関するインタビューを個別に実施	神谷、加藤千咲子
6	平成30年 9 月 6 日	第5回研究科委員会 ・研究科委員会（院生アンケートとインタビューの結果報告と質疑）	一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、神谷、水尾、船田、宮嶋、加茂、櫻井、畑中 陪席：山田、加藤千咲子
7	平成30年10月11日	平成30年度第1回人間学部・人間学研究科共催 FD フォーラム テーマ：「人間学総論」	岡戸、神谷、宮嶋、安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、加茂、塩崎、船田、水尾、和田、櫻井、志村、ウェストビィ、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ、鈴木、加藤千咲子
8	平成30年11月16日	学部と研究科との合同第3回 FD 委員会 ・2019年度事業計画書について	岡戸、伊藤康児、笠井、加茂、志村、鈴木、大村
9	平成31年 1 月10日	研究科委員会（院生アンケート内容の検討）	宮嶋、神谷、安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、加茂、水尾、船田、櫻井、西村、畑中 陪席：山田、大村
10	平成31年 2 月 7 日	学部と研究科との合同第4回 FD 委員会 ・平成30年度後期 FD フォーラム開催日および内容について ・平成31年度人間学部・人間学研究科 FD 委員会の活動計	岡戸、神谷、笠井、加茂、加藤昌弘、西村、鈴木、大村
11	平成31年 2 月10日	研究科委員会（院生アンケートの結果報告と質疑）	宮嶋、神谷、安藤、一ノ谷、伊藤康児、伊藤俊一、岡戸、笠井、加茂、塩崎、水尾、船田、櫻井、西村、畑中 陪席：山田、大村
12	平成31年 2 月26日	FD フォーラム（学部 FD 委員会後合同実施）	安藤、一ノ谷、伊藤俊一、岡戸、笠井、神谷、加茂、塩崎、船田、水尾、宮嶋、和田、ウェストビィ、櫻井、志村、西村、畑中、原田、加藤昌弘、ビーチ、鈴木、大村

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 外国語学部 ）
推進組織名（ 外国語学部 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

①学生の学修成果を可視化する取組

- a. 6月に1年次生を対象とした TOEIC IP テスト、12月に1・2・3年次生を対象とした TOEIC テスト（1・2年次生は IP テスト、3年次生は公開テスト）を実施した。そのテストの結果を分析し、学生の学修成果を可視化した。

	最高点平均点 (平成31年1月現在)	最高点平均点 (平成30年3月現在)	最高点平均点 (平成29年3月現在)
2016年度入学生（3年次生）	652	613	554
2017年度入学生（2年次生）	633	589	
2018年度入学生（1年次生）	589		

- b. 学生の特徴、学習／生活行動などの学びの習慣のほか、学生自身の自己評価、価値観、満足度などを可視化するために「ジェイ・サープ」という学生調査を12月に実施した。

②その他学部独自の取組

- a. 名城大学外国語学部第5回教育シンポジウム

平成30年7月18日に教育活動発表会をおこない、外国語学部の教員4名が言語学教育に関する発表をおこなった。

一般発表の主題：（1）Incorporating self-directed vocabulary notebooks into CLIL classes（発表者：Tanja McCandie）；（2）Storytelling for Digital Natives（発表者：Paul Wicking）；（3）Activities with Google Classroom（発表者：Nick Boyes）；（4）Structured Learning Through Learning Structures：Principles, Creation, and Collaboration（発表者：Ian Roth）
一般発表の後、ICT ワークショップを開催した。テーマ：How to use WebClass inside and outside the classroom. 発表者：柳沢秀郎

概要：WebClass の利用法を授業内と授業外に分けて実演する。授業内利用では、会議室機能とアンケート機能（クリッカー機能）を紹介し、その即効性が学生の積極的な授業参加に効果的であることを、会議室ログを参照しながら確認する。授業外利用では、テストやアンケートの作成機能、ペーパーテストやレポートなどの評価を入力するブランクレコード機能について説明する。

- b. 英語科目のコーディネーション

英語スキル科目（コミュニケーション、リーディング、ライティング、ディスカッション）を担当する教員が集まり、授業におけるアクティブ・ラーニングの方法を話し合った。とりわけ共同してアクティブ・ラーニングを推進する教材や評価方法を作成した。

c. 授業改善アンケート

大学教育開発センター委員会で指定された科目について、授業改善アンケートを行った。

d. 教員相互の授業参観 (Peer observation)

平成30年6月4日～15日に外国語学部全教員が、自分の担当以外の授業を参観した。その後、参観した人と担当教員は互いに評価し合った上でアドバイスを送り、また、アイデアを交換した。教員相互の授業参観の出席者：外国語学部教員全員

e. CLIL 報告と反省会 (期末)

2018年度後期に外国語学部では CLIL を導入した。2019年度により良い授業を推進し、今までに起こった問題を解決するため、これからの CLIL 授業を改善するための報告と反省会をおこなった。

f. 名城大学外国語学部第6回教育シンポジウム

シンポジウムの内容は言語学教育中心だった。参加者一人一人は授業のアイデアや教材を発表した。

2. 今後の課題、方向性

次年度に向けた FD 委員会及び FD 活動の課題は下記の通りである。

- 英語スキル科目のコーディネーションを続けること。
- 教員相互に授業参観をして、アイデアを交換すること。
- 教員の知識や技能を高めるための Teacher Handbook を作成すること。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年4月11日 (FD 委員会)	1. 平成30年度 Peer Observation 2. 平成30年度 Teaching Symposium 3. 教員研究の情報共有	外国語学部 FD 委員会全員 (ウイキン・岩井・マッケンディ・堅田・呉)
2	平成30年6月27日 (FD 委員会)	1. 平成30年度 Peer observation 2. 平成30年度 Teaching Symposium 3. 平成30年度 後期の FD 活動	外国語学部 FD 委員会全員 (ウイキン・岩井・マッケンディ・堅田・呉)
3	平成30年7月18日	外国語学部第5回教育シンポジウム	村田、富岡、西尾、中山、ガラカー、ホール、プレーバー、ウイキン、マイネハン、柳沢、ロジャース、ロス、ボイズ、藤田、マッケンディ、岩井
4	平成30年10月10日 (FD 委員会)	1. 第6回教育シンポジウム 2. CLIL 報告と反省会 (期末) 3. 2019 English teacher handbook 4. 平成30年度教育功労賞推薦	外国語学部 FD 委員会全員 (ウイキン・岩井・マッケンディ・堅田・呉)

回	日 程	議 題	出席者氏名
5	平成30年12月27日 (FD 委員会)	1. 第 6 回教育シンポジウム 2. CLIL 報告と反省会 (期末) 3. 2019 English teacher handbook	外国語学部 FD 委員会全員 (ウイキン・岩井・マッケンディ・堅 田・呉)
6	平成31年 1 月10日	CLIL 報告と反省会 (期末)	藤田、堅田、西尾、村田、岩井、ウイ キン、柳沢、マッケンディ、藤原、呉、 二神、宮崎、津村、クマーラ
7	平成31年 1 月23日	外国語学部第 6 回教育シンポジウム	ガラカー、ホール、プレーバー、ウイ キン、マイネハン、柳沢、ロジャース、 ロス、ボイズ、ディキンソン、藤田、 マッケンディ、岩井、クマーラ

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 総合学術研究科 ）
推進組織名（ 総合学術研究科教育検討部会 ）

1. 平成30年度の活動報告

《①学生の学修成果を可視化する取組》

総合学術研究科の教育改善のために、入学から卒業までの学生の学びや成長を一貫して把握しながら構成員全体が議論・実践できるようサポートする。

《②その他学部独自の取組》

総合学術研究科の構成員により、以下の活動を推進してきた。

①学生の主体的な学び（アクティブ・ラーニングの推進）に関する取組

- ・「総合学術特論1,2」の開講

学際的な探求活動を通じ、受講生が発表と闊達な討論の技能を高めることを目的としてオムニバス形式で開講された。

- ・「H30年度総合コアプログラム」の開催（春季：4月14日、秋季：9月15日）

全教員・全大学院生が参加し、教員、修了生、及び外部講師による研究発表を行うことで、本研究科のミッションである「自然と人間の共生」について幅広い視野で学び、考える機会とした。

②多様な学修経験に関する取組

- ・「海洋実習」の実施（8月29日）

本研究科大学院生に対して実施された。三河湾において船舶による海洋観測を行った後、愛知県水産試験場にて最新の海洋環境に関連する研究を学んだ。

③その他学部独自の取組

- ・特になし

2. 今後の課題、方向性

教育改善に向けて構成員全員が議論・実践できるよう、教育検討部会を中心に検討を継続する。より積極的に議論の場を設けることが今後の課題である。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 5 月31日	H30年度秋季総合コアプログラムにおける講演テーマと外部講師の検討	総合学術研究科構成員全体 鈴木茂廣、加藤幸久、伊藤康児、田中義人、日比野隆、平松正行、原田健一、森 裕二、和田 実、志村ゆず、内田雄介、景山伯春、神藤定生
2	平成30年 6 月 8 日	総合学術研究科博士後期課程のカリキュラムについて（メール審議）	総合学術研究科教育検討部会 田中義人、伊藤康児、原田健一、景山伯春、志村ゆず
3	平成30年 6 月14日	H30年度論文指導委員会報告書の確認	総合学術研究科構成員全体 鈴木茂廣、加藤幸久、伊藤康児、田中義人、日比野隆、平松正行、原田健一、森 裕二、和田 実、志村ゆず、内田雄介、景山伯春、神藤定生
4	平成30年11月15日	H30年度総合学術研究科事業計画書（中間）の自己評価について	総合学術研究科教育検討部会 田中義人、伊藤康児、原田健一、景山伯春、志村ゆず
5	平成31年 1 月17日	総合学術特論の内容および運営について	総合学術研究科構成員全体 鈴木茂廣、加藤幸久、伊藤康児、田中義人、日比野隆、平松正行、原田健一、森 裕二、和田 実、志村ゆず、内田雄介、景山伯春、神藤定生

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 法務研究科 ）
推進組織名（ 法務研究科 FD 委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

- (1) 次のことを行った。
- ・(学生に対して)「授業等への意見・要望」の申出機会の設定
 - ・(学生に対して)「授業改善アンケート」の実施
 - ・(教員相互間での)「授業参観」の実施
 - ・(各教員による)「授業実施報告書」の提出
- (2) 上記事項を実施するに当たり、研究科委員会に諮り、実施の連絡・周知を図り、実施後は、その結果をまとめて、研究科委員会に報告し、協議を経て、承認を受けている。
- (3) 学生の学修成果の可視化に関する取り組みとして、本研究科では、以前より、GPA を進級要件として考慮していることや、面談を行う際に、学生に学修の状況を事前に記載してもらい、それに基づく面談を行い、そこで得た情報を基に研究科委員会において教員間で学修状況などを確認・検討していることなどが挙げられる。また、司法試験の場合、短答式試験および最終合格の合格者数が法科大学院単位で法務省から公表されていることもあり、その点も、学修成果の可視化としての役割を果たしている。

2. 今後の課題、方向性

法務研究科は平成29年度から学生募集を停止しているが、平成28年度以前の入学者で長期履修を選択した者、休学後に復学した者、および進級を留保された者が現在も在籍している。

来年度は、引き続き教育水準の維持・向上を図りながら、これらの者を課程修了へ導くよう活動する。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者
1	平成30年4月7日	研究科委員会において、「学生からの授業等への意見・要望について」実施することを説明し、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、 飯屋、菊地、庄村、宮島、吉野 准教授：河北、二本柳
2	平成30年4月23日	FD 委員会において、これまでの課題や本年度の取り組み、委員相互の役割分担について協議し、確認した。	村田委員長 河北委員 二本柳委員

回	日 程	議 題	出席者
3	平成30年 5 月12日	研究科委員会において、「学生からの前期授業等への意見・要望の結果について」結果報告を行い、さらに「平成30年度前期授業参観の実施について」実施依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、梅津、菊地、庄村、宮島、村田、吉野 准教授：二本柳
4	平成30年 5 月26日	研究科委員会において、「平成30年度前期の学生による授業改善アンケートの実施について」実施依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、碓氷、梅津、飯屋、菊地、庄村、村田、吉野 准教授：河北
5	平成30年 6 月23日	研究科委員会において、「平成30年度前期授業参観の実施状況について」報告を行い、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、梅津、菊地、宮島、村田、吉野 准教授：河北、二本柳
6	平成30年 7 月14日	研究科委員会において、「平成30年度前期授業実施報告書の作成について」依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、梅津、菊地、庄村、宮島、吉野 准教授：河北、二本柳
7	平成30年 8 月25日	研究科委員会において、「平成30年度前期授業改善アンケート結果について」説明をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、飯屋、菊地、庄村、宮島、村田、吉野 准教授：河北、二本柳
8	平成30年 9 月 8 日	研究科委員会において、「平成30年度前期授業実施報告書について」概要を説明し、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、飯屋、宮島、吉野 准教授：河北、二本柳
9	平成30年 9 月22日	研究科委員会において、「学生からの後期授業に対する要望等について」実施することを説明し、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、碓氷、梅津、菊地、庄村、宮島、村田、吉野 准教授：河北、二本柳
10	平成30年 9 月22日	FD 委員会において、後期に取り組む課題について協議した。	村田委員長 河北委員 二本柳委員
11	平成30年11月10日	研究科委員会において、「平成30年度後期授業参観の実施状況について」実施依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、菊地、庄村、宮島、村田、吉野 准教授：河北、二本柳
12	平成30年12月15日	研究科委員会において、「平成30年度後期授業参観の実施状況について」報告を行い、さらに「平成30年度後期の学生による授業改善アンケートの実施について」実施依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、碓氷、梅津、飯屋、庄村、宮島、吉野 准教授：河北、二本柳

回	日 程	議 題	出席者
13	平成31年 1 月11日	1 月12日の研究科委員会の開催見送りにより、メール会議において、「平成30年度後期授業実施報告書の作成について」依頼をし、了承された。	日比野研究科長、中島主任教授 教授：伊藤（新）、伊藤（博）、碓氷、梅津、仮屋、菊地、庄村、宮島、村田、吉野 准教授：河北、二本柳

法務研究科では、第1回目のFD委員会を上記の通り4月23日に開催し、その前後も随時、FD関連事項について電話やメール、授業の合間を見計らって研究室等で協議するなどによって、絶えず委員間で連絡を取り合っている。

FD 取組を推進する組織の活動報告

学部・研究科・センター（ 教職センター ）
推進組織名（ 教職センターFD 推進委員会 ）

1. 平成30年度の活動報告

今年度の活動方針は次のとおりである。

本大学の教員養成理念は『謙虚で豊かな包容力と力強い実行力を持ち、誰からも信頼される教員』を養成することにある。この教員養成理念に基づき、教職センター専任教員が担当する教職に関する科目の授業内容・方法の改善を行う。

この方針のもと、活動目標は次のとおりである。

教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保を目標に、教職に関する科目の授業改善に向けた活動を企画し、運営する。

活動内容のうち「独自の取り組み」は次の二つである。

- (1) 教職センターFD 活動
- (2) 研究内容や教育内容の発表・交流

なお、教職センターでは「学生の学修成果を可視化する」マクロな指標として、教員採用試験の現役合格者数を採用している。

実績に関わることは以下の四点である。

- (1) 現役学生の合格者数は31名（うち私立学校合格者3名）である（2019年1月29日現在）。公立学校現役合格者数は、教職センター開設以来最高とされた昨年の28名と同じであった。
- (2) 教職センターでは、これまで教務委員会や教職センター会議内でカリキュラムの改定やシラバスの見直しなどの授業改善に関わることを検討してきた。これに加えて、平成28年度からは教職センターFD 活動と称し、個々の授業の改善についての方策を教職センター会議後に行うこととした。

教職センターFD 活動では、一回につき一人の教職センター専任教員が、各自の授業実践や教職課程に関する今後の動向などについての報告を行い、その報告をもとに意見交換を行っている。学習指導要領が改訂され、新学習指導要領実施へと向かっている現在、その動向を知ることによって、自身が担当する授業の今後の在り方のみならず、教職課程全体に関わる在り方を考え合う場となっている。

今年度は、開催時期を2ヶ月早め、5月から行っている。2019年1月29日の時点では、7回の活動を行っている。

- (3) 今年度からは、教職センター会議前の1時間を利用して、FD 活動を行うこととなった。開催時間もほぼ倍（40～50分）となった。これにより、より詳細な情報提供および議論が

が行われている。(昨年度までのFD活動は、火曜日14時からの教職センター会議後に月一回のペースで行っていた。しかし、5限目に授業が入っている教員もあり、十分な時間が取れない場合もあった(実質15～30分間)。)

- (4) 研究内容や教育内容の発表・交流活動として、教職センターFD推進委員会では、教職センター懇談会による教職課程授業担当者(兼任教員、非常勤講師、教員採用試験勉強会担当講師等)への発信、交流及び情報交換、『教職センター紀要』の公刊による研究成果のまとめと発表(専任教員分7件)、『教職センター年報』の公刊によるFD活動のまとめと公表を挙げている。

2. 今後の課題、方向性

- (1) 教職課程科目における適切なアクティブ・ラーニングの導入

普段の授業から、受講者の学習意欲を向上させ、教員を志望する学生の主体的な学びを促進することが望まれている。ただし、アクティブ・ラーニングを導入するにあたり、既存の授業よりも学習効果が上がる場合にのみ導入するべきであり、形式的に導入すれば良いわけではない。学生の主体的、対話的で深い学びを促進するような授業展開・授業形態となるよう工夫すべきである。

- (2) 「学生の学修成果を可視化する取り組み」について

これまで、教職センターでは「教員志望学生の実践的指導力の向上及び教員採用試験合格者の確保」を目標としてきた。そして、実績として「教員採用試験の現役合格者数」を挙げてきた。

しかしながら、「教員採用試験の現役合格者数」が、4年間を通した学生の学修成果を可視化する客観的な指標として妥当であるかどうかという意見もあることから、来年度以降、新たな指標についても検討したい。

- (3) これまで、教職センターでは、センター教員と教職課程授業担当者(兼任教員、非常勤講師、教員採用試験勉強会担当講師等)らを対象に、教職センター懇談会を行ってきた。これは、センター教員と教職課程授業担当者が一堂に会し、教職センターの運営充実に向けた意見交換を目的としたものであった。しかしながら、懇談会は、実質上FD活動の内容も含んでおり、今後は、FD活動の一環として位置付けて開催をしていきたい。
- (4) 法令改定に伴い、今後実施されることになる新科目について、どのような内容や進め方がよいのか等、検討したい。

3. 活動記録

回	日 程	議 題	出席者氏名
1	平成30年 5 月15日	平成 30 年度 FD 活動について	センター教員 8 名（曾山、井中、平山、片山、竹内、木村、谷口、嶋口）
2	平成30年 5 月29日	第 1 回 FD 活動（嶋口准教授）	センター教員 8 名
3	平成30年 6 月26日	第 2 回 FD 活動（谷口准教授）	センター教員 8 名
4	平成30年 7 月31日	第 3 回 FD 活動（木村准教授）	センター教員 8 名
5	平成30年 7 月31日	平成30年度紀要及び年報について	センター教員 8 名
6	平成30年 9 月25日	第 4 回 FD 活動（竹内教授）	センター教員 8 名
7	平成30年10月 9 日	平成30年度年報の執筆担当について	センター教員 8 名
8	平成30年10月23日	第 5 回 FD 活動（片山教授）	センター教員 8 名
9	平成30年12月 1 日	教職センター懇談会	センター教員、教職課程授業担当者（兼任教員、非常勤講師、教員採用試験勉強会担当講師等）ら 18名
10	平成30年12月25日	第 6 回 FD 活動（平山准教授）	センター教員 8 名
11	平成31年 1 月29日	第 7 回 FD 活動（井中教授）	センター教員 8 名
12	平成31年 2 月19日	第 8 回 FD 活動（曾山教授）	センター教員 8 名

6. トピックス

第20回 FD フォーラム実施報告

平成30年10月31日（水）、天白キャンパス共通講義棟東 H304教室において、第20回 FD フォーラム「学生の主体的な学びと学修ポートフォリオ」を開催しました。

基調講演では、大阪府立大学 高等教育推進機構 教育担当副学長の高橋 哲也 教授を迎え、「学修ポートフォリオによる学修・教育支援の取り組み」をテーマにお話しいただきました。学修成果の可視化に関する基本的な理解とその方法、大阪府立大学における e ポートフォリオの導入の背景や、教員、学生、組織としての活用方法についての講演がありました。

事例報告では、東京理科大学 教育担当副学長の岡村 総一郎 教授を迎え、「東京理科大学における学修ポートフォリオの活用事例について」をテーマにお話しいただきました。学修ポートフォリオシステム導入による学修成果の可視化、「授業収録配信システム」によるアクティブ・ラーニングの促進の2つを連携させ、学生自身による学修のPDCA サイクルの確立をするとともに、その中から見えてくる課題からシステムをより良いものへと改修し、本学の教育の更なる質向上を目指す旨の報告があった。

質疑応答では、フロアから多くの意見・質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



第20回 FD フォーラム 所属別参加状況

	所属人数 (※1)	FD フォーラム		
		参加人数	参加率	前回参加人数
教育職員				
学長・副学長	5	3	60.0%	2
法学部	40	4	10.0%	2
経営学部	30	8	26.7%	3
経済学部	27	9	33.3%	22
理工学部	176	30	17.0%	6
農学部	46	8	17.4%	6
薬学部	69	8	11.6%	1
都市情報学部	26	4	15.4%	3
人間学部	21	8	38.1%	8
外国語学部	25	4	16.0%	2
大学院法務研究科	14	1	7.1%	2
教職センター	8	3	37.5%	1
総合学術研究科	14	0	0.0%	0
小計 1	501	90	18.0%	58
事務職員				
監査室	2	2	100.0%	2
秘書室	3	0	0.0%	1
学長室	2	2	100.0%	2
経営本部	12	1	8.3%	2
総合政策部	7	1	14.3%	1
愛知総合工科高等学校専攻科	4	0	0.0%	0
総務部	18	0	0.0%	1
渉外部	10	0	0.0%	1
財政部	14	4	28.6%	4
施設部	12	0	0.0%	0
スポーツマネジメント課開設準備室	1	0	0.0%	－
社会連携センター	3	0	0.0%	0
入学センター	17	0	0.0%	2
学務センター	29	8	27.6%	4
教職センター	4	2	50.0%	0
保健センター	4	0	0.0%	0
障がい学生支援センター	1	0	0.0%	0
大学教育開発センター	5	5	100.0%	5
学術研究支援センター	15	1	6.7%	1
キャリアセンター	19	1	5.3%	0
国際化推進センター	7	1	14.3%	0
情報センター	6	2	33.3%	0
附属図書館	8	1	12.5%	1
法学部	7	0	0.0%	1
経営学部	7	0	0.0%	0
経済学部	7	0	0.0%	3
理工学部	19	1	5.3%	1
農学部	17	1	5.9%	2
薬学部	9	1	11.1%	1
都市情報学部	2	0	0.0%	1
人間学部	2	0	0.0%	1
外国語学部	1	0	0.0%	0
ナゴヤドーム前キャンパス事務室	11	1	9.1%	0
附属高校	8	0	0.0%	0
小計 2	293	35	11.9%	37
合計	794	125	15.7%	95

その他	参加人数	前回参加人数
学部生・大学院生	0	2
非常勤講師（※2）	3	1
学外者	19	7
その他	6	0
合計	28	10

※1 平成30年度所属人数（教員…助手を含む。特任教授は含まない。／事務職員…業務職・契約職員を含む。派遣職員は含まない。）

※2 研究員含む

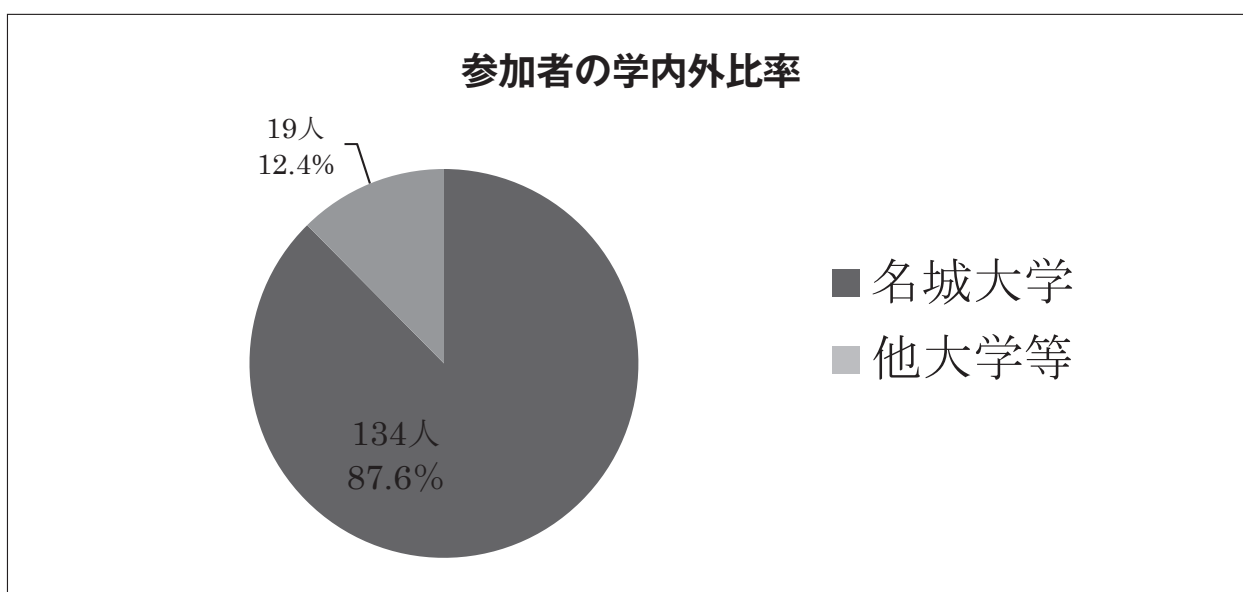
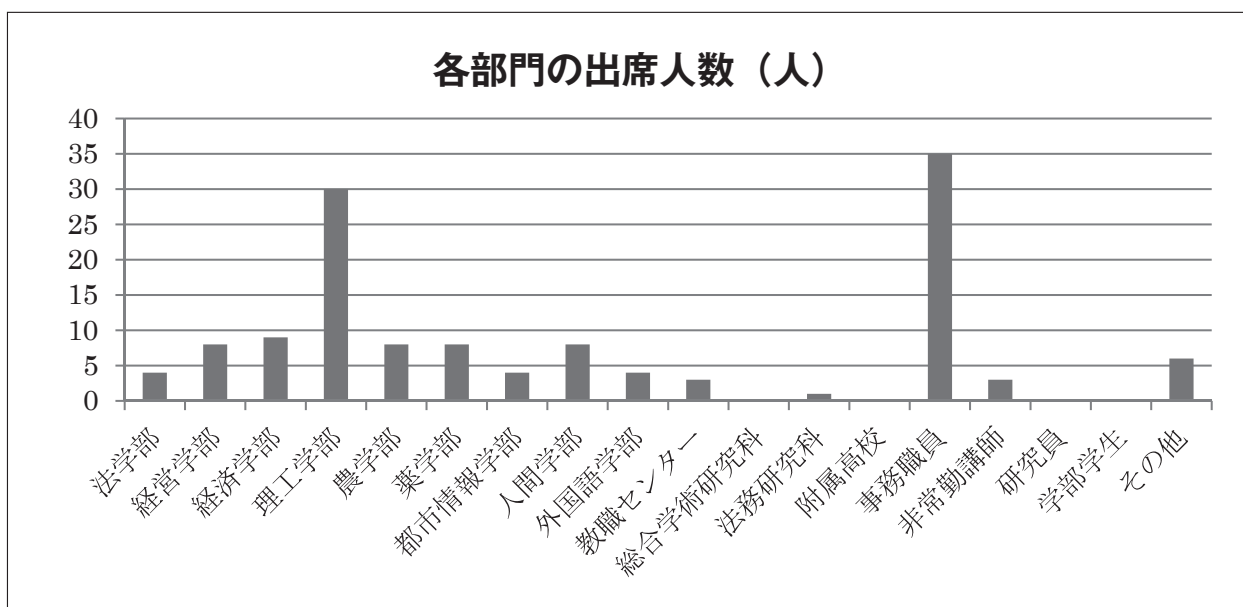
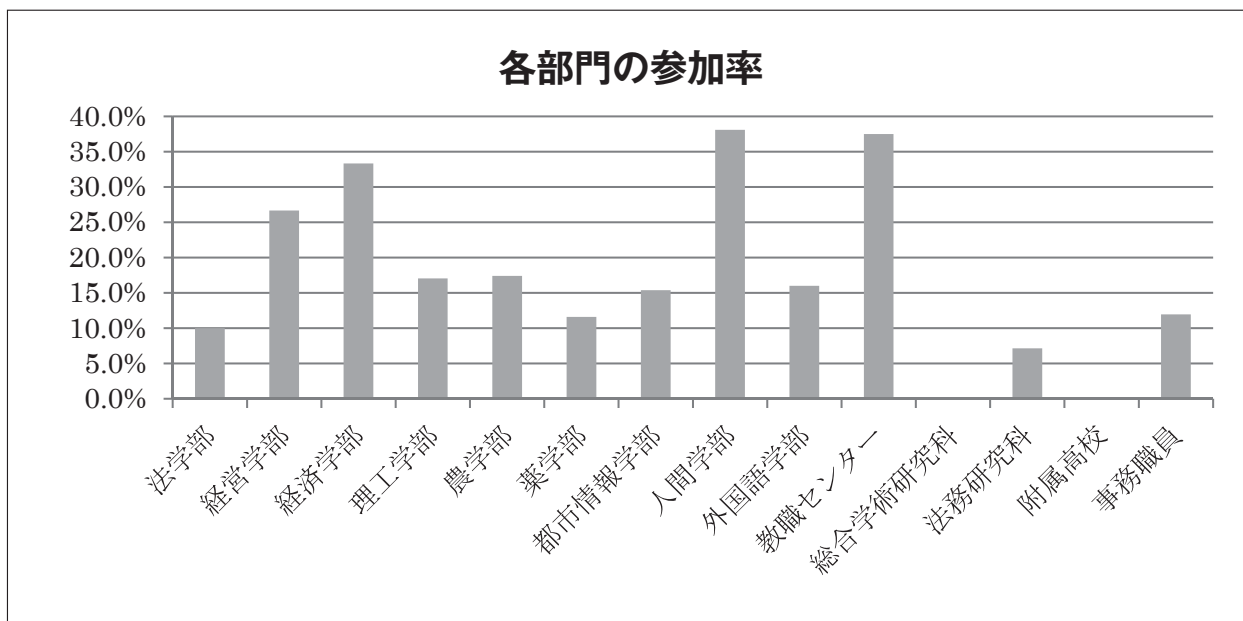
第20回 FD フォーラム 参加者アンケート集計結果

1. 参加者のデータ

① 参加者の属性（表）

所属等		平成30年度			平成29年度（参考）		
		出席者 （人）	在籍者 （人）	参加率 （％）	出席者 （人）	在籍者 （人）	参加率 （％）
名城大学	学長・副学長	3	5	60.0	2	5	40.0
	法 学 部	4	40	10.0	2	38	5.3
	経 営 学 部	8	30	26.7	3	31	9.7
	経 済 学 部	9	27	33.3	22	29	75.9
	理 工 学 部	30	176	17.0	6	173	3.5
	農 学 部	8	46	17.4	6	46	13.0
	薬 学 部	8	69	11.6	1	64	1.6
	都市情報学部	4	26	15.4	3	27	11.1
	人 間 学 部	8	21	38.1	8	22	36.4
	外国語学部	4	25	16.0	2	25	8.0
	教職センター	3	8	37.5	1	8	12.5
	総合学術研究科	0	14	0.0	0	14	0.0
	法 務 研 究 科	1	14	7.1	2	14	14.3
	事 務 職 員	35	293	11.9	37	272	13.6
	非常勤講師	3	－	－	1	－	－
	学 部 学 生	0	－	－	2	－	－
	そ の 他	6	－	－	0	－	－
他大学等	教 育 職 員	7	－	－	2	－	－
	事 務 職 員	9	－	－	4	－	－
	そ の 他	3	－	－	1	－	－
計		153 (学内:134名)	794	16.9%	105 (学内:98名)	768	12.8%

② 参加者の属性（グラフ）



2. アンケートデータ

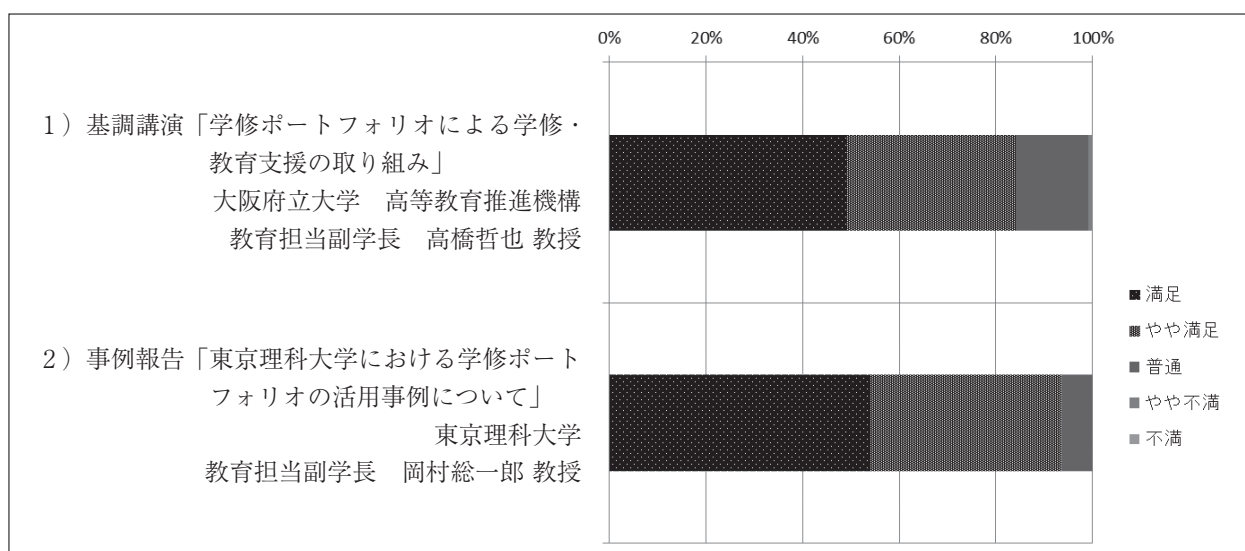
① アンケート回答者の属性（表）

所属等		回答者数（人）
名城大学	専任教員	47
	非常勤講師	1
	職員	25
	大学院生	0
	学部学生	0
	その他	0
他大学	教員	10
	職員	9
高等学校	教員	0
	職員	0
その他		6
未回答等		1
計		99

② 各プログラムの満足度（表）

プログラム名	各項目の回答者数（人）					計
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	
1) 基調講演「学修ポートフォリオによる学修・教育支援の取り組み」 大阪府立大学 高等教育推進機構 教育担当副学長 高橋哲也 教授	46	33	14	1	0	94
2) 事例報告「東京理科大学における学修ポートフォリオの活用事例について」 東京理科大学 教育担当副学長 岡村総一郎 教授	49	36	6	0	0	91

③ 各プログラムの満足度（グラフ）



3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて（自由記述・抜粋）

- ・学んだことを可視化することの大切さ、大変さがよくわかった。これだけのものを作るのは、大きな努力が必要だ。ただ学生にメリットがあるものになるだろう。
- ・「学修ポートフォリオを導入する」とは、結局、大規模なシステムを設計・構築することであると思いました。そのため、学部単位で考えることは非常に難しく、全学的に取り組むべき課題であることを痛感しました。
- ・逆転の発想「Teaching から Learning」の内容には賛同する点が多くあった。教育に熱心な大学であるため、導入に際し反対が少なかったと思われる。学生自身による学修 PDCA サイクルの確立の必要性は強く感じるが、本学においてどのように進めるかは、学内のいくつかの取り組みの状況を考えると、検討していく必要があると思われる。
- ・学生毎の学修自己評価項目別平均値間の相関について GPA との関連が少ない点が意外であり、その理由は何であるかに関心を持った。
- ・授業を収録するのは良い取組みで、学生の授業態度も収録されるので、授業態度の改善にも役立つ。
- ・大学は学生が自主的・主体的に学ぶ場であり、学修を支援し、気づきの機会を与える仕組みとしての学修ポートフォリオの活用は有用であると思われる。しかし活用の仕方によっては、逆に自主性、主体性をつぶしてしまうリスクもあるので慎重に検討することが必要だと感じた。また、コストパフォーマンスの観点から有用性を評価することに疑問を感じた。
- ・学修ポートフォリオの導入、および、それを用いたデータの蓄積や分析を行うことは非常に重要であり、早急に導入すべきと考えます。
むしろ懸念されるのは、これを使う人間（教職員）の能力の問題です。データの分析、せめてデータを正しく読み解く能力や得られたデータや分析結果を正しく使う能力を本学の教職員が身につける必要があります。場合によっては IR や FD の専門性（学位など）をもった教員や職員を採用するべきと考えます。e ポートフォリオの導入には賛成ですが、やるならちゃんとやりましょう。
- ・就職や進学との関連についても話があるとよいと思いました。
- ・現在はまだ個人で授業を担当していないので今後の授業に際してのポートフォリオの利用方法や活用について参考になった。ポートフォリオを学生に利用してもらうために、利用するメリットと教員からのフィードバックの重要性が理解できた。
- ・授業改善アンケートから e ポートフォリオにかえた方が学生・教員両者にとって良いのではないかと思った。
- ・学生の感じ方を部分的にではなく、全体的に把握することが困難かつ重要な課題。
- ・学生がいかに使いやすく抵抗なく（ポートフォリオ等を）活用できるシステムが構築できるかが重要だと思いました。
- ・東京理科大のご講演にあった学生がそもそも自己評価ができるのか（学生自身が100点満点を知らない）は、大変気になる点で、重要な課題と思いました。

- ・学修ポートフォリオと LMS をうまく組合わせるシステムが必要。
- ・GPA と各能力、知識との相関について興味を持ちました。「思考力、コミュニケーション、プレゼンテーション」能力について、成績下位層の方が高いように感じていましたが、可視化されていて、再認識することができました。学生の自主性を育む取り組みの重要性と（少しの）教員の関り方を考え直す機会になりました。
- ・東京理科大での個々の学生の客観的測定法には大変興味を持った。
- ・入力者へのインセンティブの設定が回答率に影響を与えることが分かった。
- ・ポートフォリオを活用することで、学生自身が成長を感じる、見てわかるなど成長の実感をつかむことができるとわかった。
- ・学生が入力してくれるのかは疑問であるが、データ入力を行わなければ、履修登録ができないなどある程度の強制力を持たせてみるのも利用率が上がるかもしれない。
- ・予習、復習のための教材（授業収録配信システム）がスマートフォンですぐにアクセスできると授業外学習時間も伸びる。
- ・ポートフォリオが学習内容の蓄積だけではなく、退学意思のある学生の早期発見など、様々な可能性があるしくみだと感じました。
- ・システムづくりの部分における「支える人材（職員）」の配属や教育に関し、特に東京理科大学の事例から、重要性を強く感じた。

学修ポートフォリオの取り組みに限らず、その取り組みになんらか関わる教職員の中で理解度に大きな差が生じていると、せっかくの取り組みが上手く展開されない事例を本学においてもたまにみかけるため。

- ・講演者ともに副学長であり教育改革の部門に関与していることが共通していた。つまり改革を担う当事者、その部署のもとでなければ改革は進まないと感じられた。また全学の理解を得るための政治力というか、力量が問われていることを痛感した。なお蓄積したデータの活用が次の課題との発言があったが、分析者の評価能力、分析者をどう育成していくのかも重要ではないか。
- ・授業改善アンケートやカリキュラム改革と学修ポートフォリオをどう連関させるか。
- ・ポートフォリオ入力に対する学生のモチベーション。教職員が有効性に気付けるか？
- ・何を学んだのかを正確に評価できる項目を作成する点、そこが重要だと感じました。
- ・学生が主体的に振り返りをすることができる仕組みは重要だと感じたが、入力状況を見ると、やはり学生にとって何のために入力をするのかという意義を考えなければならぬと感じた。
- ・レーダーチャートの値を客観的視点で見た際に、妥当性のあるものなのか。妥当性を測るものはあるのか。
- ・どのようにして、有効なデータ・情報をより多く入力させるか、それをどう活用するか。
- ・1年生に対する PDCA の植え付けが何よりも重要だということ。
- ・可視化することにより学生の意欲や意識がより向上されることがわかった。今後の Certificate programme に活かせればと考える。
- ・講義外の学習をすすめていく上で、講義以外に学生が挑戦している学習、たとえば TOEIC

のスコアなども数値化される（評価される）と学習時間等も伸びてくるかもしれないなあと
思いました。

- ・学修成果の可視化。ポートフォリオの導入。学生自身による成長度の自己評価の在り方。
学生自身による学修のPDCA サイクル。授業収録配信システムによるアクティブラーニング。
レーダーチャート評価式。

4. 学部の教育改善の取組をお聞きになって、所属学部等の教育改善を進める上でヒ ントになったことなどがあればお聞かせください。（自由記述・抜粋）

- ・アンケートを入力させるための方策。
- ・ループリックを作成し、PDCA サイクルを回すことが効果的であるとする。単位取得（60
点達成）とは関係なく、別の視点として重要。
- ・ビデオ講義を多く導入する点は、自宅学習時間の確保につながると思いました。
GPA 制度の導入と使い方は今回の eportfolio の話と表裏一体の話です。これを機に GPA 制
度による成績評価と履修指導への移行を検討するべきと考えます。
- ・大学全学的なシステムの構築が必要であること。
- ・全入時代とリーマンショックからの立ち直りの好景気で学生の質の低下を感じる。e ポート
フォリオは授業を評価するのではなく自身の学びを見る点で授業改善アンケートより学生に
とって良いと思った。学部や学科単位での導入に対する本学の支援はあるか？
- ・「満足度」以外の項目にこそ、注目すべきという気づきを得ることができました。予習、復習、
補助教材の導入の必要性を考える機会になりました。
- ・入学時（一年前期）の学力分布は、卒業時まではあまり変化しない。→入試レベルでの学力
差は関係ないはず。→初年次教育が重要。
- ・授業収録配信システムは、学部の教育改善につながるかと思いましたが、但し、最初に、予
習用と補助教材用コンテンツを作るのもけっこうたいへんかなと思いました。
- ・ポートフォリオ（DP に対応）を学部独自で作りましたが、それぞれのカテゴリーの可否の
記録のみです。もう少し成果が理解できる工夫がしたいです。

5. FD フォーラムやその他の企画で扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意 見・ご要望がございましたらご記入ください。（自由記述・抜粋）

- ・学生の学習意欲が飛躍的に上がった取組例。
- ・文系学部にはやや応用しづらいところもあったように思う。この点について今後の企画の中
で考慮していただければ幸いです。
- ・成績不振の学生に対して、平均レベルまで向上させるための具体的手技について検討するよ
うな企画を設定して欲しい。
学生全体をとらえた教育技術の改善も重要であるが、学生の底上げにも目を向けることでの
平均レベル向上を図ることも考えるべきだと思う。
- ・今回の様なアセスメントの使用事例を聞けることは良いことだと思う。

第20回FDフォーラムアンケート 平成30年10月31日(水)

本日は第20回FDフォーラムにご参加いただきありがとうございました。
今後のフォーラムの企画をはじめ、FD活動の取り組みにおいて参考になるご意見をいただきたいと思いますので、本アンケートにご回答くださいますようご協力をお願いいたします。いただきましたアンケートのご意見は、今後の取り組みの参考にさせていただきます。ご記入後は入口にて回収箱を用意していますので、退出の際にお入れください。

1. あなたについてお聞かせください。(該当するものに○をつけてください)

【名城大学】 1.専任教員 2.非常勤講師 3.職員 4.大学院生 5.学部学生 6.その他 ()
【他 大 学】 7.教員 8.職員
【高等学校】 9.教員 10.職員
【そ の 他】 11.その他 ()

2. 本日の企画内容についてお聞かせください。

プログラム名	該当するものに○を付けてください。				
1. 基調講演 「学修ポートフォリオによる学修・教育支援の取り組み」 大阪府立大学 高等教育推進機構 教育担当副学長 高橋 哲也 氏	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満
2. 事例報告 「東京理科大学における学修ポートフォリオの活用事例について」 東京理科大学 教育担当副学長 岡村 総一郎 氏	1.満足	2.やや満足	3.普通	4.やや不満	5.不満

3. 今回のフォーラムの中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて、具体的にお聞かせください。

- ****
4. 学部の教育改善の取組をお聞きになって、所属学部等の教育改善を進める上でヒントになったことなどがあればお聞かせください。

5. FDフォーラムやその他の企画で扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意見・ご要望がございましたら下記にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

名城大学 大学教育開発センター委員会

当日配布資料

1

学修ポートフォリオによる 学修・教育支援の取組



大阪府立大学 副学長（教育・入試）
高等教育推進機構教授
高橋 哲也
e-mail:takahasi@las.osakafu-u.ac.jp
2018.10.31 名城大学第20回FDフォーラム

1

2

概要

- 学修成果の可視化とその方法
- 大阪府立大学の取組の概要
- eポートフォリオの活用
 1. eポートフォリオ導入背景
 2. 学生による活用
 3. 授業担当教員による活用
 4. 大学組織による活用
 5. システム改善と今後

2

3

学修成果の可視化とその方法

3

4

学修成果

- 何故、学修成果に注目が集まるか？
 - 知識基盤社会への対応
 - グローバル化
 - 社会的圧力（Outcomeを要求）
- Teaching から Learning
「何を教えたか」から「何を身につけたか」へ

4

5

学修成果の測定

- 授業の学修成果
 - 直接評価（試験、レポート等）
- カリキュラムを通じての学修成果
 - 間接評価（学生調査等）（カリキュラム評価であって個人の評価には使えない）
 - 直接評価（卒業試験、TOEIC・TOEFL・CLA(Collegiate Learning Assessment)等の能力評価テスト等）（個人の評価）

5

6

学修成果の測定

- 学生調査（間接評価）と成績評価（直接評価）の両方で行う必要。成績評価が何を測定しているか
- 入学前から卒業後まで、学生ごとに分かる形に
- どういう能力が身についたかを測る仕組みが必要
- 成績評価（直接評価）のあり方の検討、学位プログラムのアセスメントが必要
- e-ポートフォリオは入学時から卒業時までの学習プロセスが分かる点で重要
- 学修成果をどう示すかは高等教育全体の大きな課題

6

7

大阪府立大学の取組の概要

7

8

学修成果の把握に向けて

- GPAの分析（2005～）
GPAが学修成果の把握に使えるか。（使いたい、使えて欲しい）
- 学生調査の実施（2007～）
学生の実態と学修成果の把握（間接評価）継続的な実施と他大学との比較がキーポイント
- e-ポートフォリオ（2012～）
授業アンケートから学修成果の把握へ。自己の学びの振り返りとプロセスの把握。

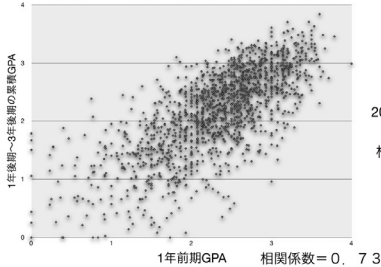
8

9

GPAの分析

1年前期の重要性の認識

1年前期のGPAと累積GPA（1年後期～3年後期）の散布図



2005年度入学生
n=1468
相関係数=0.73

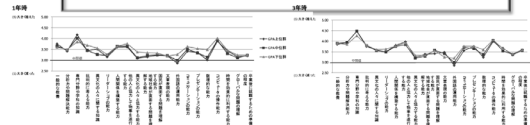
9

10

GPAと能力変化

問10 能力や知識は変化したか（1年時 / 3年時）

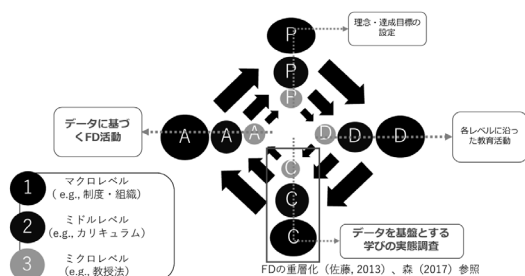
- 1年生調査 / 上級生調査の問10の得点を、GPAタイプ別に分析した。
- 1年時（1年生調査）
「一般的な教養」「専門分野や学科の知識」の得点は、GPA上位群がGPA中位群・GPA下位群よりも高かったが、それ以外の項目では、GPA下位群の得点が高い項目が多く見られた。
・ 思考力やコミュニケーション、プレゼンテーションといった能力項目で、GPA上位群がGPA下位群に比べて得点が高い点が特徴的である。
- 3年時（上級生調査）
1年時の結果とはほぼ同様に、「専門分野や学科の知識」ではGPA上位群・中位群が、GPA下位群に比べて得点が高かったが、それ以外の項目では、GPA下位群の得点の高い項目が依然と多く見られた。
- 全体的に、「専門分野や学科の知識」以外の能力項目とGPAとの間には、あまり関連がないと言える。



10

11

内部質保証システム



11

12

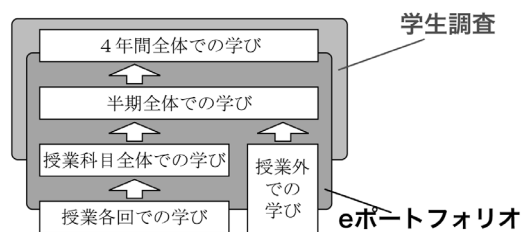
大阪府立大学におけるC

- 学生調査（調査用紙：リッカート方式で評定）
マクロ・ミドルレベルでの可視化が中心
汎用的能力の伸び（大学に入学してからどの程度伸びたか）
教育・環境への満足感（どの程度満足しているのか）
生活時間（一週間の間に活動にかけた平均時間）
- eポートフォリオ（web方式：リッカート方式で評定）
ミクロレベルでの可視化が中心
授業ふりかえり
学びのプロセスと達成度
授業で何を身につけたか
半期ふりかえり
自分が立てた半期学修目標に対するふりかえり
府大が立てた目指す学修成果に対する自己評価

12

13

学修成果可視化の取組



13

14

学生調査

- 2007年以降、毎年学生調査を実施（学年単位の全数調査）
- 2009～2011 大学間連携GP「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出－国公立4大学IRネットワーク」から共通の学生調査を実施（1年生、上級生）
- 2012～ 大学IRコンソーシアム発足し共通調査継続、8大学連携事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」では卒業生調査も開始。大学IRコンソーシアムは現在54大学が参加し、40,000人が参加する共通調査に発展。
- 卒業予定者・修了予定者アンケートは本学独自で実施（隔年での実施）

14

15

学生調査の種類

種類	対象	実施時期	実施年度	調査方法	配布・回収方法
一年生調査	B1	毎年11月頃	2009～	質問紙	授業時間内 (必修科目)
上級生調査	B3	毎年10月頃	2011～ (2017を除く)	質問紙	授業時間内
卒業予定者アンケート	B4	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
修了予定者アンケート	M2	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
卒業生調査	卒後5年	毎年8月頃	2014～	質問紙	郵送

内が大学IRコンソーシアムの共通調査

一年生、上級生調査はeポートフォリオを通じて学生にフィードバック

15

16

eポートフォリオの活用

16

17

1. eポートフォリオ導入背景
2. 学生による活用
3. 授業担当教員による活用
4. 大学組織による活用
5. システム改善と今後

17

18

本学における「授業アンケート」の諸課題

- 授業評価中心
 - 学生から評価される事への抵抗感
 - 満足度のみが注目されがち
- 上手く活用する事が難しい
 - 回答率の低下（webでの任意回答）
 - 教員個人でのデータ分析が手間
 - 部局によって異なるアンケート項目
- 学生への直接的メリットがほとんど無い

18

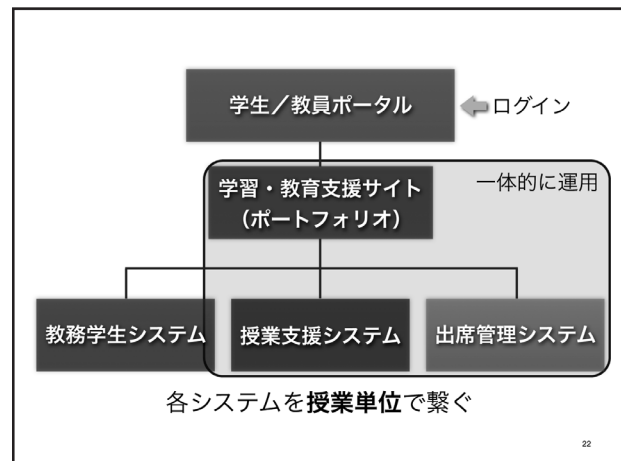
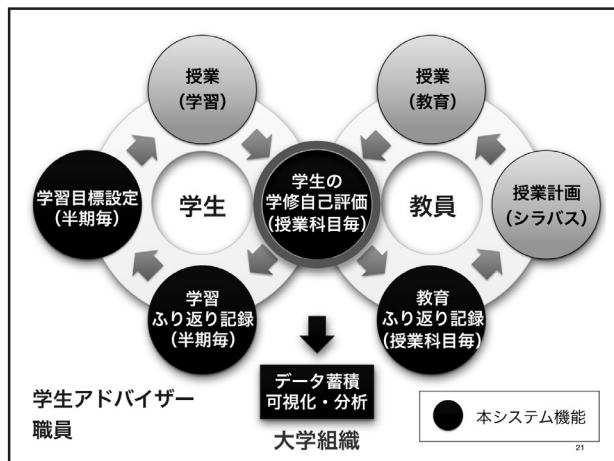
授業アンケート から eポートフォリオ へ

- ・2009年7月 全学の「教育改革専門委員会」へ提案

(従来)	(見直し案)
学生による授業評価	学生による学びの自己評価
回答残らない	回答蓄積・閲覧可
アンケート	e ポートフォリオ
教員のため	学生自身のため

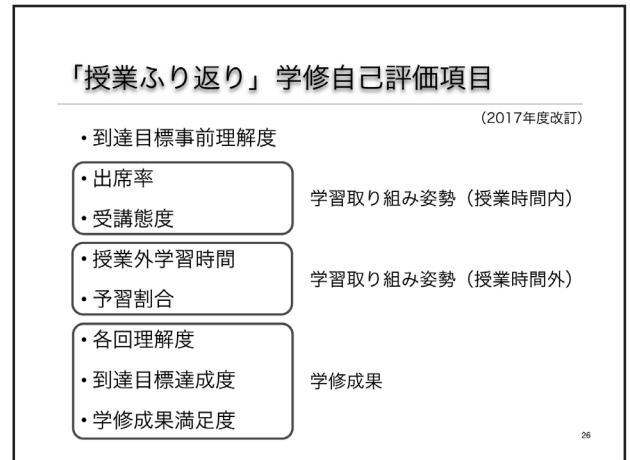
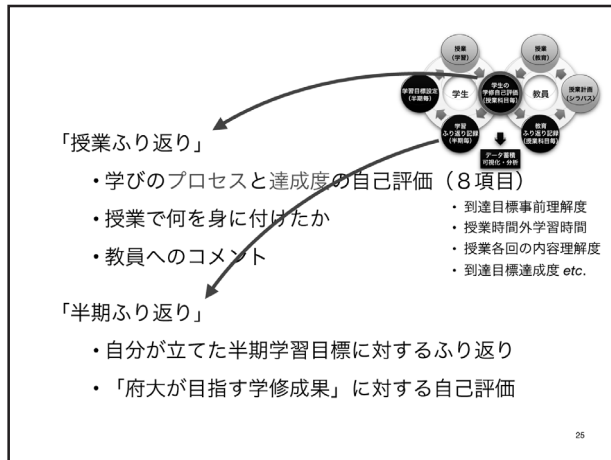
TeachingからLearningへの視線の転換

- 2010年 「ICTアクションプラン」 検討委員会立ち上げ
 - ・ 学術情報センターと高等教育開発センターを中心に
 - ・ ICTの教育・学習への活用と促進を検討
- 2011年 「ICTアクションプラン」 策定
 - ・ 授業支援（LMS、出席管理）
 - ・ 学習・教育自己改善支援（eポートフォリオ）
 - ・ 個人に対する支援（インフラ等整備）
- 2012年 eポートフォリオ運用開始 ← 学域・学類制の導入
 - ・ 「学習・教育支援サイト」として



1. eポートフォリオ導入背景
2. 学生による活用
3. 授業担当教員による活用
4. 大学組織による活用
5. システム改善と今後





「授業ふり回り」入力画面

2013年度 前期 物理学A

成績情報、自己評価集計等

授業目標

到達目標事前理解度

到達目標達成度

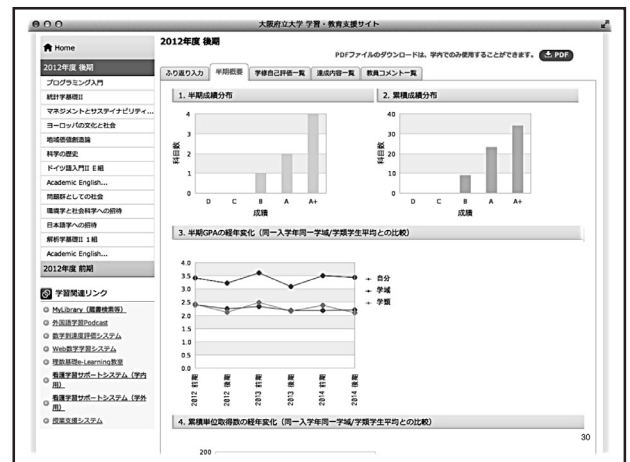


「半期ふり回り」入力画面

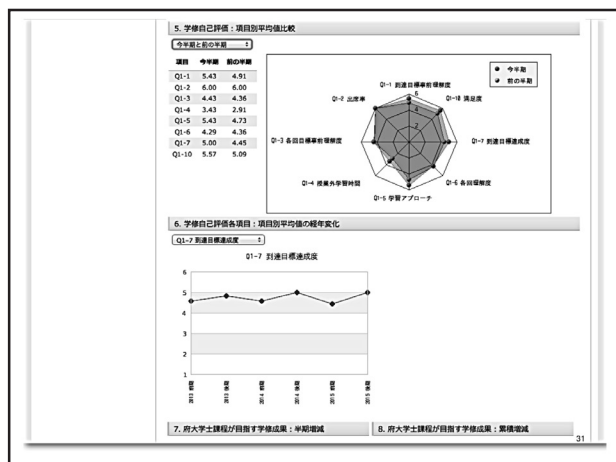
2012年度 後期

半期学習目標

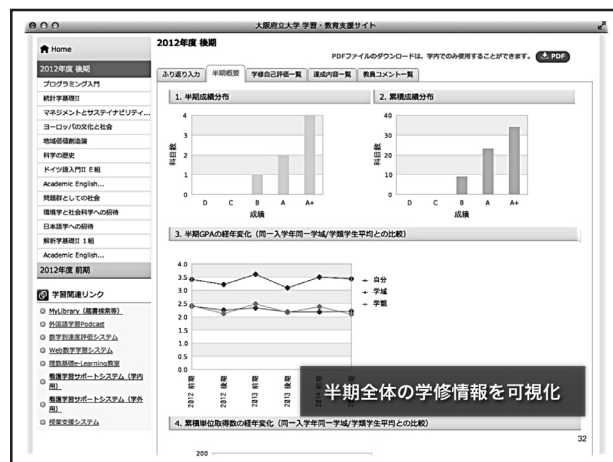
半期達成度



31



32



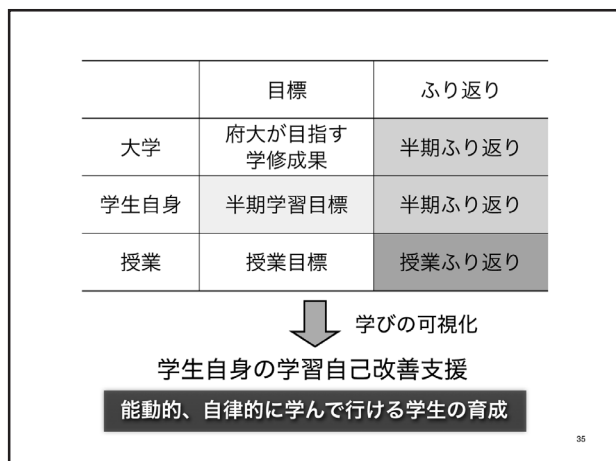
33



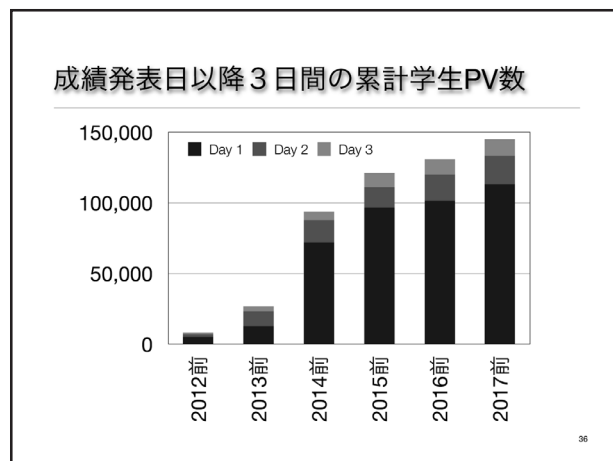
34

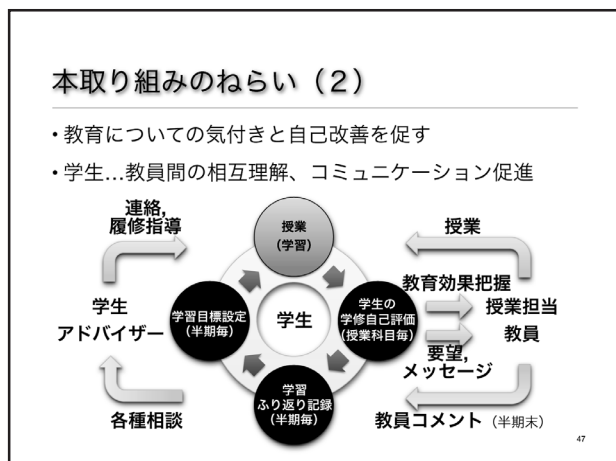
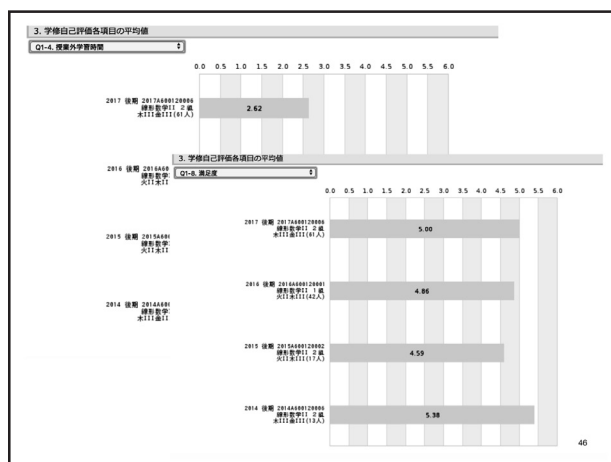
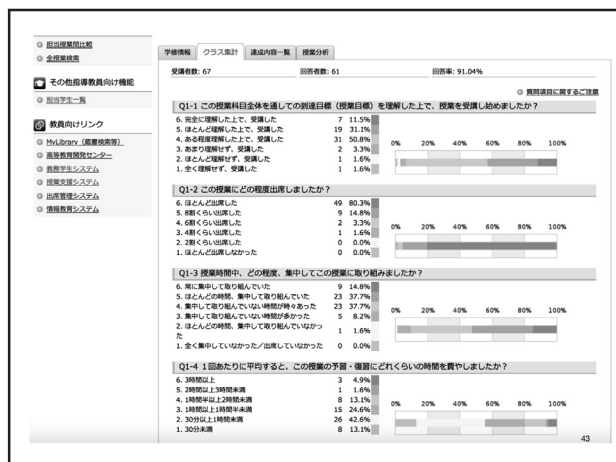


35



36

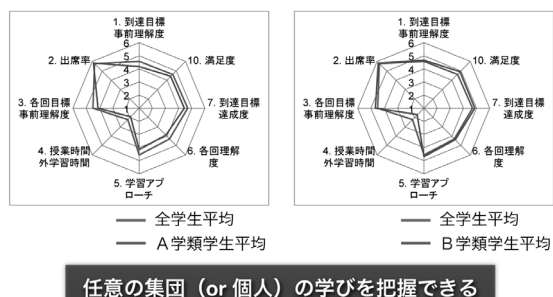




1. eポートフォリオ導入背景
2. 学生による活用
3. 授業担当教員による活用
4. 大学組織による活用
5. システム改善と今後

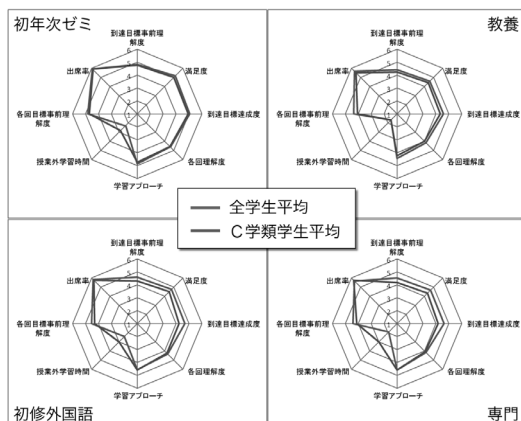
49

「学生の学び」のデータに基づく教育改善



49

50



50

51

学生毎の学修自己評価項目別平均値 (+GPA) 間の相関

	6. 各回理解度	7. 到達目標達成度	8. 学修成果満足度	9. 半期GPA
1. 到達目標事前理解度	0.77	0.668	0.675	0.199
2. 出席率	0.219	0.388	0.287	0.583
3. 各回目標事前理解度	0.853	0.732	0.712	0.212
4. 授業時間外学習時間	0.42	0.3	0.298	0.116
5. 学習アプローチ	0.801	0.661	0.664	0.221

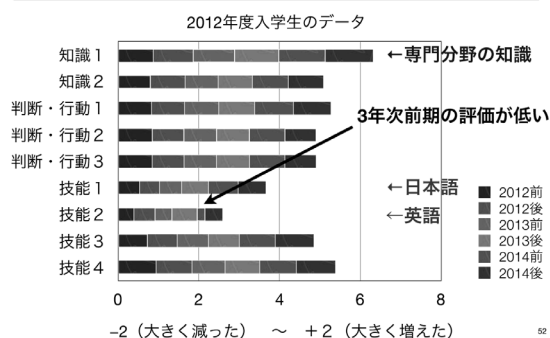
京都大学高等教育研究 第20号 1-15頁 (2014)

http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/kiyou/data/kiyou20/01_takahashi.pdf

51

52

「府大が目指す学修成果」自己評価累積



52

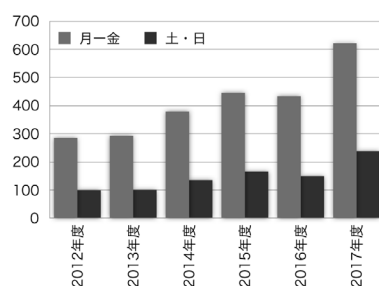
53

1. eポートフォリオ導入背景
2. 学生による活用
3. 授業担当教員による活用
4. 大学組織による活用
5. システム改善と今後

53

54

1日あたりの学生利用者数 (ユニークユーザ数)

(イベントのない5月下旬から6月末までの6週間)⁵⁴

2016年度末以降の取り組み

- ◎ システム更新による利便性向上、機能追加
 - ・ スマートフォン向け表示最適化 など
 - ・ 学生調査の結果を個別フィードバック (予定)

- ◎ 入力率向上に向けた施策 授業内実施の容易化

- ・ 「授業ふり返り」質問項目削減、変更
- ・ 無線LAN環境整備
- ・ 未入力者へのクラス成績分布等非公開化

55

「授業ふり返り」入力率

	2016前期	2017前期	2018前期 (未確定)
1年次生	51.3%	76.3%	80.8%
2年次生	15.8%	51.7%	56.1%
3年次生	8.1%	36.3%	41.7%
4年次生	2.8%	11.7%	16.4%
全体	22.9%	51.0%	56.1%

56

今後 (予定)

- ◎ 学生アドバイザー向け機能の活用
 - ・ 学生との面談内容をシステムに登録
 - ・ 集計データを学生課にて活用
- ◎ 教員業績評価への活用 (?)
 - ・ 授業時間外学習時間、理解度
 - ・ 満足度は指標として用いない (だろう)
 - ・ 教育の質的評価 (の一部) として

57

58

ポートフォリオの持つ、2つの役割

- ・ プロセスの可視化による「ふり返り」と「気付き」の誘発
- ・ エビデンスとしての、成果 (達成度) の公開
教育の「質保証」との親和性

本学のeポートフォリオ (まとめ)

- ・ 前者に力点
- ・ 学生と教員にとってのポートフォリオ
- ・ 在学/在職期間全体を通じてのポートフォリオ
- ・ 他システム (LMS, 出席管理) との一体的な運用
- ・ 組織としてデータ活用

59

1

東京理科大学における
学修ポートフォリオの活用事例について
～学生自身による学修のPDCAサイクルの確立に向けて～

岡村 総一郎
副学長(理事・教育開発センター長)
東京理科大学

2018年10月31日(水)

2

本日の講演内容

1. 東京理科大学の概要
2. 本学におけるAP事業実施体制
3. 学修ポートフォリオシステム
～学修成果の可視化に向けて～
4. 授業収録配信システム
～アクティブ・ラーニングの促進に向けて～
5. 本学のその他のFD活動 及び まとめ

3

1. 東京理科大学の概要

1. 東京理科大学の概要

4

1. 東京理科大学の概要

■ 本学の沿革

1881 (明治14) 東京物理学講習所設立
1883 (明治16) 東京物理学校と改称
1949 (昭和24) 東京理科大学となる
理学部第一部、第二部設置
1980 (昭和35) 薬学部設置
1982 (昭和37) 工学部設置
1987 (昭和42) 理工学部設置
1981 (昭和56) 総合研究所(現:研究推進機構)発足
1987 (昭和62) 薬理工学部設置
1989 (平成元) 生命科学研究所発足
1993 (平成5) 経営学部設置
2011 (平成23) 総合教育機構(現:教育支援機構)発足
2013 (平成25) 学生支援機構発足
2015 (平成27) 国際化推進機構発足

設立者 青年学士21名

本学 先太郎 初代学長
松本 第一郎 第10代学長

2018年5月現在

教員数		職員数		学生数	
教授	305	事務職員	407	学部生	16,387
准教授	150	専門員他	88	修士課程	2,718
講師	105	医使職員	6	博士課程	327
助教	211	臨時職員	81	専門職	102
合計	771	合計	582	合計	19,514

5

1. 東京理科大学の概要

■ キャンパス構成

葛飾キャンパス
主に工学部、基礎工学部
学生数 約5,300人

長万部キャンパス
基礎工学部の1年生が全寮制で学修
(学生数 約360人)

神楽坂キャンパス
主に理学部第一部、第二部、経営学部
学生数 約6,900人

野田キャンパス
薬学部、理工学部、総合研究機構
学生数 約7,500人

6

1. 東京理科大学の概要

■ 建学の精神

理学の普及を以て国運発展の基礎とする
～Building a better future with science～

■ 教育研究理念

自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造

■ ビジョン

日本の理科大から、世界の理科大へ
～TUS VISION 150の実現～

【教育】 真の実力を身に付けた世界で活躍できる人材の育成
【研究】 世界を牽引する知の創造 及び 理科大ならではの研究開発
【社会貢献】 教育研究を通じた国際社会 及び 地域への継続的貢献

7

1. 東京理科大学の概要

■ 教育の特色

1) 指定必修科目の修得が進級条件 ⇒ 「学生の質の保証」

関門制度(東京物理学校からの伝統)

学部	関門時期
理一、理二、工、理工	2年次進級時
薬	2, 3, 4, 5年次進級時
基礎工	2, 3年次進級時

2) 専門基礎教育から専門教育へ
科目の順次性に配慮したカリキュラム

3) 卒業研究
学部4年次に研究室へ配属、マンツーマン指導
専門性を高める活動 + 人間教育 + 独創性・自主性の涵養

8

2. 本学におけるAP事業実施体制

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

2. 本学におけるAP事業実施体制

9

2. 本学におけるAP事業実施体制

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

大学教育再生加速プログラム (AP)

(Acceleration Program for University Education Rebuilding)

国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的とした文部科学省補助金事業 ※2014年度から実施

【5つのテーマ】

- ・テーマⅠ「アクティブ・ラーニング」
- ・テーマⅡ「学修成果の可視化」
- ・テーマⅢ「入試改革・高大接続」
- ・テーマⅣ「長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)」
- ・テーマⅤ「卒業時における質保証の取組の強化」

東京理科大学は、テーマⅠ・Ⅱ複合型に採択(2014～2019年度)
(テーマⅠ・Ⅱ複合型採択大学は21校(うち私立大学13校))

10

2. 本学におけるAP事業実施体制

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

「学生自身による学修のPDCAサイクルの確立」

取組概要

- ①「学修ポートフォリオシステム」(学修ポートフォリオ及びルーブリック)の導入による学修成果の可視化
- ②「授業収録配信システム」の整備によるアクティブ・ラーニングの促進

「振り返り」(CHECKの確立)とそれに基づく「主体的な学び」(ACTの確立)を可能とする環境を提供することで、学生自身による学修のPDCAサイクルを確立し、授業展開の中心的存在となる姿勢を醸成する。

11

2. 本学におけるAP事業実施体制

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

東京理科大学の教学組織

東京理科大学は、大学を運営するための柱として、教育支援機構、研究推進機構、学生支援機構、国際化推進機構の4つの機構をおき、大学全体に跨るそれぞれの領域での企画と運営、推進と支援、研究と実践、成果の発信を行っています。

12

2. 本学におけるAP事業実施体制

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

教育支援機構

強力な事務組織: 学務部学務課 (課員16名)
学術情報システム部情報システム課 (課員25名)

13

3. 学修ポートフォリオシステム

3. 学修ポートフォリオシステム ～学修成果の可視化に向けて～

13

14

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 学修のPDCAサイクル

P (Plan) Plan(計画) 4月
開講科目全体を俯瞰し、その年度に何を学ぶべきかといった計画を立案。
⇒ 履修申告

D (Do) Do(実行) 授業科目の受講期間
履修申告に基づき、授業科目を受講。

C (Check) Check(評価) 試験後
学修ポートフォリオ、TUSルーブリックにより学修成果を可視化。自らの学修内容や成果の確認し、振り返りを実施。

A (Act) Act(改善) 次学期前
学修成果の振り返りをもとに、授業収録配信システム等を活用し、更なる主体的な学びを促す。また、次期の学修計画に反映。

14

15

3. 学修ポートフォリオシステム

学修ポートフォリオシステム = 学修ポートフォリオ + ルーブリック

【学修ポートフォリオ】

学びの成果やプロセスを示す資料(コンセプトマップ等)を継続的に蓄積したもの。
→ 評価レーダーチャート、学生自身による振り返り・目標の文章、成果物

⇒ 学生は継続的かつ定期的に学びを振り返ることで、学修の到達度を確認し、取り組むべき課題を発見することができる。

【ルーブリック】

学修の評価を行う際に用いる基準表のこと。縦軸に複数の「評価項目」を置き、横軸にその「修得レベル」をいくつかの段階で定義する。

⇒ 「どのような項目をどこまで行うことができれば、どのような評価を受けるのか」という評価指標が分かりやすく明示されている。

15

16

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ ルーブリックの評価項目

学科の人材育成の目標
= ディプロマ・ポリシー

⇒ 分りやすく分解

卒業までに学修・習得することが期待される能力(評価項目)と達成度を記した一覧表。
各科目がルーブリックのどの評価項目とつながるかを示す対応表(評価項目と科目の対応一覧)と併せて、履修計画の立案等に役立てる。

理学部第一部応用物理学科のディプロマ・ポリシー

- 物理学及びその応用分野を含めた科学についての十分な基礎学力と高度な専門的知識。
- 現代社会における解決困難な様々な課題に対し、他者とコミュニケーションをとりながら、国際的な視点と科学的視点によって問題を解決し、イノベーションを創出するような応用力。
- 持続可能な豊かな社会の実現に取り組むため、人文科学や社会科学などの教養だけでなく、高い倫理観と豊かな人間性。

6つの評価項目

(1)	基礎学力
(2)	専門知識
(3)	分析解決能力
(4)	プレゼンテーション能力
(5)	豊かな教養
(6)	国際性

16

17

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ ルーブリックの「評価項目と達成レベル評価」

理学部第一部応用物理学科の例

評価項目の名称	評価項目の内容	レベル評価
基礎学力	基礎科目等を通じて、物理学及びその応用に関する確かな基礎学力を身に付けている	0 1 2 3 ...習得していない ...概ね習得している ...習得している ...十分習得し、応用できる
専門知識	専門科目等を通じて、物理学及びその応用に関する高度な専門知識・スキルを身に付けている	0 1 2 3
分析解決能力	実験・演習等を通じて、課題に対し、問題を分析し解決する力を身に付けている	0 1 2 3
プレゼンテーション能力	実験等を通じて、レポートや論文の書き方、プレゼンテーションの能力を身に付けている	0 1 2 3
豊かな教養	教養科目の学習を通じて、自らの倫理観や人間性を高めている	0 1 2 3
国際性	国際化に対応する語学力・表現力を身に付けている	0 1 2 3

17

18

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 「評価項目と科目の対応一覧(抜粋)」

理学部第一部応用物理学科の例

科目名称	単位数	学期	評価項目					
			1 基礎学力	2 専門知識	3 分析解決能力	4 プレゼンテーション能力	5 豊かな教養	6 国際性
物理学Ⅰ	2.0	1	基礎					
物理学Ⅱ	2.0	1	基礎					
人間文化Ⅰ	2.0	1	基礎				1	
英語Ⅰ	1.0	1	基礎					1
英語Ⅱ	1.0	1	基礎					1
物理学Ⅲ	1.0	1	基礎	0.50		0.50		
力学Ⅰ	1.0	1	基礎	0.50		0.50		
電磁気学Ⅰ	1.0	1	基礎	0.50		0.50		
量子力学Ⅰ	2.0	2	基礎		1			
統計学Ⅰ	1.0	2	基礎		1	0.50	0.50	
プログラミング	2.0	2	基礎		1			
物理学Ⅳ	2.0	2	基礎					1
物理学Ⅴ	2.0	2	基礎					1
物理学Ⅵ	1.0	2	基礎			0.50	0.50	
量子力学Ⅱ	2.0	3	基礎		1			
計測制御Ⅰ	2.0	3	基礎		1			
応用物理Ⅰ	2.0	3	基礎		1			
応用物理Ⅱ	2.0	3	基礎		1	0.50	0.50	
応用物理Ⅲ	2.0	3	基礎		1			1
物理学Ⅶ	2.0	3	基礎					1
物理学Ⅷ	2.0	3	基礎					1
卒業研究	6.0	4	基礎			0.50	0.50	

18

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ レーダーチャートの評価式

投影のみ
(撮影等はご遠慮下さい。)

19

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 学修ポートフォリオシステム利用の流れ

履修申告時 (4月のみ) → 授業期間 → 試験 → 試験後～次の半期の授業前

機能(1)「学科の評価項目と対応科目の建設」 ※常時間実可

機能(2)「振り返りと次の半期の目標設定」

STEP1 履修科目の成績の閲覧
STEP2 ルーブリックを用いた自己評価
STEP3 自己評価のフィードバックと
STEP4 履修科目の成績の閲覧
STEP5 履修科目の成績の閲覧
STEP6 履修科目の成績の閲覧
STEP7 履修科目の成績の閲覧
STEP8 履修科目の成績の閲覧
STEP9 履修科目の成績の閲覧
STEP10 履修科目の成績の閲覧

機能(3)「学修履歴の振り返り」 (随時)

「学科の評価項目と対応科目の対応表」を参照して、履修申告する授業科目を選択

自己評価
ルーブリックを用いた自己評価

全学期総合・各学期評価
レーダーチャート (入学～現在迄)

注1: LETUSのコース(履修科目)による課題、ポートフォリオ、卒業論文等があります。
注2: 自身の振り返りや目標を設定するよう設計した場合のみ閲覧可能です。閲覧できる範囲は同一学年、同一学期の学生です。

20

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 学修ポートフォリオの概要

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
評価 レーダーチャート	基礎学力 国際性 専門知識 豊かな教養 プレゼンテーション能力			
今期の振り返り	英語の資格の取得などの目標を決めて取り組めばよかった。	今期は1限の出席がとて悪く、授業内容を把握できない部分があった。	自分は理解しているつもりでも、他者にうまく説明できない部分があった。	卒業研究を納期のいっけで発表でき、教授からも褒めてもらった。
成果物 (例)	TOEICのスコアシート 学生実験レポート ...	TOEICのスコアシート 学生実験レポート 専門科目レポート ...	学生実験レポート 専門科目レポート ...	卒業発表スライド 卒業論文
次の半期の目標	毎日少しずつ英語と力学と電磁気をする。	出席をして、専門科目の深い理解に努めたい。	プレゼンテーション、レポートを細かく作っていきたい。	

※実際には半期ごとに振り返り

21

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 評価レーダーチャートの実際の例 (1)

(1)基礎学力 (2)専門知識 (3)分析解決能力 (4)プレゼンテーション能力 (5)豊かな教養 (6)国際性

2015年度前期(1年生) 2015年度後期(1年生) 2016年度前期(2年生) 2016年度後期(2年生) 2017年度前期(3年生) 2017年度後期(3年生)

22

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 評価レーダーチャートの実際の例 (2)

(1)基礎学力 (2)専門知識 (3)分析解決能力 (4)プレゼンテーション能力 (5)豊かな教養 (6)国際性

2015年度前期(1年生) 2015年度後期(1年生) 2016年度前期(2年生) 2016年度後期(2年生) 2017年度前期(3年生) 2017年度後期(3年生)

23

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 評価レーダーチャートの実際の例 (3)

(1)基礎学力 (2)専門知識 (3)分析解決能力 (4)プレゼンテーション能力 (5)豊かな教養 (6)国際性

2015年度前期(1年生) 2015年度後期(1年生) 2016年度前期(2年生) 2016年度後期(2年生) 2017年度前期(3年生) 2017年度後期(3年生)

24

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 今期の振り返り・次の半期の目標の例 (1)

投影のみ
(撮影等のご遠慮下さい。)

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 今期の振り返り・次の半期の目標の例 (2)

投影のみ
(撮影等のご遠慮下さい。)

3. 学修ポートフォリオシステム

◆ 自己評価と客観評価の比較

ループ評価を用いた自己評価

評価項目	自己評価		客観評価		ループ評価による客観評価の算出	
	自己評価	客観評価	自己評価	客観評価	自己評価	客観評価
基礎学力	内容理解から基礎的な理解までを基礎学力としている	自己評価	内容理解から基礎的な理解までを基礎学力としている	自己評価	内容理解から基礎的な理解までを基礎学力としている	自己評価
専門知識	専門知識に関する理解を専門知識としている	自己評価	専門知識に関する理解を専門知識としている	自己評価	専門知識に関する理解を専門知識としている	自己評価
専門能力	専門能力に関する理解を専門能力としている	自己評価	専門能力に関する理解を専門能力としている	自己評価	専門能力に関する理解を専門能力としている	自己評価
汎用能力・応用能力	汎用能力に関する理解を汎用能力としている	自己評価	汎用能力に関する理解を汎用能力としている	自己評価	汎用能力に関する理解を汎用能力としている	自己評価
意欲・態度	意欲・態度に関する理解を意欲・態度としている	自己評価	意欲・態度に関する理解を意欲・態度としている	自己評価	意欲・態度に関する理解を意欲・態度としている	自己評価
総合評価	総合評価に関する理解を総合評価としている	自己評価	総合評価に関する理解を総合評価としている	自己評価	総合評価に関する理解を総合評価としている	自己評価

工学部第一応用物理学科

自己評価レダーチャート（入学から対面学習まで）

自己評価レダーチャート（入学から対面学習まで）のグラフ。縦軸は「(1)理解力」、横軸は「(2)専門知識」、右下は「(3)分析・解決能力」、左下は「(4)プレゼンテーション能力」、左は「(5)意欲・態度」の5項目が示されています。グラフの中心から外へ向かって1から5までの数字が刻まれており、各項目の達成度がプロットされています。

客観評価・客観評価レダーチャート（入学から対面学習まで）

客観評価・客観評価レダーチャート（入学から対面学習まで）のグラフ。縦軸は「(1)理解力」、横軸は「(2)専門知識」、右下は「(3)分析・解決能力」、左下は「(4)プレゼンテーション能力」、左は「(5)意欲・態度」の5項目が示されています。グラフの中心から外へ向かって1から5までの数字が刻まれており、各項目の達成度がプロットされています。

学生は、「自己評価レダーチャート」と「客観評価レダーチャート」取得した単位、成績等から自動算出）を比較し、「何を学び、何が身に付き、何が身に付いていないか」等について、視覚的に確認することができます。

27



3. 学修ポートフォリオシステム



Tokai University of Science

◆ 学修ポートフォリオシステムのまとめ



大学教育再生加速プログラム

1. 利用実績（今期の振り返り・次の半期の目標の入力状況）

	2015年度		2016年度		2017年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1年生	30.3%	26.8%	34.5%	20.3%	55.6%	38.8%
2年生	-	-	18.4%	19.2%	24.3%	23.0%
3年生	-	-	-	-	17.5%	17.6%
4年生	-	-	-	-	-	-

2. 効果と課題

- 学生の学修計画立案や学習意欲増進に一定の効果。
- 学生の学修パターンや取組み姿勢を把握するための貴重なデータを収集。
- 課題は、利用実績の向上とデータの活用。

28

4. 授業収録配信システム

Application Program
→ 大学教育再生加速プログラム

4. 授業収録配信システム

～アクティブ・ラーニングの促進に向けて～



4. 授業収録配信システム



Tsukuba University of Science
大学教育再生推進プログラム

◆ 学修のPDCAサイクル

P

Plan(計画)

4月

開講科目全体を俯瞰し、その年度に何を学ばせかきといった計画を立案。
⇒ 履修申告



D

Do(実行)

授業科目の受講期間

履修申告に基づき、授業科目を受講。



C

Check(評価)

試験後

学修ポートフォリオ、TUSルーブリックにより学修成果を可視化。自らの学修内容や成果の確認し、振り返りを実施。



A

Act(改善)

次学期前

学修成果の振り返りをもとに、授業収録配信システム等を活用し、更なる主体的な学びを促す。また、次期の学修計画に反映。



30

31

4. 授業収録配信システム

授業収録配信システム

専用の機器を用い、授業内容等をデジタルコンテンツ化し、LETUSを経由して配信することができるシステム。

LETUS : Learning Environment for TUS
本学独自のLMS

① 予習用 ② 復習用 ③ 補助教材用

→ 学生は「いつでも」、「どこでも」、「繰り返し」、「理解できるまで」学修することができるようになり、主体的な学びを促すことができるようになる。

31

32

4. 授業収録配信システム

① 予習用

主にオリジナル動画の作成を想定しているが、授業の様子を収録した動画を編集して使用することも考えられる。

(具体例)
・反転授業を行う場合の事前の知識習得を目的とした動画
・学生が次の授業の概略や準備すべきことを事前に確認できる動画

動画作成
事前学習
授業

教員
学生
アクティブ・ラーニング

授業での講義内容をまとめた動画を作成・配信し、学生は事前学習を行う。

授業では、反転授業を始めとするアクティブ・ラーニングを行うことで、学修到達度の向上を図る。

32

33

4. 授業収録配信システム

② 復習用

主に授業の模様を収録し、動画コンテンツ化することを想定。学生の繰り返し視聴による復習のみでなく、病欠等した学生への補講資料としても利用。

授業(動画作成)
復習

教員
学生

プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング形式で行った授業の場合は、自らや他者の発表内容を再度確認することで、発表能力の向上に寄与。

33

34

4. 授業収録配信システム

復習用動画例

34

35

4. 授業収録配信システム

③ 補助教材用

授業内容を補完するための補助教材として、動画を活用。

例えば、教室での再現が困難な事象や実験における器具の使用手法、実験手順の詳しい説明等を事前に収録して授業中に投影するといった用途を想定。

動画作成
授業
復習

教員
学生

35

36

4. 授業収録配信システム

補助教材動画例

36

◆ デジタルコンテンツの視聴実績 (2018年度前期抜粋)



4. 授業収録配信システム



University of Tsukuba
Tsukuba, Japan



University of Tsukuba
Tsukuba, Japan

◆ 授業収録配信システムのまとめ



Academic Program
大学教育再生加速プログラム

1. 収録実績 (①予習用、②復習用、③補助教材用)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標 (累積)	0件	50件	250件	400件	500件	500件
実績 (累積)	0件	97件 ①26件 ②57件 ③14件	360件 ① 61件 ②269件 ③ 30件	660件 ① 66件 ②539件 ③ 55件	-	-

※「目標」とは、「大学教育再生加速プログラム」申請時に定めた件数

5. 本学のその他のFD活動

Tokyo University of Science

教育開発センターの取組み

- ① 3つのポリシーに基づく教育施策の実施
- ② シラバスの作成・公表
- ③ 授業改善のためのアンケート
- ④ 卒業予定者対象アンケート
- ⑤ GPAを用いた入学後の学力追跡調査
- ⑥ 初年次教育の施策
- ⑦ アクティブ・ラーニングの促進・学修成果の可視化に向けた取り組み
- ⑧ FDセミナー
- ⑨ 成績評価の標準化
- ⑩ その他

研究を受けた学生による後輩指導

40



5. 本学のその他のFD活動



Tsukuba University of Science

■ FDセミナーの開催

東京理科大学 教育開発センター

第20回 FDセミナー

授業のアクティブ・ラーニングの推進に向けた実践報告

平成29年度

大学教育再生加速プログラム成果発表会



2018年3月8日(木)に「2017年度AP成果発表会」を開催

教員と学生がペアになり、各取組みについて、それぞれ具体的な成功例、失敗例、学生視点による問題提起などを報告。

「学習ポートフォリオシステム」

- 理工学部知能化理工学 3年生
- 工学部情報工学科 2年生

- ✓ ルーブリックの評価項目から、知識の活用や自分の意見を述べるなどの生徒が家に入っていることを指摘した。
- ✓ 同級生の振り返り、次回の目標は、情報が少くあまり参考にならなかったが、それをもとにコミュニケーションを図ることとした。

「授業収録配信システム」

- 理学部第一物理学科 3年生
- 薬学部生命創薬科学科 2年生
- 理工学部電気電子情報工学科 2年

- ✓ 授業収録配信システムにより、先生の考え方や解説を反復して学習できるようになった。
- ✓ 満足度の高い講義において、「なぜ?」と思った瞬間に一時停止して、じっくり考えることができる。

41

[illegible]



43

まとめ

- 教育の質保証・向上のため、「学修ポートフォリオシステム」による学修成果の可視化、「授業収録配信システム」によるアクティブ・ラーニングの促進の2つを連携させ、学生の学び全体を変革していくことを目指している。
- システム稼働から3年が経過し、いくつかの課題が見えて来た。また、膨大がデータが蓄積され、いくつもの新たな気づきがあった。
- 今後、それらをもとに、システムをより良いものへと改修し、本学の教育の更なる質向上を目指す。

44

ご清聴ありがとうございました

東京理科大学
Tokyo University of Science
実力主義、未来のために。

問合せ先: 教育開発センター事務局(学務部学務課)
fd@admin.tus.ac.jp

45

第8回FD学習会実施報告

大学教育開発センター委員会は、平成31年3月14日（木）、天白キャンパス タワー75レセプションホールにおいて、第8回FD学習会「ポートフォリオの活用とアクティブラーニングの評価」を開催しました。

本学習会では、薬学部教授であり、情報センター長の天津史子先生から、学修ポートフォリオの概念理解からはじまり、学生個人の評価や学位プログラムの評価といった具体的な活用方法について、他大学事例の紹介を交えた講演がありました。

その後、質疑応答が行われ、参加者アンケートからは、「学修ポートフォリオの意義や内容、活用方法について理解が進んだ」、「アクティブラーニングの効果と評価について参考になった」といった意見があり、学修ポートフォリオの共通理解を醸成することができました。



1

学修ポートフォリオの活用と アクティブラーニングの評価

情報センター
大津 史子
(薬学部)

1

2

【学修ポートフォリオ】

- 学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組みべき課題をみつめてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自律的な学修をより深化させることを目的とする。従来の到達度評価では測定できない個人能力の質的評価を行うことが意図されているとともに、教員や大学が、組織としての教育の成果を評価する場合にも利用される。

中教審答申・用語集

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf

2

3

【学修ポートフォリオ】

- 学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学修計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表など）を長期にわたって収集し、記録したもの。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて到達度を評価し、次に取り組みべき課題をみつめてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることにより、自律的な学修をより深化させることを目的とする。従来の到達度評価では測定できない個人能力の質的評価を行うことが意図されているとともに、教員や大学が、組織としての教育の成果を評価する場合にも利用される。

評価のできる
エビデンスの
蓄積

評価の実施
省察(振り返り)

そもそも、どうしてこんなことが
出てきたの？

学生個人の
評価

学位プログラ
ムの評価

中教審答申・用語集

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf

3

4

社会の価値観の変化？
社会的信頼・保証の概念変化？

- ○○大学出身＝優秀！
- ○○株式会社＝偉い！

？？？

○○大学出身

= ○○大学の入試に合格したことを保証するだけ

○○会社社員

= 入社面接で合格したことを保証しているだけ

文科？厚労？
統計・・・

学生不祥
事！

入試不正！

企業不祥
事！

4

5

社会の価値観の変化？
社会的信頼・保証の概念変化？

- ○○大学出身＝優秀！
- ○○株式会社＝偉い！

？？？

○○大学出身

= 大学で何を学んで、何を保証するだけ

どう成長したか・・・
誰も保証していない！

文科？厚労？
統計・・・

学生不祥
事！

入試不正！

企業不祥
事！

6



思考の方法

1. 創造性とイノベーション
2. 批判的思考、問題解決、意思決定
3. 学び方の学習、メタ認知

働く方法

4. コミュニケーション
5. コラボレーション（チームワーク）

働くためのツール

6. 情報リテラシー
7. ICTリテラシー

世界の中で生きる

8. 地域とグローバル社会でよい市民であること（シチズンシップ）
9. 人生とキャリア発達
10. 個人の責任と社会的責任（異文化理解と異文化適応能力を含む）

MICROSOFT
やGOOGLE
などが
出資！

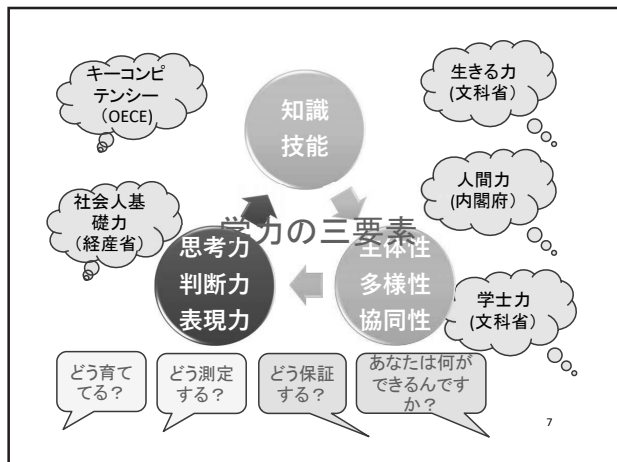
ここでいう
スキルとは
能力の意味

ハードスキル:「体系立った知識」「理論や手法やツール」=○○学という
ような体系だった知識

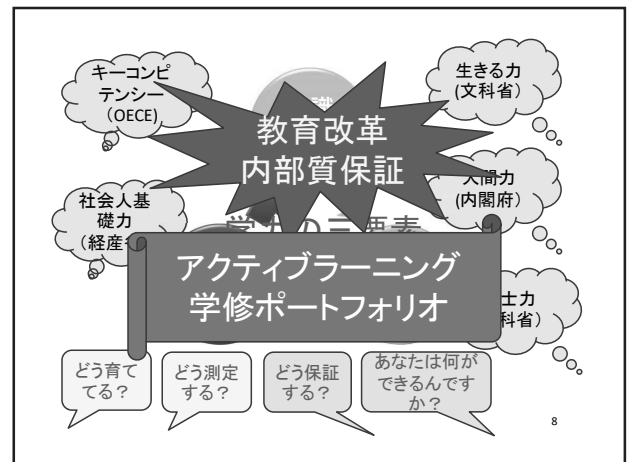
ソフトスキル:効果的なコミュニケーション、創造力、分析力、柔軟性、
問題解決力、チームビルディング、傾聴力等の、他者と触れ合う際に影
響を与える一連の能力

6

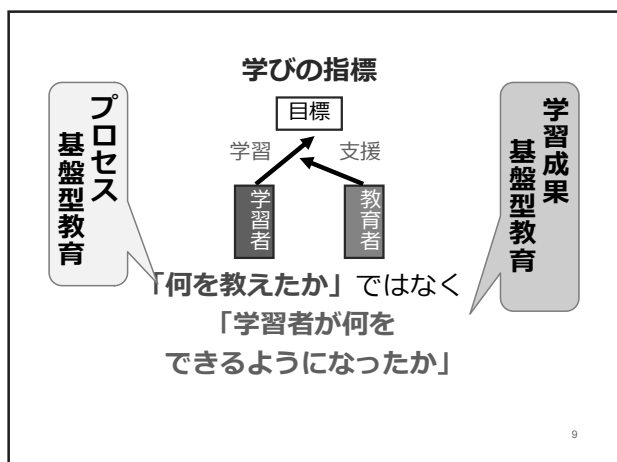
7



8



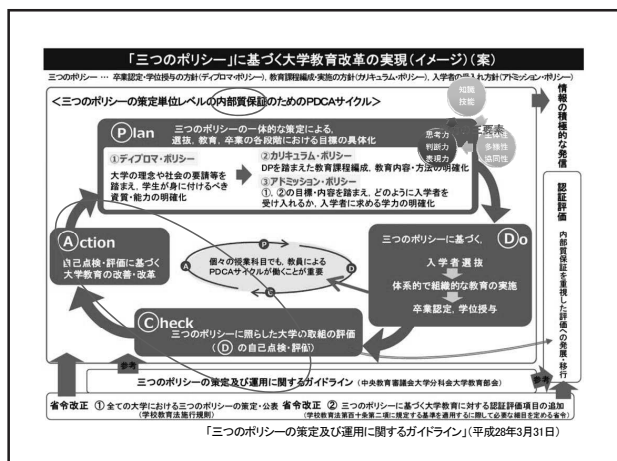
9



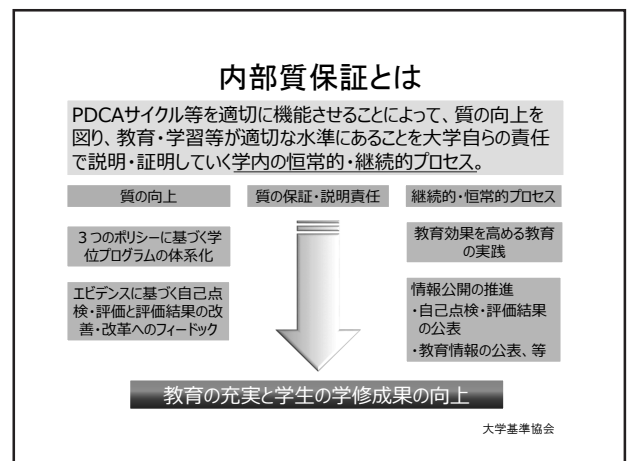
10



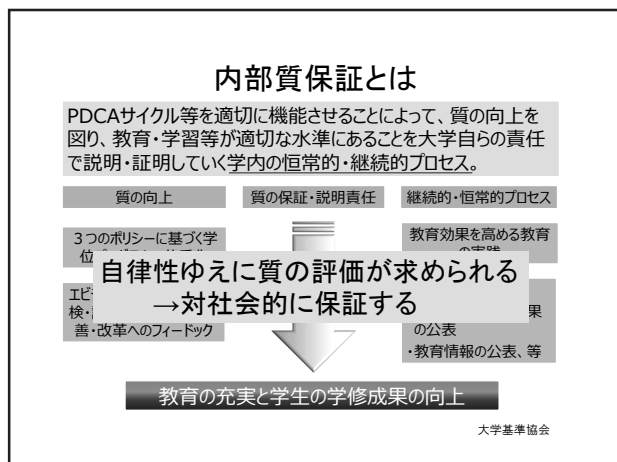
11



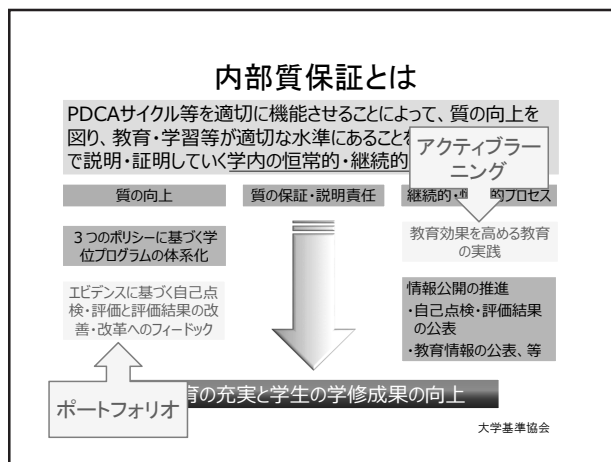
12



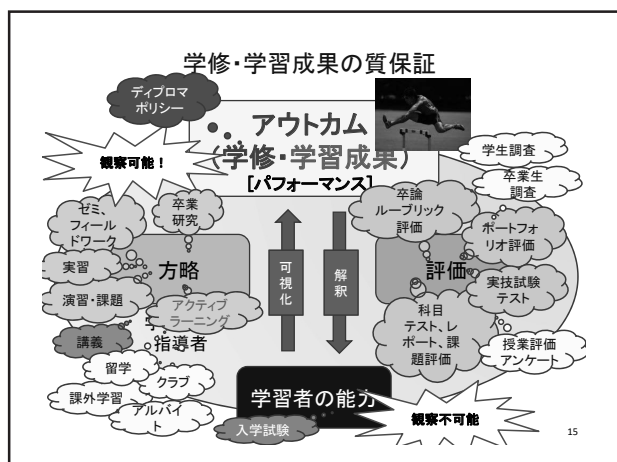
13



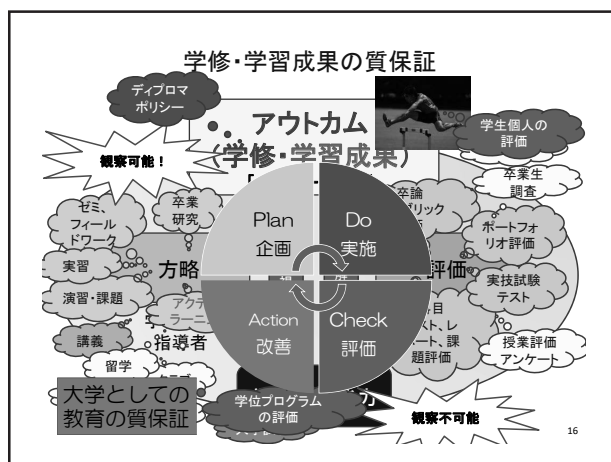
14



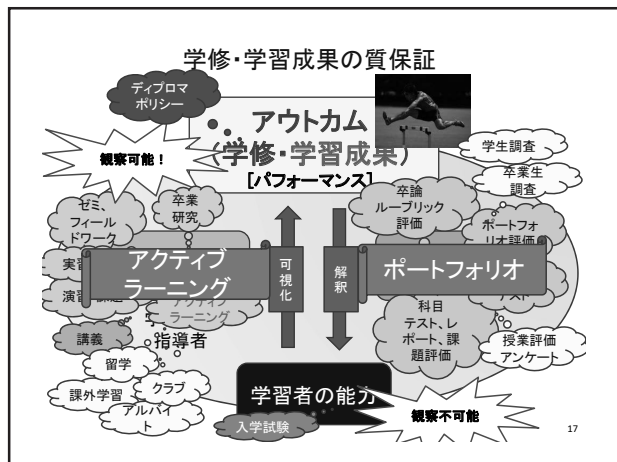
15



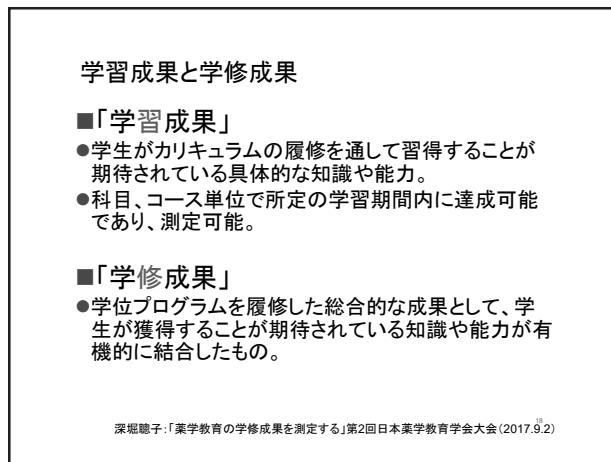
16



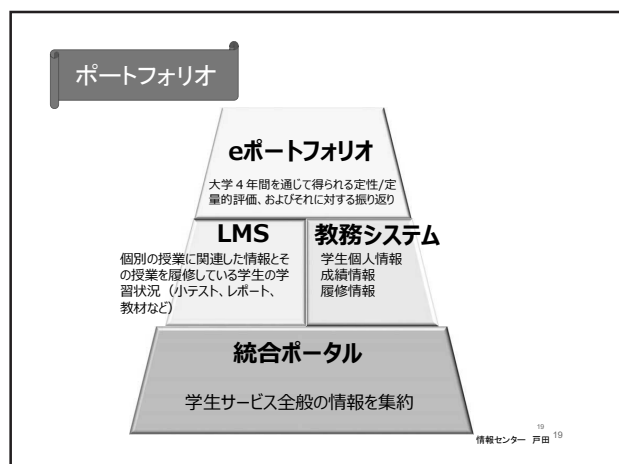
17



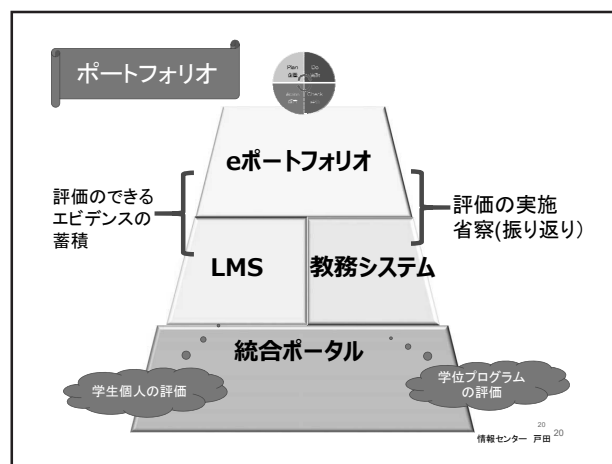
18



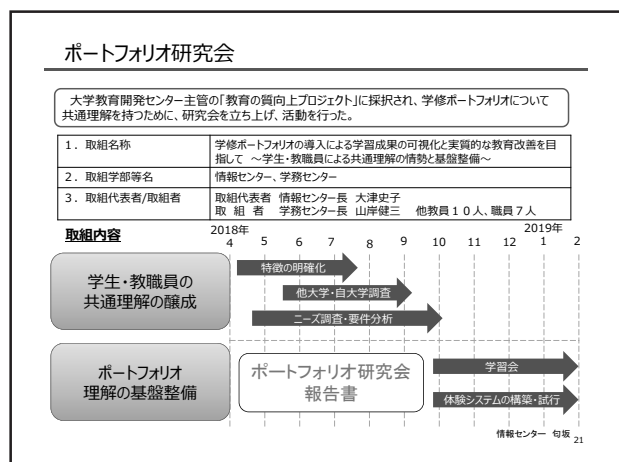
19



20



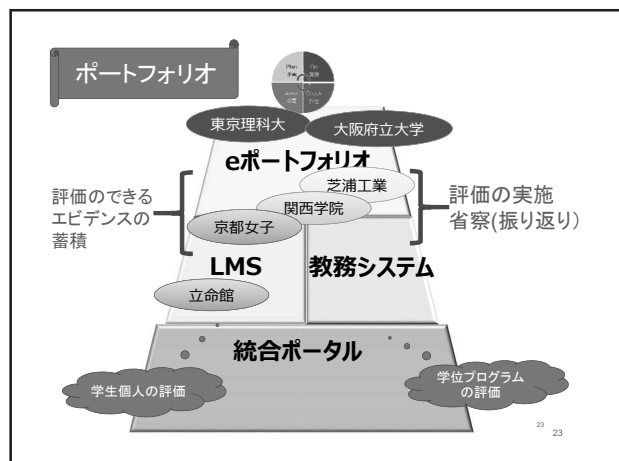
21



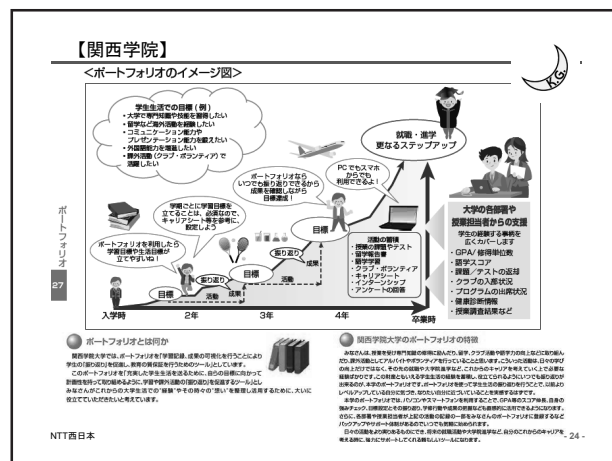
22



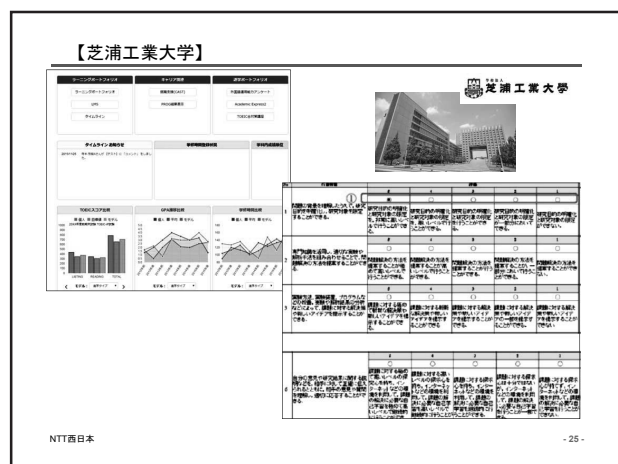
23



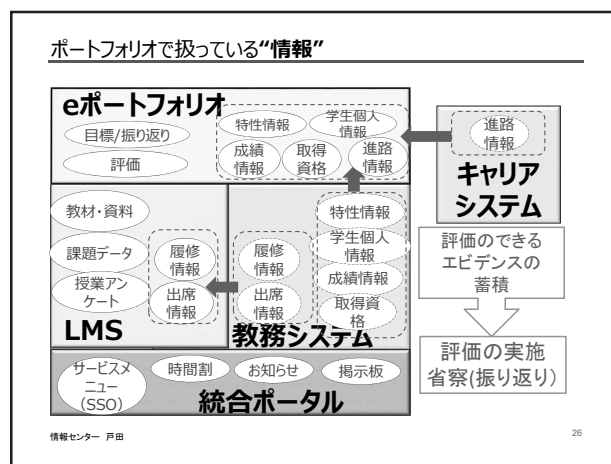
24



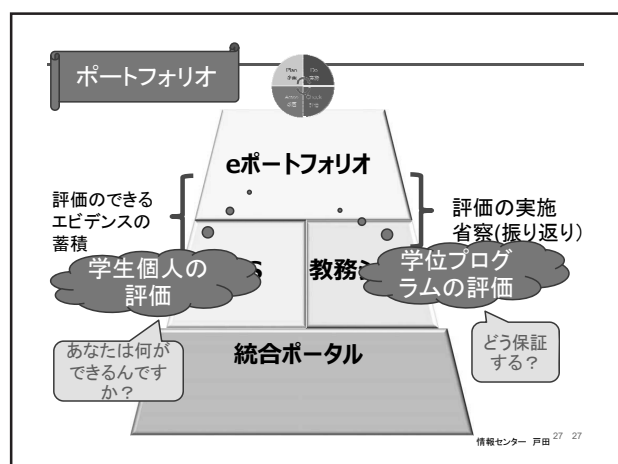
25



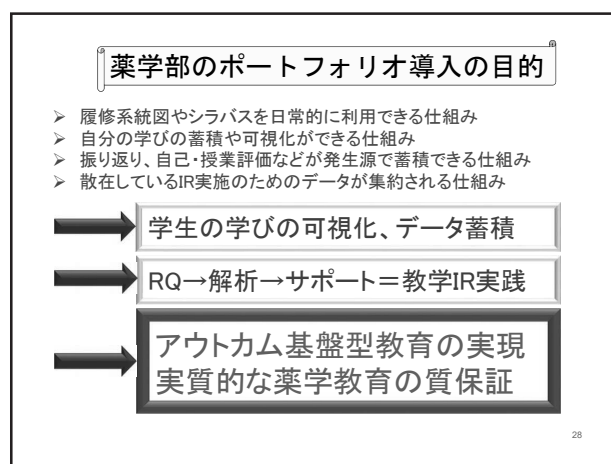
26



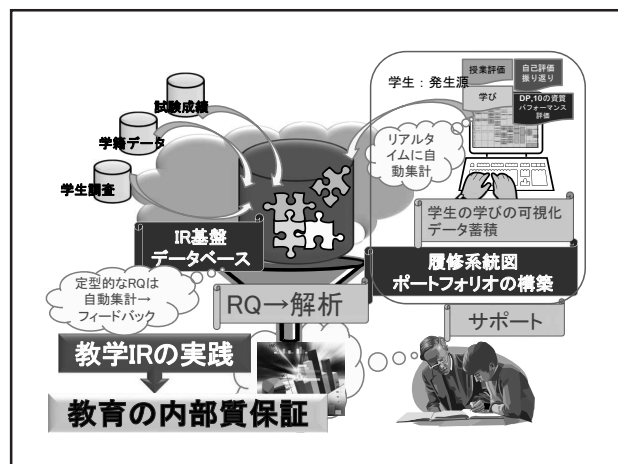
27



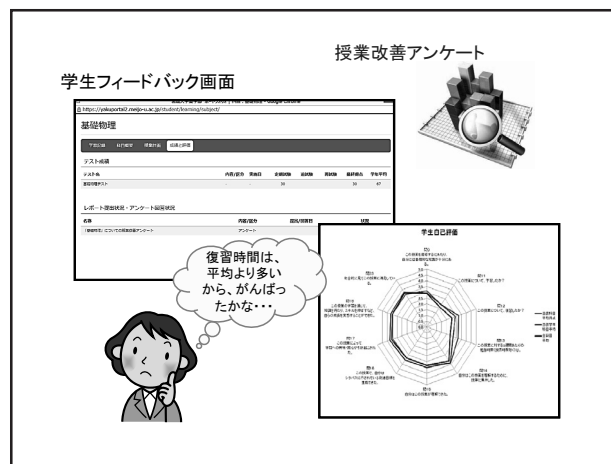
28



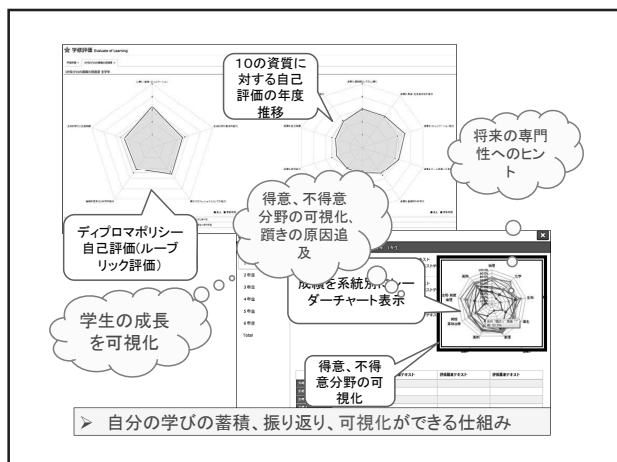
29



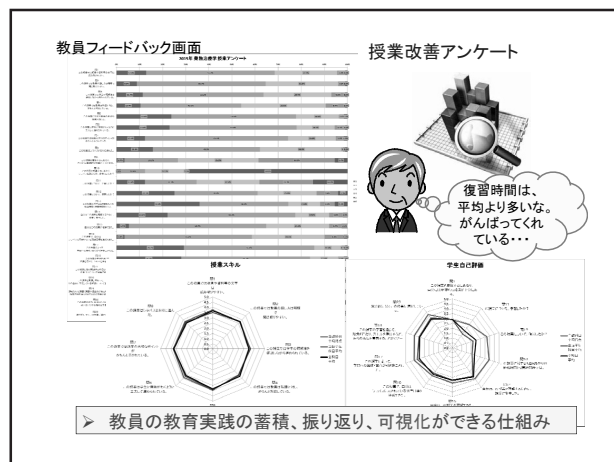
30



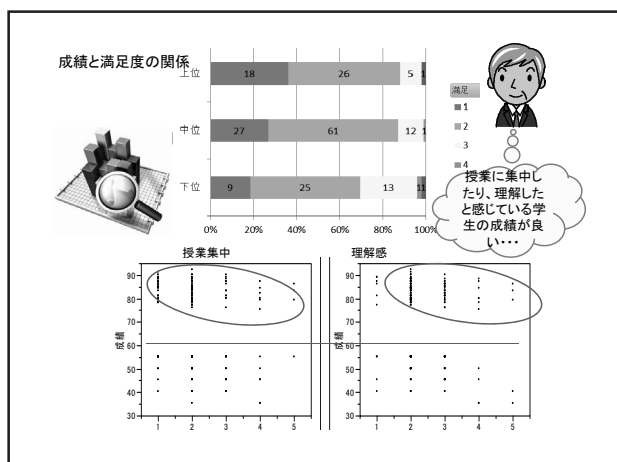
31



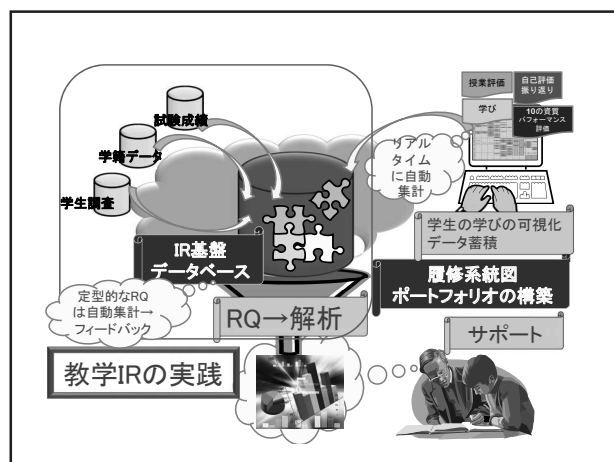
32



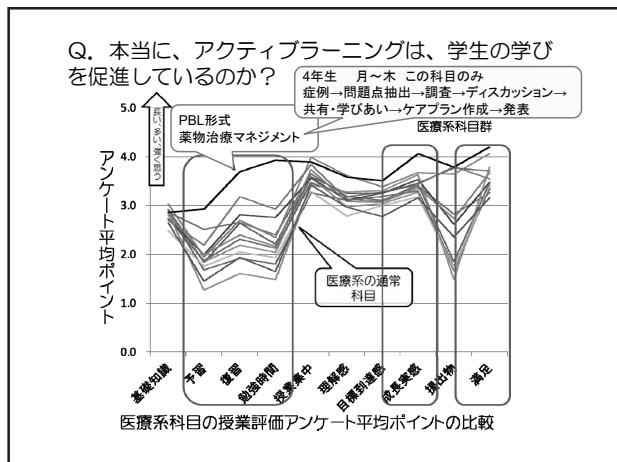
33



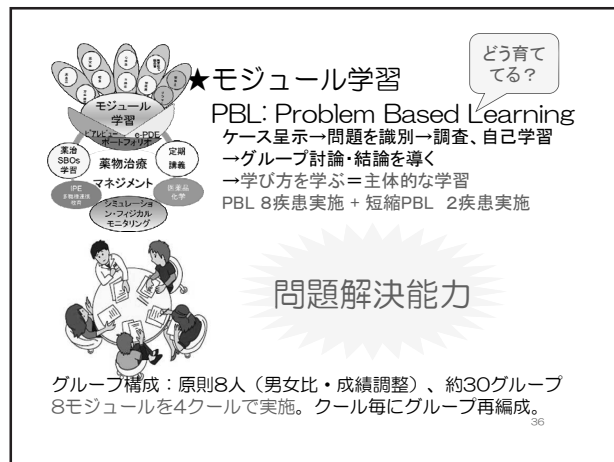
34



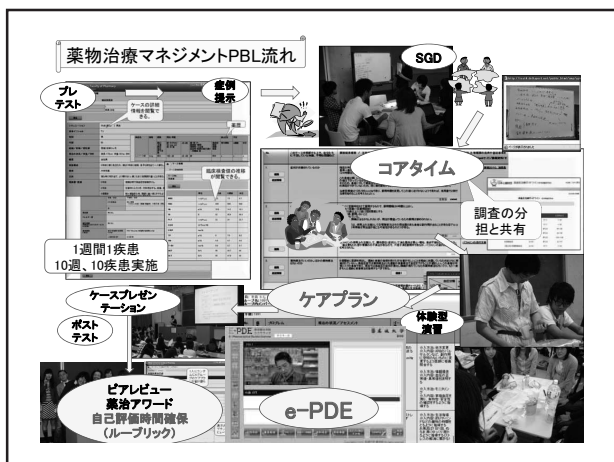
35



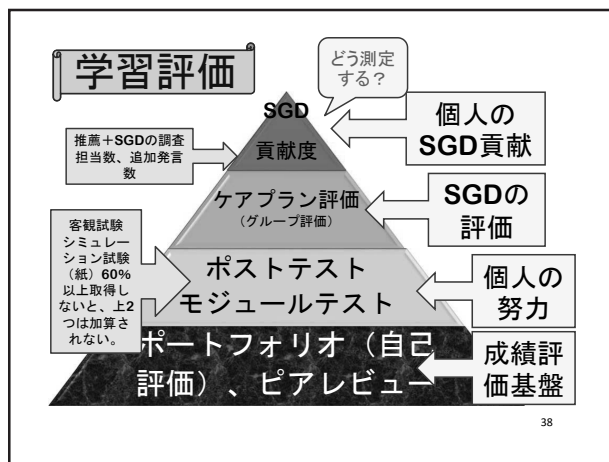
36



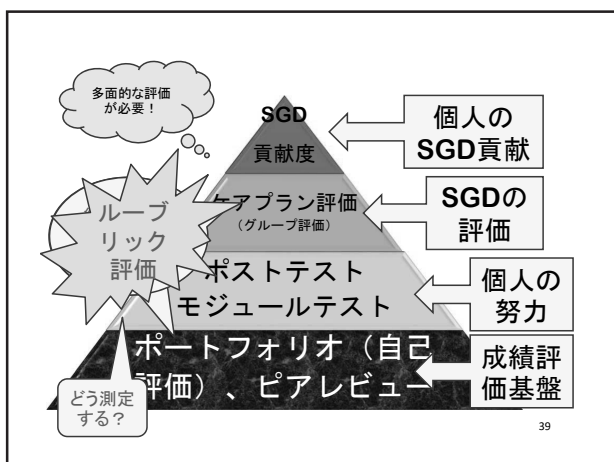
37



38



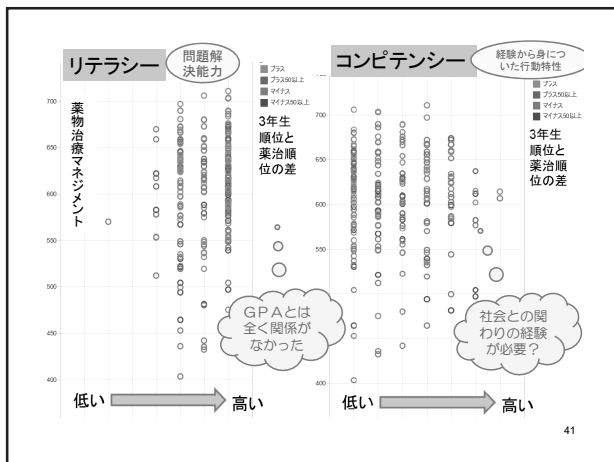
39



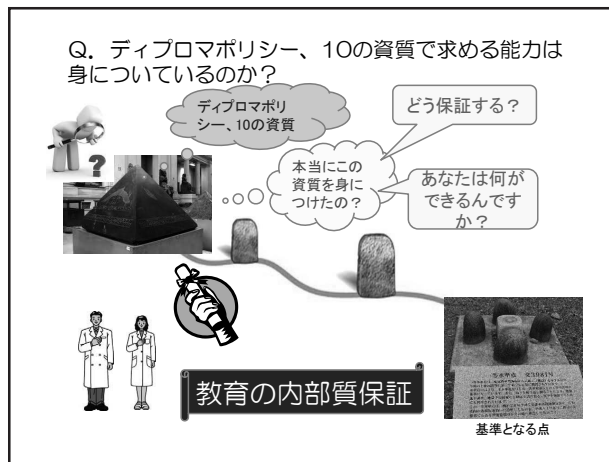
40



41



42



間接 学修成果ルーブリックによる振り返り、自己評価

新DP	10の資質	アウトカム	観点	キヤプストーン	マイルストーン	マイルストーン	マイルストーン	ベンチマーク
①医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	1.薬剤師としての心構え 患者の抱える苦しみ、不安、悩み、希望を尊重し、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	薬剤師として、医療の中で求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。	薬剤師を目指すものとしての社会的責任	②医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	③医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	④医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	⑤医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	⑥医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。

教員でワークショップを行い、決定！

43

例えば.....

新DP	10の資質	アウトカム	観点
①医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	1.薬剤師としての心構え 患者の抱える苦しみ、不安、悩み、希望を尊重し、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	薬剤師として、医療の中で求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。	薬剤師を目指すものとしての社会的責任
②医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	2.患者・生活者本位の視点 患者の抱える苦しみ、不安、悩み、希望を尊重し、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	生命の尊厳と薬剤師の社会的使命

DP:ディプロマポリシー
名城大学薬学部において身につけて欲しい能力
10の資質:日本の薬学部を卒業する学生に求められる能力

アウトカム:DPや10の資質に書かれていることだけでは、具体的に学修の成果として、どのような内容を修得できるかが明確ではない。そこで、名城大学で学んだ学修成果として、こういう能力を修得することが期待されているという具体的な内容を文章化したものがアウトカム。
観点:そのアウトカムをどのような観点で評価するかを示す。

44

ルーブリック評価

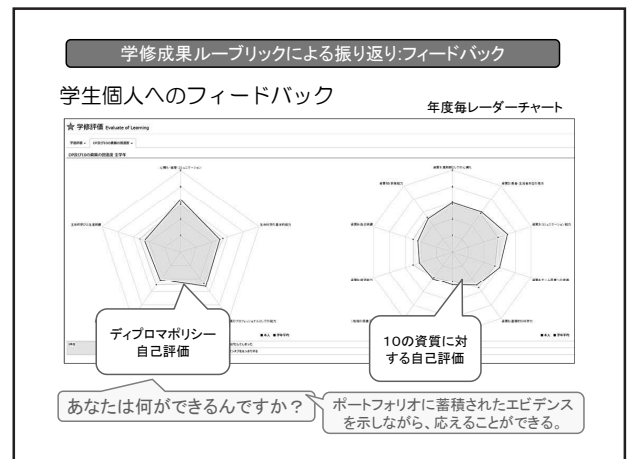
アウトカム	観点	キヤプストーン	マイルストーン	マイルストーン	マイルストーン	ベンチマーク
①医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	1.薬剤師としての心構え 患者の抱える苦しみ、不安、悩み、希望を尊重し、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	薬剤師として、医療の中で求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。	薬剤師を目指すものとしての社会的責任	②医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	③医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	④医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。

ピラミッドの頂上石

基準となる点

毎年3月に評価
進級後、指導教員との個人面談し、振り返り。

入学時に説明
1年生の科目で、これからの学びと関連づけ

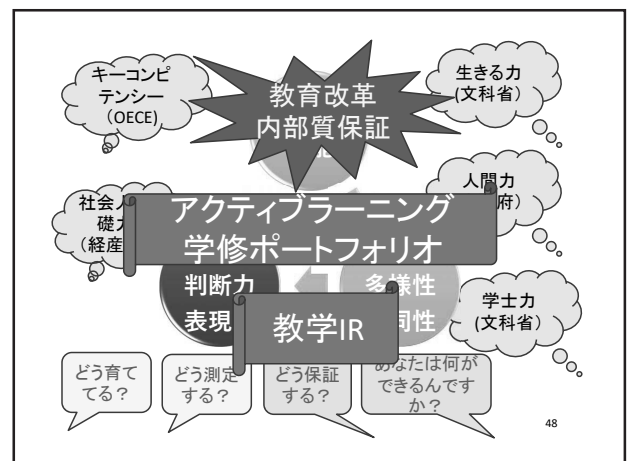


学位プログラムの評価

10の資質	アウトカム	観点	キヤプストーン	マイルストーン	マイルストーン	マイルストーン	ベンチマーク
①医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	1.薬剤師としての心構え 患者の抱える苦しみ、不安、悩み、希望を尊重し、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	薬剤師として、医療の中で求められる責任を自覚し、自らを律して行動する。	薬剤師を目指すものとしての社会的責任	②医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	③医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	④医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。	⑤医療人としての幅広い知識とコミュニケーション能力を身に付け、生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師としての社会的責任と使命を自覚し、広い視野に立って、公正な判断ができる。

求める能力の間接評価
→成長の見られないもの
→プログラムに不足?
学生に伝わっていない?
→改善ポイント

直接評価は?



48

教育功労賞表彰報告

教育功労賞制度とは、学校法人名城大学職員規則第47条に基づき、各学部及び研究科等において、教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、職員の教育改善に対する意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的として表彰するものです。

表彰の種類は、各学部及び研究科等における教育活動及び教育改善に大きく貢献した者及びグループ（事務職員を含む）を表彰する教育功労賞と、その対象者の中で、特に全学的な取組として波及できる可能性のあるものを表彰する特別教育功労賞から成っており、いずれも各学部及び研究科等からの推薦された対象者について大学教育開発センター委員会で候補者として相応しいか否かを選考し、大学協議会での審議を経て学長が決定するものです。

平成30年度の候補者は各学部から、2件の推薦があり、大学教育開発センター委員会（平成31年1月10日開催）で慎重に審査した結果、推薦のあった2件を教育功労賞候補者として相応しいと認め、大学協議会（平成31年1月25日開催）において、承認されました。

記

教育功労賞表彰者について

氏 名	所属学部	表彰対象となった活動・テーマ
メカトロニクス工学科 教材開発ワーキンググループ	理工学部	IPBL 実現に向けた実験・演習カリキュラム策定 と装置製作
基礎演習Ⅰ FSP チーム	外国語学部	基礎演習Ⅰ Future Skills Project の21世紀型学習 者育成の教育効果

※審査の結果、特別教育功労賞については、該当者なしと決定しました。

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

理工学部 加鳥 裕明

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等 理工学部メカトロニクス工学科

取組タイトル IPBL 実現に向けた実験・演習カリキュラム策定と装置製作

グループ名 メカトロニクス工学科教材開発ワーキンググループ

理工学部 高畑 健二（代表）、芦澤 怜史、木村 泰、黒丸 廣志

1. 推薦理由

メカトロニクス工学科では、幅広い学問領域の学習における理解を深め、きちんと身につけることを目的として、座学と実験・演習を通じて、繰り返し実施する学習方法である IPBL (Incremental Problem Based Learning) を実施している。2年生までは座学中心であるが、3年生からの実験・演習を中心におき、前述の IPBL に基づく具体的なカリキュラムの実施をしている。これらの実験・演習では、座学での学習内容の親和性を高めることを目的として、テキストに登場する原理図や、理論を体験できる実験装置が不可欠であるが、学科立ち上げ当初そのような装置はなく、カリキュラムに即した装置の開発が求められてきた。当科教員で構成される教材開発ワーキンググループでは、IPBL の実施に向けた実験演習装置の開発として、メカトロニクス実験 I では、機械・材料力学、流体力学、熱力学、制御工学の講義で学んだ原理を確認・検証する実験装置を、メカトロニクス実験 II では、電気回路、電子回路、電磁気学、制御工学に学んだ原理を確認・検証する装置の開発を行っている。また、集中演習 I, II, III 向けの演習対象装置として、分解しながらの構造理解、部品を入れ替えたうえでの機能検証、新規ソフトウェアの学習が可能な演習装置として、X-Y ステージ、AC サーボモータ、鉗子装置を開発し、機械、電気、情報制御のカリキュラム開発を行ってきた。

こうした実験装置を用いたカリキュラムや、その実施形態は、国内の関連学部でも例を見ず、このカリキュラムの実施に対して、就職活動時の大きなアピールとなるだけでなく、卒業生の就

職先からも良い評価をいただいております、結果にも結びついてきている。

また、開発した実験装置とテキストの一部については、企業との製品化も検討が進められ、本学の学生教育だけではなく、広く工学教育に資する形で展開され始めており、本学理工学部教育の対外的なアピールに少なからず寄与してきている。

以上を踏まえ、本貢献賞の趣旨に合致した成果であるとの判断から、申請グループである「メカトロニクス工学科教材開発ワーキンググループ」を教育功労賞候補者として推薦いたします。

2. 取組の発展性について

今回開発した教材及びその実施方法では、開発教材を通じたグループワーク及び学生自身が主体的に学びを促しており、理工学教育における体系化されたアクティブラーニング事例である。IPBLに関係するカリキュラムの理工学部内はもちろんのこと、水平展開も可能であるため、本学における実験・演習を通じたアクティブラーニングの加速につながることが期待される。

3. その他教育活動に係る特記事項

特になし

教育功労賞候補者推薦書

大学教育開発センター委員会委員長 殿

学部・研究科・センター等

外国語学部

下記の教育職員（グループ）を「教育功労賞要項」に基づき、教育功労賞候補者として推薦します。

教育功労賞候補者

所属学部等 外国語学部 候補者氏名 西尾 由里教授 他 3 名

組タイトル 基礎演習 I Future Skills Project の21世紀型学習者育成の教育効果

グループ名 基礎演習 I FSP チーム

外国語学部 西尾由里教授（代表）、柳沢秀郎准教授、藤原康弘准教授、宮崎新准教授

1. 推薦理由

世界の教育観はグローバル化、多文化共生、ICT など情報化により、大きく変革し、OECD、EU などでは、「21世紀型スキル」と呼び、批判的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力が必要といわれる（ACT21s : <https://resources.ats2020.eu/resource-details/LITR/ATC21s>）。また文部科学省も、「21世紀型能力」は、「生きる力」として、基礎学力を基に、自ら考え判断表現することにより問題に積極的に対応し、解決する力を「確かな学力」として定義している（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/index.htm）。名城大学のディプロマ・ポリシー（DP）でも、国家・社会の信頼に値する人材を育成することで、主体的に学び続け、学びを分かち合い、成長するということを挙げている。また、外国語学部の DP は、実践的にコミュニケーションできるグローバル人材の育成で、対話・協働により、主体的に課題を発見し取り組むことができることを挙げている。このように、批判的思考（Critical Thinking）、協働で問題解決、及びコミュニケーション能力の滋養が、21世紀型の教育モデルといえる。

その21世紀型教育モデルを実践するため、外国語学部1年生を対象とする基礎演習 I（必修）では、特に大学1年生の初期の段階で、Future Skills Projects（FSP）プログラムの授業を行っている。この授業では、実際の企業すなわち社会で起こる問題を提示され、批判的思考を使い、その問題解決型学習を通し、グループの中で明確に自分の責任や役割を認識し、グループで結果を出すことを学ぶ。グループでの活動からコミュニケーション能力も養成している。この経験が

ら、大学での学びを明確にし、社会に貢献できる人材を養成しているといえ、21世紀型学習にも当てはまり、教育効果が非常に顕著であることから、教育功労賞候補に推薦する。

特に学生へのアンケート結果（添付資料 1）では、企業からの課題への取り組みを通して、約95%が成長したと感じ、特に、「相手に自分の意見を伝える力」、「課題をとらえる力」、「解決策を考える力」、「チームとして動く力」が伸びたと実感しており、FSP の学習目的を達成できているといえる。さらに、この教育手法が波及し、1年後期の基礎演習Ⅱ、2年次の基礎演習Ⅲ、Ⅳ及び3年次以降のゼミナール、様々な地域連携型活動など社会貢献へつながっている（添付資料 2, 3）。

（1）Future Skills Project

Future Skills Project とは、産・学が一体となり「社会で活躍できる人材育成」を掲げ、一般社団法人 Future Skills Project が提唱している。本学部では、2016年度開設より、1年生全員に必修科目基礎演習Ⅰの授業でその手法を取り入れている。1年生入学時に大学でのアカデミックスキル及び、社会での必要な人材像のイメージ化、それにともない、大学の学びを明確化する効果があり、全員が受講するため、学びの教育の質の平準化が行われている。

（2）組織

1年生前期必修の基礎演習Ⅰ担当教員12名（アーナンダ・クマール、藤田衆、村田奏美、二神真美、堅田義明、岩井眞實、西尾由里、津村文彦、富岡徹、柳沢秀郎、藤原康弘、宮崎新）において FSP プログラムを実施する。各教員には基礎ゼミ生として1年生11名から12名配属されており、2名の教員が共同で授業を担当する。

（3）授業内容

全15回の授業中に2つの企業から、実際に起こっているリアルな課題を提示され、課題に対して、その解決策をチームで調べ、検討し、プレゼンテーションを行う。1企業が3コマを担当し、次のように展開される。①企業課題提示⇒チーム活動⇒②第一次提案プレゼンテーション（企業講評）⇒チーム活動⇒③最終提案プレゼンテーション（企業講評）

それぞれの企業から、提案、プレゼンテーションを評価して1位を選んでもらい、学生同士も互いに評価しあう。最後に全体ポスター発表を行い、学生同士が互いに評価し、1位を選ぶ。

2018年度は、次の12の企業（アイウエオ順）にご協力頂いた。イオンリテール（株）、エアアジア・ジャパン（株）、NTTタウンページ（株）、（株）JTB、大和ハウス工業（株）、（株）地球の歩き方 T&E、中部国際空港（株）、（株）トリエス、名古屋ダイヤモンドドルフィンズ（株）、パーソルキャリア（株）、丸善雄松堂（株）、（株）レクスト。それらの企業は B to C や B to B の多彩な業種であり、課題に取り組む2つの企業は異業種にすることにより、多様な学びを提供できるようにしている。

授業は、アクティブ・ラーニングを実践し、学生たちのグループワークを中心に、学生同士が互いに意見を出し合い、話し合い、まとめるという過程を通じ、批判的な思考を培う。教員の役割としては、ファシリテータであり、学生主体の学びを促している。また、学生の学びあるいは質問、時には不安などを知り即座に対応している。さらに、今日、アカデミックスキルでも重要な位置をしめている ICT に対し、大学入学後すぐに習得できるように、課題提示、課題提出な

どすべて WebClass で行っており、プレゼンテーションはパワーポイントを使っている。また、毎回の授業ではリフレクションペーパーと呼ばれる個人の振り返りを記入し、WebClass で提出している。これにより、学習者自身が自らの学びを内省し、認識することになり、電子ポートフォリオと同じ役割を担っている。

(4) 教育効果の実証

・事後のアンケート（添付資料1）

FSP プログラムを通して、学生は、自分自身が成長し、チームとして動き、意見を述べ、問題解決する力を伸ばしたと実感すると同時に、企業からの課題を理解する力やチームをリードする力、インターネットやアンケートだけではない情報収集力を養成していく必要があると強く認識している。また大学1年生前期の企業経営や社会への知識・経験がない中で、リアルな企業からの課題を解決していく過程から、企業からのアドバイス・指摘を受け、失敗・成功などを実体験し、今後の学生生活がより具体的に、主体的な学びの場になることという FSP の目的を十二分に達成できていることが明らかにされている。

・FSP から企業との共同プロジェクト（添付資料2）

FSP の参加企業のイオンリテールと学生との共同企画プロジェクトが実現している。2017年及び2018年7月において、学生が提案した「夏の商戦」プランをイオンナゴヤドーム前店で実際に展示し、具現化している。

・社会貢献（添付資料3）

課題をとらえ、批判的に思考し、グループで問題解決するという FSP の教育手法を使い、基礎演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、専門ゼミなどで社会貢献につながる様々な地域貢献プロジェクトが実践されている。東区地域連携プロジェクト（二神・村田・津村・西尾ゼミ）、キャンパス開催国際イベントでの外国人対応プロジェクト（柳沢ゼミ）、知立団地プロジェクト（津村ゼミ）、国際協力プロジェクト（クマラゼミ）、英語絵本読み聞かせプロジェクト（西尾ゼミ）である。

2. 取組の発展性について

本授業のポイントは、大学1年前期の大学生活がスタートする段階で、成功経験また失敗経験などを通じ、大学の学び、社会への貢献などのマインドセットが行えること、それが大学生活を成功させる鍵となっている。さらに、個人の力としては、問題への解決方法を自主学習し、グループ内で、仲間の意見を聞き、尊重しながら、自分の意見を述べる、リーダーとしてどうあるべきかを学び、またグループ内での役割を学び、コミュニケーション能力を育てることができる。最終的には企業または社会へ発信する力がついているといえる。

従って、本 FSP プログラムの取り組みは、名城大学での文系・理系を問わず全学部で、アカデミック・ポリシーや授業科目に差があるとしても、1年前期で行われる基礎演習やアカデミックスキル科目などを利用し、批判的思考・問題解決・コミュニケーション能力の養成という有用なモデルを提供することが可能である。従って、大学として、機会均等、教育の質は保証されると考える。

また、本授業内での、学生の学びの主体性を培うアクティブ・ラーニングを積極的に推進して

いる。ペア活動やグループ活動を通し、学生の学びが進化するアクティブ・ラーニングを基本とした授業運営や授業構築を全学における教育方法として広げていくことは十分可能である。

さらに、授業内で、WebClass や iPad などの ICT を積極的に使用することにより、学生自身の ICT の運用能力を高め、さらに、本学部他授業においても全体の効率化とつながっていることから、全学部、全授業での ICT 活用につながる事例となる。

3. その他教育活動に係る特記事項

外国語学部は、平成28年度4月にナゴヤドーム前キャンパスに新設された学部であり、FSPの授業を始め、英語コアカリキュラム、一般教養及び専門科目の英語でも授業実施など、先進的な教授方法を実践している。

外国語学部の全授業において、アクティブ・ラーニング、自律的学習を促進するタスク、iPad、WebClass、SNSなどのICTを活用した授業が展開されている。2年生からの Semester 留学及び長期留学、海外フィールドワーク、国際専門研修など様々な海外での学び、及び、海外留学生を積極的に受け入れ、国内外での共修が実践されている。

1年生前期でのFSPの授業だけでなく、外国語学部の教育全般が21世紀型教育を目指して実践されているといえ、2019年度は開講4年目となり、グローバル社会へ貢献できる人材育成をさらに進めていくつもりである。

そのために、本学部では、FD活動は全教員が参加し、互いの授業見学、評価などを通し、常に最新の効果的な教育の方法論や評価など共有し切磋琢磨し、教育の高い質保証を目指している。

7. 資 料

大学教育開発センター要項

（目的）

第1条 大学教育開発センター（以下「本センター」という。）は、全学を対象としたファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動の実施及び各学部、研究科へのFD活動・教育の質向上の取組の支援により、本大学の教育改善を推進することを目的とする。

（業務）

第2条 本センターは、前条に定める目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 教育に係る調査・研究・提言に関すること
- (2) 教員の教育力向上に関すること
- (3) 入学前教育及び入学後の学修支援に関すること
- (4) 高大連携及び接続教育に関すること
- (5) その他必要な事項に関すること

（センター長）

第3条 大学教育開発センター長は、学長の命を受けて本センターの業務を総括し、代表する。

（委員会）

第4条 本センターの業務に関する基本事項を審議し、実施するために、大学教育開発センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

② 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学教育開発センター長
- (2) 学務センター長のうち1名
- (3) 各学部から選出された教育職員 各2名
- (4) 独立研究科から選出された教育職員 各1名
- (5) 教職センターから選出された教育職員1名
- (6) 大学教育開発センター事務部長
- (7) 学務センター事務部長
- (8) その他委員長が必要と認めた者

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- ② 委員長は、大学教育開発センター長をもって充てる。
- ③ 副委員長は、委員の互選による。

(任期)

第6条 第4条第2項第3号、第4号、第5号及び第8号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

② 委員が欠けた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

② 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

③ 委員会は、委員の過半数の委員の出席により成立する。

④ 委員会の議事は、出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は、議長がこれを決する。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第9条 委員会は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

② 専門委員会の運営に関する事項は、委員会において別に定める。

(事務)

第10条 委員会の事務は、本センターが分掌する。

附 則

① この要項は、平成29年4月1日から施行する。

② 従前の「FD委員会要項」は、この要項の施行の日から、これを廃止する。

平成30年度 所属別 FD 活動参加状況

	所属	所属人数 (※1)	H30前期 授業改善 アンケート	H30後期 授業改善 アンケート	FD フォーラム	第8回 FD 学習会	教育 功労賞 (※2)	教育年報 (※3)			学外セミナー 研究会等 への派遣 (※4)
								教育 実践報告 寄稿	教育功労賞 受賞者による 特別寄稿	特色ある教養教 育、アクティブラー ニングの特集記事	
教 員	学長・副学長	5	4	3	3	0	0	0	0	0	0
	法学部	26	21	18	2	3	0	0	0	0	1
		14	12	13	2	2	0	0	0	0	1
	経営学部	計	40	33	31	4	5	0	0	0	2
		経営学科	16	15	15	6	0	0	0	0	0
		国際経営学科	14	12	12	2	1	0	1	0	0
		計	30	27	27	8	1	0	1	0	0
	経済学部	経済学科	16	16	16	5	1	0	0	0	0
		産業社会学科	11	11	9	4	0	0	0	0	0
		計	27	27	25	9	1	0	0	0	0
	理工学部	理工学部	1	0	0	0	1	0	0	0	0
		数学科	19	19	19	5	1	0	0	0	0
		情報工学科	18	17	17	3	2	0	0	0	1
		電気電子工学科	17	13	11	2	2	0	0	0	0
		材料機能工学科	12	10	9	0	0	0	0	0	0
		応用化学科	10	10	10	0	0	0	0	0	0
		機械工学科	15	13	14	10	1	0	0	0	0
		交通機械工学科	14	12	11	3	0	0	0	0	0
		メカトロニクス工学科	12	9	10	1	0	8	0	0	0
		社会基盤デザイン工学科	13	8	10	1	1	0	0	0	0
		環境創造学科	12	11	9	1	0	0	0	0	0
		建築学科	16	14	12	3	0	0	0	0	0
		教養教育	17	13	13	1	5	0	0	0	0
		計	176	149	145	30	13	8	0	0	1
	農学部	農学部	1	1	0	0	1	0	0	0	0
		生物資源学科	12	10	11	3	1	0	0	0	0
		応用生物化学科	13	13	13	1	0	0	0	0	0
		生物環境科学科	13	12	13	4	1	0	0	0	0
		教養教育等	2	0	1	0	0	0	0	0	0
		附属農場	5	1	0	0	0	0	0	0	0
		計	46	37	38	8	3	0	0	0	0
	薬学部	薬学科	66	24	29	8	4	0	1	0	0
		教養教育等	3	2	1	0	0	0	0	0	0
		計	69	26	30	8	4	0	1	0	0
	都市情報学部	都市情報学科	26	24	24	4	2	0	1	1	0
	人間学部	人間学科	21	21	21	8	3	0	0	0	1
	外国語学部	国際英語学科	25	24	24	4	1	4	2	8	0
	大学院法務研究科		14	0	0	1	0	0	0	0	1
	教職センター		8	8	8	3	1	0	0	0	0
	総合学術研究科		14	0	0	0	1	0	0	0	0
	附属高校		8	0	0	0	1	0	0	0	0
	小計	509	380	376	90	36	12	5	9	0	5
職 員	監査室	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0
	学長室	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	秘書室	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経営本部	12	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	総合政策部	7	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	総務部	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	渉外部	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	財政部	14	0	0	4	3	0	0	0	0	0
	施設部	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	スポーツマネジメント課開設準備室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入学センター	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学務センター	29	0	0	8	2	0	0	0	0	0
	保健センター	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教職センター	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	大学教育開発センター	5	0	0	5	4	0	0	0	0	22
	学術研究支援センター	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	キャリアセンター	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	国際化推進センター	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	情報センター	6	0	0	2	3	0	0	0	0	0
	社会連携センター	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	障がい学生支援センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	附属図書館	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	法学部	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経営学部	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経済学部	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理工学部	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	農学部	17	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	薬学部	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	都市情報学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人間学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外国語学部	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナゴヤドーム前キャンパス事務室	11	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	愛知総合工科高等学校専攻科	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	附属高校	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	293	0	0	35	13	0	0	0	0	23
	計	802	380	376	125	49	12	5	9	0	28

- ※1 平成30年10月1日現在。
(教員：助手を含む。終身教授、特任教授(1・2・3号)は含まない。副学長は学部から除く。／事務職員：業務職・契約職員を含む。派遣職員は含まない。)
- ※2 延べ人数。グループでの申請の場合は構成員もそれぞれ1とカウントする。
- ※3 延べ人数。共同執筆者もそれぞれ1とカウントする。なお、所属は受賞当時のものとする。
- ※4 延べ人数。

8. おわりに

あ　と　が　き

大学教育開発センター

本報告書は、本学における FD 活動や正課外教育活動についてまとめたものであり、大学教育開発センター委員会や各学部・研究科・センターの FD 活動状況及びその内容について詳細を示しております。

本学の FD 活動は、各学部・研究科・センターが主体となって FD を推進するとともに、大学教育開発センター委員会がその活動をサポートする形で企画運営や各種取組を行っています。平成12年度から始まった本学の FD はこのようにして、教育改善についての堅実な土台が形成されております。

大学教育開発センターでは、「大学教育開発センター委員会」の下、国の文教政策の動向を踏まえつつ、本学がますます発展するよう、引き続き、教育改善に取り組んでまいります。本報告書で、今年度の本学の FD 活動や正課外教育の現状をご確認いただくことで、皆様の教育改善の一助となりますことを願っております。

最後に、本報告書の企画・編集、各 FD 活動の企画・運営にご協力いただいた皆様方に、心より御礼申し上げます。

平成31年3月

発 行：名城大学 大学教育開発センター委員会

編 集：名城大学 大学教育開発センター

住 所：〒468-8502
名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

電 話：(052)838-2033

FAX：(052)833-5230

